

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第92集

# 居立(第2次)／森吉古墳／下郷

---

2007.8

深谷市教育委員会



卷頭図版 1



居立遺跡第1号堅穴建物跡



居立遺跡第1号堅穴建物跡カマド



卷頭図版2



下郷遺跡遠景



森吉古墳・下郷遺跡調査区全景



## 序

このたび、深谷市教育委員会では、「居立（第2次）／森吉古墳／下郷」の発掘調査報告書を刊行するはこびとなりました。

古墳時代～平安時代の集落跡である居立遺跡は妻沼低地にあり、5～6世紀の古墳跡が多く出土している森吉古墳と下郷遺跡は櫛挽台地上にあり、その対照的な立地からは、古代の土地利用のあり方が窺えます。恐らく、居住地は主な生産物である稲を栽培しやすい場所の近くに、墓は見晴らしが良く、居住地を見下ろす高台の上に設定したのでしょう。

また、今回報告します下郷遺跡の調査区のすぐ南には、幡羅郡家跡が広がっていることが、平成13年度に明らかになりました。森吉古墳や下郷遺跡で確認された古墳跡は、郡家の時代よりも1世紀程遡るもの、古墳に葬られた人々と郡家を運営した人々との関係については興味深いものがあります。

現在、深谷市には縄文時代から近現代までの様々な遺跡が残されています。こうした遺跡は、一度消滅すると二度と見ることのできないものであり、これを保護し、後世に伝えていくことは私たちの大きな課題です。今回の発掘調査の成果を報告書というかたちにまとめ、広く市民の皆様にご紹介することで、郷土の歴史の古さやその優れた文化について、ご理解を深めていただきたいと存じます。また、この報告書が学術研究はもとより、学校、社会教育などの生涯学習活動を通じて、皆様が歴史を考えるための資料として役立てば、望外の喜びです。

最後に、今回の発掘調査および報告書作成にあたり深いご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に心から感謝を申し上げまして序にかえます。

平成19年8月

深谷市教育委員会  
教育長 猪野幸男



## 例　　言

1. 本書は、埼玉県深谷市上増田字居立44-3における個人専用住宅建設、及び東方字森吉2980-1、-2における豚倉建設工事に伴う遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、深谷市教育委員会が主体となり、居立遺跡・下郷遺跡発掘調査については国庫補助事業、森吉古墳確認調査については深谷市単独事業として行った。
3. 発掘調査期間は、居立遺跡が平成10年7月27日～8月14日、森吉古墳及び下郷遺跡が平成10年10月2日～11月11日である。
4. 下郷遺跡は当初、東方東部遺跡として調査を行なった。遺跡の略号はHKTBである。
5. 発掘調査及び出土遺物の整理全般は主に知久裕昭、埴輪の実測・トレースは主に永井智教（現鳩山町教育委員会）が担当した。発掘調査については、古池晋禄、青木克尚の補助を受けた。報告書の執筆は知久が行なった。
6. 遺跡の基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。
7. 出土遺物は、深谷市教育委員会が保管している。
8. 発掘調査および報告書の作成にあたっては、次の諸氏から数々のご指導ご助言を賜った。  
新井　端　　太田博之　　竹野谷俊夫　　永井智教　　松田　哲　　宮本直樹　　（敬称略）

## 凡　例

1. 遺跡原点は、居立遺跡：国家方眼座標X = 22520.000、Y = - 48100.000、森吉古墳・下郷遺跡：X = 22520.000、Y = - 48100.000である。また、各遺構図における方位指示は、全て座標北を示している。
2. 遺物の実測図は、須恵器の断面を黒塗りで表現した。また、赤彩部分については、スクリーントーンで表した。
3. 遺物観察表の記載は、以下のとおりである。
  - ・計測値の単位は cm である。
  - ・器径、器高で ( ) を付したものは推定値を表す。
  - ・胎土は、肉眼で確認できた範囲での含有物を、以下のアルファベットで表した。
    - A…白色粒子、B…赤色粒子、C…黒色粒子、D…石英、E…角閃石、F…片岩
    - G…白色針状物質、H…砂礫、I…雲母
  - ・ハケメは2cm ごとの本数である。
4. 遺物の注記、および原図における遺構の略号は、次のとおりである。  
堅穴建物跡…S J、古墳跡…S T、溝…S D、土坑…S K
5. 遺構・遺物実測図の縮尺は、適宜スケールで示した。

## 発掘調査の組織

発掘調査(平成10年度)

調査主体者	深谷市教育委員会	教育長	加藤 和説
		教育次長	逸見 稔
事務局	深谷市教育委員会生涯学習課	課長	根松 文良
		課長補佐	金井 秀夫
		文化財保護係長	石川 博
		主 任	古池 晋禄
		主 任	青木 克尚
		主 事	富田 和利
		主 事	知久 裕昭

報告書刊行(平成19年度)

調査主体者	深谷市教育委員会	教育長	猪野 幸男
		教育次長	石田 文雄
		次 長	中村 信雄
事務局	深谷市教育委員会生涯学習課	課 長	澤出 晃越
		主幹兼課長補佐	武井 茂
		文化財保護係長	古池 晋禄
		主 査	森下昌市郎
		主 査	鳥羽 政之
		主 査	高村 敏則
		主 任	荻野 直美
		主 任	知久 裕昭
		主 事 補	幾島 審
		臨時職員	栗原貴世実

調査参加者

阿部ルリ子	江原 木子	大沢日出子	大澤 大美	大原 黎子	大島 周子	小野寺和子
河合 詔子	久米 紀子	倉上多美子	小沼 和子	島津 芳子	砂田伊久子	関口由美子
高田 秀子	滝沢はつえ	田中 美樹	知久 祥子	都築百合子	鳥山 譲子	中沢 モト
橋橋 道子	根岸 邦子	根本 智子	浜野 光子	藤浦 春枝	藤野ウメ子	本橋 琳子
森 光代	諸岡美樹子	陰村 敦子	吉野真由美			

# 目 次

序	
例言	
凡例	
発掘調査の組織	
I 発掘調査に至る経過	1
II 深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相	2
III 居立遺跡	5
1. 遺跡の概要	5
2. 遺構と遺物	7
a 壑穴建物跡	7
b 土坑	17
IV 森吉古墳・下郷遺跡	19
1. 遺跡の概要	19
2. 森吉古墳	22
3. 下郷遺跡	28
a 古墳跡	28
b 溝	50
c 壑穴建物跡	67
d 土坑	74
V 調査のまとめ	78
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 埼玉県の地形図	2	第11図 第1号壙穴建物跡出土遺物（4）	15
第2図 周辺の遺跡	3	第12図 第1号壙穴建物跡出土遺物（5）	16
第3図 居立遺跡の位置と発掘調査区	5	第13図 土坑実測図	18
第4図 居立遺跡第2次調査区全体測量図	6	第14図 第1号土坑出土遺物	18
第5図 第1号壙穴建物跡	7	第15図 轆轤遺跡周辺グリッド分割図	19
第6図 第1号壙穴建物跡カマド	8	第16図 森吉古墳・下郷遺跡の位置と発掘調査区	20
第7図 第1号壙穴建物跡遺物出土状況	9	第17図 森吉古墳・下郷遺跡全体測量図	21
第8図 第1号壙穴建物跡出土遺物（1）	10	第18図 森吉古墳全体測量図	23
第9図 第1号壙穴建物跡出土遺物（2）	11	第19図 森吉古墳土層断面図	25
第10図 第1号壙穴建物跡出土遺物（3）	13	第20図 森吉古墳出土遺物	27

第21図	第1号填	29
第22図	第1号填遺物出土状況	30
第23図	第1号填断面図	31
第24図	第1号填出土円筒埴輪(1)	32
第25図	第1号填出土円筒埴輪(2)	33
第26図	第1号填出土円筒埴輪(3)	34
第27図	第1号填出土円筒埴輪(4)	36
第28図	第1号填出土円筒埴輪(5)	38
第29図	第1号填出土円筒埴輪(6)	39
第30図	第1号填出土円筒埴輪(7)	40
第31図	第1号填出土円筒埴輪(8)	42
第32図	第1号填出土形象埴輪(1)	43
第33図	第1号填出土形象埴輪(2)	45
第34図	第1号填出土形象埴輪(3)	46
第35図	第1号填出土形象埴輪(4)	47
第36図	第1号填出土形象埴輪(5)	49
第37図	第1号填出土遺物	51
第38図	第2号填、第1・2号溝	52
第39図	第2号填、第1号溝遺物出土状況	53
第40図	第2号填、第1号溝断面図	54
第41図	第2号填出土円筒埴輪(1)	55
第42図	第2号填出土円筒埴輪(2)	56
第43図	第2号填出土円筒埴輪(3)	57
第44図	第2号填出土円筒埴輪(4)	59
第45図	第2号填出土形象埴輪(1)	61
第46図	第2号填出土形象埴輪(2)	62
第47図	第2号填出土形象埴輪(3)	63
第48図	第2号填出土遺物	64
第49図	第1号溝出土遺物(1)	65
第50図	第1号溝出土遺物(2)	66
第51図	第1・2号竖穴建物跡	68
第52図	第1・2号竖穴建物跡遺物出土状況	69
第53図	第1号竖穴建物跡出土遺物(1)	70
第54図	第1号竖穴建物跡出土遺物(2)	71
第55図	第2号竖穴建物跡出土遺物	72
第56図	第3号竖穴建物跡	73
第57図	第3号竖穴建物跡遺物出土状況	73
第58図	第3号竖穴建物跡出土遺物	74
第59図	土坑実測図	75
第60図	調査区出土遺物	77
第61図	幡羅郡家正倉跡	79

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	3
第2表	第1号竖穴建物跡出土遺物観察表(1)	9
第3表	第1号竖穴建物跡出土遺物観察表(2)	12
第4表	第1号竖穴建物跡出土遺物観察表(3)	14
第5表	第1号土坑出土遺物観察表	18
第6表	第1号填出土円筒埴輪観察表(1)	35
第7表	第1号填出土円筒埴輪観察表(2)	37
第8表	第1号填出土円筒埴輪観察表(3)	38
第9表	第1号填出土円筒埴輪観察表(4)	39
第10表	第1号填出土円筒埴輪観察表(5)	41
第11表	第1号填出土円筒埴輪観察表(6)	42
第12表	第1号填出土円筒埴輪観察表(7)	46
第13表	第1号填出土形象埴輪観察表	50
第14表	第1号填出土遺物観察表	51
第15表	第2号填出土円筒埴輪観察表(1)	57
第16表	第2号填出土円筒埴輪観察表(2)	58
第17表	第2号填出土円筒埴輪観察表(3)	60
第18表	第2号填出土形象埴輪観察表(1)	63
第19表	第2号填出土形象埴輪観察表(2)	64
第20表	第2号填出土遺物観察表	64
第21表	第1号溝出土遺物観察表(1)	66
第22表	第1号溝出土遺物観察表(2)	67
第23表	第1号竖穴建物跡出土遺物観察表	71
第24表	第2号竖穴建物跡出土遺物観察表	72
第25表	第3号竖穴建物跡出土遺物観察表	74
第26表	調査区出土遺物観察表	76

## 図版目次

卷頭図版1 居立遺跡第1号堅穴建物跡 居立遺跡第1号堅穴建物跡カマド

卷頭図版2 下郷遺跡遠景 森吉古墳・下郷遺跡調査区全景

図版1 第1号堅穴建物跡(1) 第1号堅穴建物跡(2) 第1号堅穴建物跡遺物出土状況

第1号堅穴建物跡カマド(1) 第1号堅穴建物跡カマド(2) 第1号堅穴建物跡カマド(3)

第1号堅穴建物跡カマド(4) 第1号堅穴建物跡カマド袖(1)

図版2 第1号堅穴建物跡カマド(2) 第1号堅穴建物跡貯藏穴 第1号堅穴建物跡管玉出土状況

第1号堅穴建物跡鋤錘車出土状況 第1号土坑 1号堅カマド袖材 繩文土器、石器 1号堅物石

図版3 1号堅1 1号堅7 1号堅8 1号堅12 1号堅13 1号堅14 1号堅15 1号堅18 1号堅20

1号堅22 1号堅26 1号堅27 1号堅32 1号堅38 1号堅40 1号堅41 1号堅43 1号堅46

図版4 1号堅47 1号堅48 1号堅49 1号堅51 1号堅52 1号堅53 1号堅54 1号堅55 1号堅58

1号堅59 1号堅60 1号堅64 1号堅70 1号堅72 1号堅73

図版5 1号堅74 1号堅75 1号堅77 1号堅80 1号堅91 1号堅92 1号堅93 1号堅94 1号土坑6

1号堅96 1号堅97 1号土坑1 1号土坑2 1号土坑3

図版6 Aトレンチ Bトレンチ Cトレンチ Dトレンチ 出土遺物 1号土坑出土遺物

図版7 調査区全景 第1号填 第1号填遺物出土状況(1) 第1号填遺物出土状況(2)

第1号填遺物出土状況(3) 第2号填 第2号填遺物出土状況(1) 第2号填遺物出土状況(2)

図版8 第1号溝 第1号溝遺物出土状況 第1・2号溝 第1号堅穴建物跡遺物出土状況 第1号堅穴建物跡

第1号堅穴建物跡カマド 第2号堅穴建物跡遺物出土状況 第2号堅穴建物跡カマド遺物出土状況

図版9 第2号堅穴建物跡カマド 第1・2号堅穴建物跡 第3号堅穴建物跡 第3号堅穴建物跡カマド

第1号土坑 第2号土坑 第3・5・9号土坑 第6号土坑

図版10 第7号土坑 第8号土坑 1号填1 1号填2 1号填3 1号填4 1号填5 1号填12 1号填13

1号填14 1号填15

図版11 1号填16 1号填17 1号填18 1号填19 1号填20 1号填21 1号填22 1号填23 1号填24

1号填25 1号填26 1号填27

図版12 1号填28 1号填29 1号填30 1号填31 1号填32 1号填33 1号填34 1号填35 1号填36

1号填46(1) 1号填46(2) 1号填47 1号填48

図版13 1号填49 1号填50 1号填51 1号填75(1) 1号填75(2) 1号填75(3) 1号填76(1)

1号填76(2) 1号填77(1) 1号填77(2)

図版14 1号填78 1号填80 1号填85 1号填82(1) 1号填82(2) 1号填出土形象埴輪 2号填1

2号填2 2号填3 2号填4

図版15 2号填5 2号填7 2号填8 2号填9 2号填12 2号填14 2号填15 2号填16 2号填17

2号填21 2号填38

図版16 2号填39(1) 2号填39(2) 2号填39(3) 2号填出土形象埴輪 1号溝出土土鍊 1号溝29

1号堅9 1号堅10 1号堅13 1号堅15 1号堅16

図版17 1号堅19 2号堅1 2号堅2 2号堅3 2号堅4 2号堅5 2号堅6 3号堅1 3号堅2

調査区1 調査区11 鉄製品 繩文土器・石器

# I 発掘調査に至る経過

深谷市は、埼玉県北部に位置し、北を群馬県との境に接する。平成18年1月1日に旧岡部町、旧川本町、旧花園町と合併し、総面積137.58km<sup>2</sup>、人口約146,500人となった。当地は農業、工業とともに盛んで、古くから深谷ネギの産地としても有名である。歴史的に見ても、後期旧石器、縄文、弥生時代、古墳時代を始め、幡羅郡や桜沢郡が造られそれぞれ郡の中心として機能していた奈良～平安時代、また百濟木道跡で郡領クラスの豪族が居宅を営んだ奈良時代、深谷上杉氏の拠点であった室町・戦国時代、宿場町として栄えた江戸時代、そして近・現代まで多くの遺跡、文化財が残され、非常に重要な土地であったことが窺える。鎌倉時代の有力御家人であった畠山重忠の本拠地として、或いは近代日本経済界を築いた渋沢栄一の生地としても良く知られる。

居立遺跡は、JR深谷駅より北東へ約4.8km、妻沼低地に立地する。標高は約31m、遺跡の範囲は約95,000m<sup>2</sup>と推定される。これまでに埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって調査が行われ、堅穴建物跡118棟、掘立柱建物跡1棟、井戸35基、土坑14基、溝16条、周溝状遺構2基が検出されている。住居跡は古墳時代後期のものが中心だが、奈良・平安時代のものもみられる。他に館或いは集落を区画するためと考えられる近世の溝も確認されている。

そのため、深谷市教育委員会では、居立遺跡周辺の広い範囲を重要な埋蔵文化財包蔵地であると考え、事前調査等を行ってきた。

平成10年6月、居立遺跡地内の深谷市大字上増田字居立44-3で個人専用住宅建設工事の実施が明らかとなった。深谷市教育委員会は施工主である大島恵一氏、大島周子氏との協議を経て、平成10年7月16日に当該地の確認調査を実施した。調査の結果、堅穴建物跡1棟と多量の土師器が検出された。この結果を踏まえ、発掘調査の実施について、市教育委員会と大島氏とで

協議を行い、工事予定地の一部について、市教育委員会が主体となって発掘調査を実施することで合意した。

市教育委員会は直ちに、文化財保護法第98条の2の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成10年7月24日付深教社発第732号）を提出し、準備に入った。

なお、埼玉県教育委員会教育長から、平成10年8月4日付教文第3-294号で指示通知を受けた。

次に、森吉古墳・下郷遺跡は、JR深谷駅より東へ約4.1km、櫛挽台地先端部に立地する。標高は約33.4m、下郷遺跡は約1,007,500m<sup>2</sup>と広大な範囲に及ぶ。遺跡は東側が熊谷市との境に接しており、熊谷市側には西別府祭祀遺跡や西別府廐寺跡が存在する。発掘調査当時は、幡羅郡家跡が発見されていなかったが、この周辺が郡家の候補地の一つとして認識されていた。そのため、深谷市教育委員会では、森吉古墳・下郷遺跡の周辺を重要な埋蔵文化財包蔵地であると考え、事前調査等を行ってきた。

平成10年8月、森吉古墳の周囲及び下郷遺跡地内の深谷市大字東方字森吉2978、2979-1、2980-1、2980-2、2984、2985-2で豚舎建設工事の実施が明らかとなった。深谷市教育委員会は施工主である橋本雄二氏と協議を経て、平成10年9月9日に当該地の確認調査を実施した。調査の結果、一部に擾乱が及んでいたものの、古墳周溝と思われる遺構や、人物埴輪等の埴輪が多量に検出された。この結果を踏まえ、発掘調査の実施について、市教育委員会と橋本氏とで協議を行い、2980-1、2980-2について、市教育委員会が主体となって発掘調査を実施することで合意した。

市教育委員会は直ちに、文化財保護法第98条の2の規定に基づき、埋蔵文化財発掘調査通知（平成10年9月22日付深教社発第938号）を提出し、準備に入った。

なお、埼玉県教育委員会教育長から、平成10年9月30日付教文第3-431号で指示通知を受けた。

## II 深谷市の地理的環境と周辺遺跡の様相

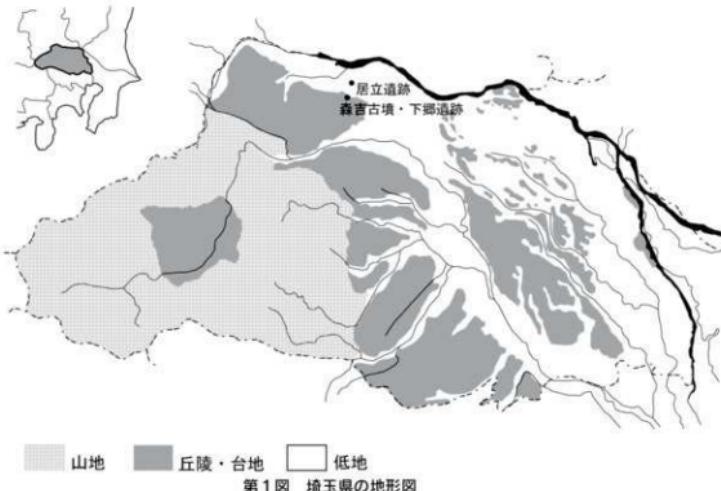
深谷市の地形を概観すると、東西に走るJR高崎線付近を境として、南側に櫛挽台地が広がり北側には妻沼低地が形成されている。櫛挽台地は荒川によって作られた古い扇状地が浸食されてできた冲積台地で、寄居付近を頂部としている。妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と並び利根川の中流低地の一つに数えられる。

櫛挽台地は構造的には、北西側の武藏野面に比定される櫛挽面（櫛挽段丘）と、南東側の立川面に比定される寄居面（御稜威ヶ原段丘）とで段丘状に形成されている。櫛挽面はほぼJR高崎線沿いの崖線で比高差5～10 mをもって妻沼低地と接しているが、寄居面は高崎線より北へ1.5～1.8 mほど延びていて、比高差2～5 mをもって妻沼低地と接している。接線付近での標高は櫛挽面が40～50 m、寄居面が32～36 m、妻沼低地が30～31 mである。櫛挽面は標高70 m付近より発する上唐沢川、押切川、戸田川、唐沢川などが北流していて、櫛挽面北端部は南北に台地を開析する浅い谷が発達したものと考えられる。発掘調査

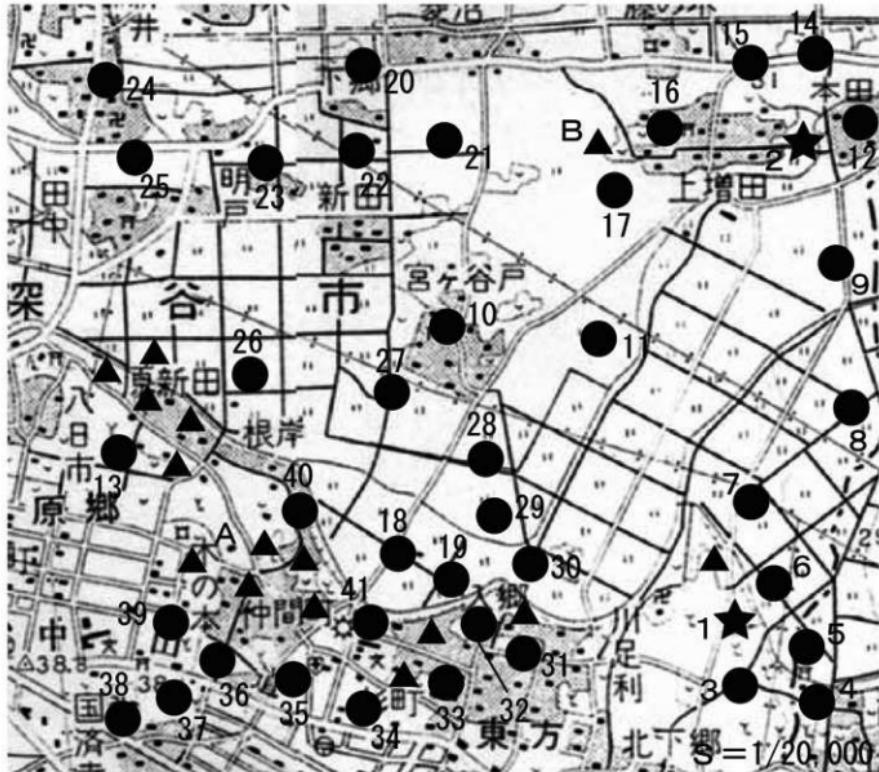
で埋没谷が検出されることも多い。また、末端には所謂先端湧水と認められる池等もある。寄居面にはこうした谷筋はほとんど認められず、妻沼低地と接する台地末端部を除き、水利上は生活に不向きだったと考えられる。

妻沼低地は、利根川右岸に広がる肥沃な低地である。南は熊谷市付近を境として秩父山塊に連なる丘陵や台地と大宮台地に挟まれた荒川低地に続き、東は加須低地に接する。妻沼低地の南端に櫛挽面、東に寄居面を控える一画に深谷市の中心部があり、周辺では住宅地が増加している。妻沼低地は現在ではかなり平坦であるが、利根川の氾濫や流路の変遷などにより、自然堤防が発達したものと考えられる。

深谷市内で確認されている旧石器時代の遺跡は多くはないが、荒川右岸の江南台地上には、細石刃や彫刻刀形石器が出土した白草遺跡がある。他に3の幡羅遺跡でナイフ形石器が1点出土している。縄文時代では、31の東方城跡で草創期の可能性がある尖頭器が出土している。幡羅遺跡、東方城跡共に櫛挽台地の先端



第1図 埼玉県の地形図



第2図 周辺の遺跡

番号	遺跡名称	時代	番号	遺跡名称	時代
1	下郷遺跡	縄文中期～後期、古墳後期～平安	23	新屋敷東遺跡	縄文中期～晩期、古墳後期～平安
2	勝立遺跡	古墳後期～平安	24	上歎免北遺跡	縄文後期～晩期、古墳後期～平安
3	轔羅遺跡	古墳後期～平安	25	本郷前東遺跡	古墳後期～平安
4	西別府廣寺遺跡	古墳後期、平安、中・近世	26	60-184	古墳後期～平安
5	西別府祭祀遺跡	古墳後期～平安	27	宮ヶ谷戸遺跡	縄文中～後期、弥生中～後期、古墳後期～平安
6	穴下遺跡	奈良、平安	28	60-249	奈良、平安
7	60-193	古墳後期～平安	29	60-189	奈良、平安
8	清水上遺跡	縄文、弥生前期、古墳前、後期～平安	30	60-191	古墳後期～平安
9	前遺跡	古墳後期～平安	31	東方城跡	縄文早期～後期、室町
10	塙の内遺跡	平安、戦国	32	60-026	縄文中期～後期、古墳後期～平安
11	東川嶺遺跡	古墳前期～後期～平安	33	60-269	縄文中期、近世
12	60-174	古墳後期～平安	34	60-209	縄文中期、古墳後期～平安
13	社前遺跡	縄文前～中期、古墳後期～平安	35	60-200	古墳後期、中世
14	城北遺跡	縄文中期、古墳後期～平安	36	60-199	縄文中期、古墳後期～平安
15	60-172	古墳後期～平安	37	60-196	平安
16	増田氏館跡	室町	38	厅幕和城跡	南北朝
17	原遺跡	弥生後期、古墳、中世	39	常盤町東遺跡	縄文前期～中期、古墳後期
18	60-190	古墳後期～平安	40	根岸遺跡	縄文中期～後期、古墳後期～平安、中・近世
19	城下遺跡	縄文中期～後期、古墳後期～平安、中・近世	41	杉町遺跡	縄文中期、古墳後期～奈良、平安、近世
20	60-179	奈良、平安	A	木ノ本古墳群	古墳後期
21	明戸東遺跡	縄文中期～後期、弥生中～後期、古墳後期～平安	B	上増田古墳群	古墳後期
22	新田裏遺跡	奈良、平安、中世			

第1表 周辺の遺跡一覧表

部に位置している。また、それより南西に位置する小台遺跡からは、早期押型文土器や前期黒浜式土器、諸磯式土器の破片が出土している。

縄文中期、特に後半になると遺跡数やその規模は増大する。中でも上野台の小台遺跡は、多量の土器や石器を包含する埋没谷を中心に住居や土坑群が展開する。遺構は中期中葉～後期前葉までのものがこれまでに検出されている。小台遺跡と時期的に重なる遺跡は数多く、小河川を挟んで小集落が多数分布していたか、集落が移動していたものと思われる。

縄文後・晩期になると、縄文人の生活域の中心は櫛挽台地から妻沼低地へと移っていく。21の明戸東遺跡では後期初頭の住居跡、24の上敷免北遺跡では後期後葉の遺物包含層が検出されるなどしている。そして上敷免遺跡では、包含層から在地の後・晩期の資料に混じり、東海系条痕文土器が検出されたり、埼玉県では初の遠賀川系の壺が検出されるなど、他地域との交流を考えさせられる。また遺構が検出されなくても、妻沼低地にある遺跡を調査すると、ほとんどの場合に縄文後期の土器片が検出される状況である。

弥生時代に入ると、上敷免遺跡で中期の再葬墓と、若干時期が下る住居跡が同一の自然堤防上に確認され、弥生時代の集落のあり方を考える上で注目される。岡の四十坂遺跡も該期の代表的な遺跡である。弥生時代後期から古墳時代中期の遺跡の分布状況は明確ではないが、古墳時代前・中期の遺跡は最近調査例が増加している。

古墳時代後期前半になると遺跡数は爆発的に増加し、妻沼低地の自然堤防上に大規模な集落が営まれる。2の居立遺跡もその1つである。また、この時期に小規模な円墳が数多く造られるようになり、幾つかの古墳群を形成する。中でも代表的なものに、櫛挽台地の先端部に形成される木の本古墳群や白山古墳群がある。今回報告する森吉古墳や1の下郷遺跡内において確認された古墳群は、木の本古墳群の東端に位置する。大部分は20～30m規模の円墳で、台地の縁辺に沿って構築される。

7世紀頃には、それまでの大集落は縮小傾向になり、代わって27の宮ヶ谷戸遺跡や11の東川端遺跡、8の清水上遺跡等の、幡羅郡家跡と推定される3の幡羅遺跡に比較的近い位置にある集落規模が拡大する傾向がみられる。律令期には、深谷市の東部は幡羅郡、西部は桙沢郡、南部は男衾郡に属すると考えられる。桙沢郡の郡家跡は岡の中宿遺跡で発見されている。また、幡羅郡家跡である東方の幡羅遺跡は、その範囲、内容を確認するための調査が継続中である。23の新屋敷東遺跡からは、正倉別院の可能性のある大型建物跡が検出されている。

平安時代末期以降は、猪俣党武士団の居館が各地に出現する。代表的なのは、県指定史跡にもなっている人見館跡である。また、鎌倉街道上道の跡が、旧川本町域から旧花園町域に残る。そして室町時代以降は深谷上杉氏が活躍する。深谷上杉氏は、当初38の庁鼻和城に居を構えたと言われるが、5代目房憲の時に、古河公方勢力との戦闘に備え、より堅固な深谷城に移ったとされる。深谷城跡の北東約1kmには、深谷上杉氏の宿老岡谷香丹が築いたと言われる皿沼城跡があり、北方の守りを堅固なものにしている。また、香丹が隠居後に移ったとされる曲田城跡が北西にある。東に約3kmの台地の先端部には、31の東方城跡がある。周辺には家臣の館が分布していたと思われ、南方約1.8kmには、家臣の館跡である秋元氏館跡、南西約2.8kmには、古河公方勢力を牽制し人見地域を防衛するために築かれたと考えられる館跡が検出された押切遺跡が存在する。また、割山西遺跡では、伝承等が一切残っていないが、方形の区画溝が検出され、館跡と考えられている。

江戸時代になると、深谷城は程なく廃城となり、深谷の大部分は天領となる。また、岡部には岡部藩があり、陣屋が構えられた。

III 居立遺跡

## 1 遺跡の概要

居立遺跡は、妻沼低地に位置し、自然堤防上に営まれた集落跡である。面積は約 95,000 m<sup>2</sup>である。今回報告する調査区の南西部が、埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって調査され、古墳時代後期のものを中心とし 10世紀代までの竪穴建物跡 118 棟、掘立柱建物跡 1 棟、井戸 35 基、土坑 14 基、溝 16 条、周溝状遺構 2 基が検出されている。遺跡の時期は、古墳時代後期から近世にまで亘る。奈良時代頃の竪穴建物跡からは、鉄製の鉄が出土しており注目される。近世のものでは、館又は集落を区画すると考えられる溝が検出されている。

居立遺跡の北側には、間に旧流路を隔てて、6世紀前半を中心とする集落跡の城北遺跡がある。更に北側には柳町遺跡があり、周辺一帯には古墳時代後期を

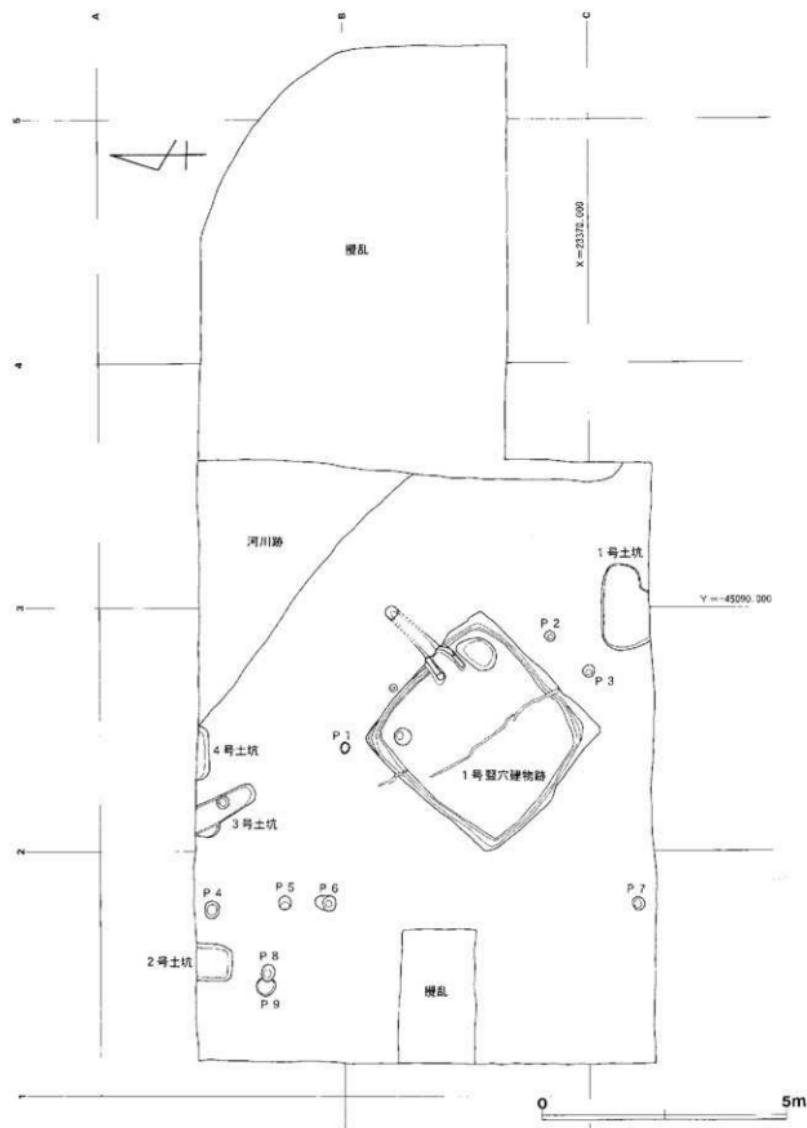
中心とした大集落が営まれていることが確認されている。両遺跡は居立遺跡と同様に県埋蔵文化財調査事業団によって調査されており、城北遺跡からは157棟の竪穴建物跡や5ヶ所の祭祀跡、多量の土器の他に人骨や獣骨等も出土している。柳町遺跡からも多量の土器が出土し、118棟もの竪穴建物跡が検出されている。

深谷市教育委員会で行った第1次調査は、は場整備に伴う水路部分の調査である。調査面積は狭小であり、出土遺物は少ない。

今回報告する第2次調査区は、県による調査区の北西に位置し、住居跡の密集する場所からやや離れた場所と思われる。実際、旧河川の跡が検出されており、居立集落の外縁部であったのであろう。検出された1棟の竪穴建物跡は7世紀のもので、非常に残りが良かった。特にカマドは、遺存状態だけでなく、袖の造り方が特殊であり、特筆すべきものである。



第3図 屋立遺跡の位置と発掘調査区



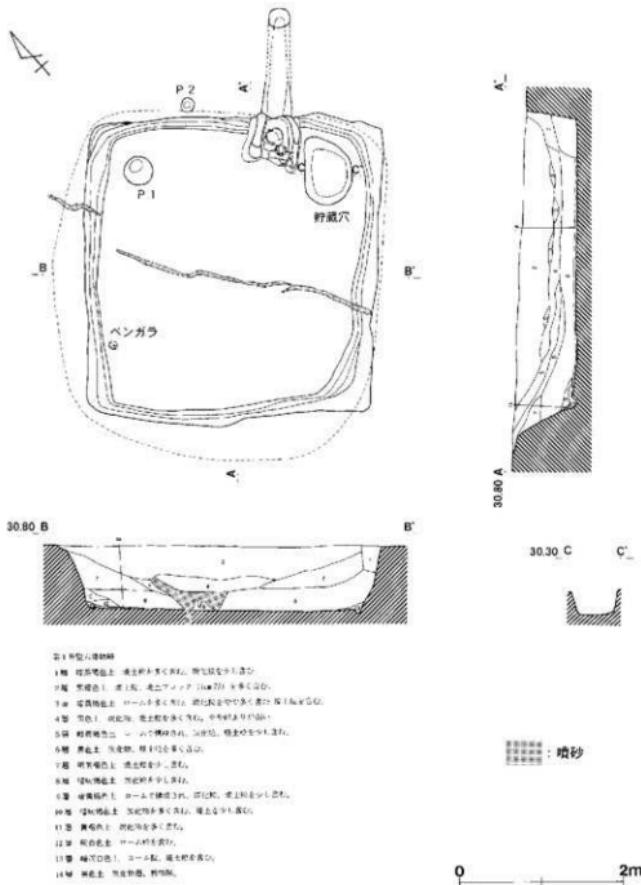
第4図 居立遺跡第2次調査区全体測量図

## 2 遺構と遺物

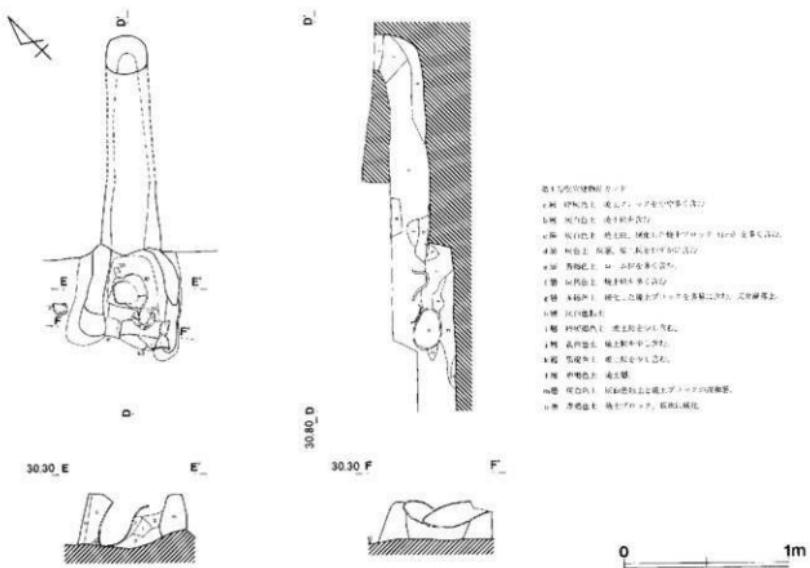
### a 壇穴建物跡

#### 第1号壇穴建物跡（第5～7図）

調査区のはば中央に位置する。洪水に起因すると思われる堆積土のため、確認面における平面プランは明瞭ではなかったが、壇穴建物部分を含む円形に近い範囲で、多量の遺物を包含する黒色土が確認された。方形のプランは、黒色土を約30cm 挖り下げたところで



第5図 第1号壇穴建物跡



第6図 第1号竪穴建物跡カマド

明らかとなった。黒色土は覆土中層にかけてレンズ状に堆積しており、土器の他に炭化物や焼土を多量に含んでいた。

平面形は方形で、規模は一辺約3.7m、確認面から床面までの深さは約80cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、上部については不明瞭であった。主軸方位はN-45°-Eである。

床面はほぼ平坦で、硬く縮まる。床面直上にはほぼ全体から薄い炭化物層が確認された。炭化物は編物状であり、敷物としていたムシロ等が炭化したものとみられる。

カマドは北東壁やや東寄りに造られる。燃焼部は幅38cm、奥行き56cmで、竪穴内に収まる。煙道は天井が遺存する。幅40cm、高さ23cm、長さ132cm、確認面から底面までの深さ40cmを測る。袖は灰白色粘土と焼土ブロックにより造られるが、外面より被熱し、外側が板状に硬化している。焚き口天井部には2

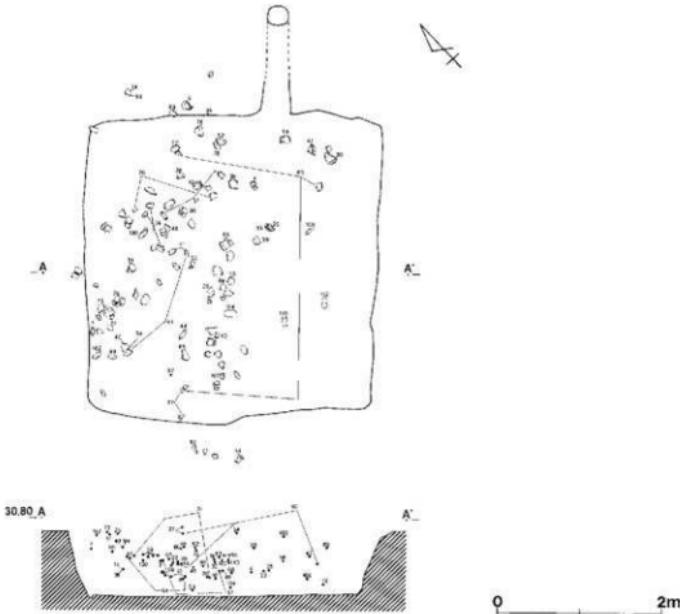
個体の甕が組み合わされて架かる。その上からは、ほぼ完形の甕が出土した。カマド内からは、甕がほぼ使用時の状態で出土した。

貯藏穴は東隅のカマド脇に造られる。平面形は長径83cm、短径56cmの長楕円形を呈する。底面はほぼ平坦で、床面からの深さは30cmを測る。

壁溝は全周しており、幅12~20cm、床面からの深さは5cmを測る。ピットは、北隅部から1基確認された。P1は径34cm、床面からの深さ57cmを測る。また、北西壁際の床面上から、ベンガラが出土した。

本竪穴建物跡からは、南北を分断するように噴砂が確認された。噴砂は床面を貫き、覆土中層にまで達する。

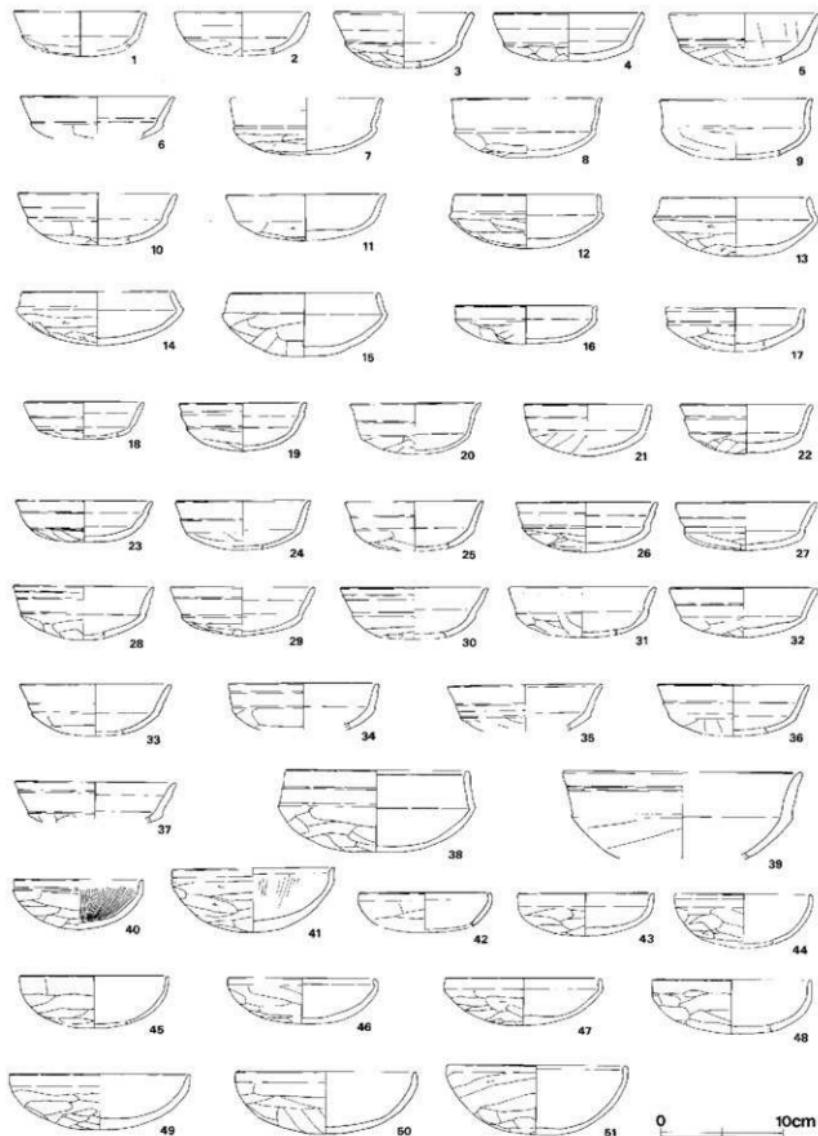
出土遺物の時間幅はやや大きいが、遺構の時期は概ね7世紀前半~中葉で、7世紀中葉~後半にかけて埋没したと推定される。



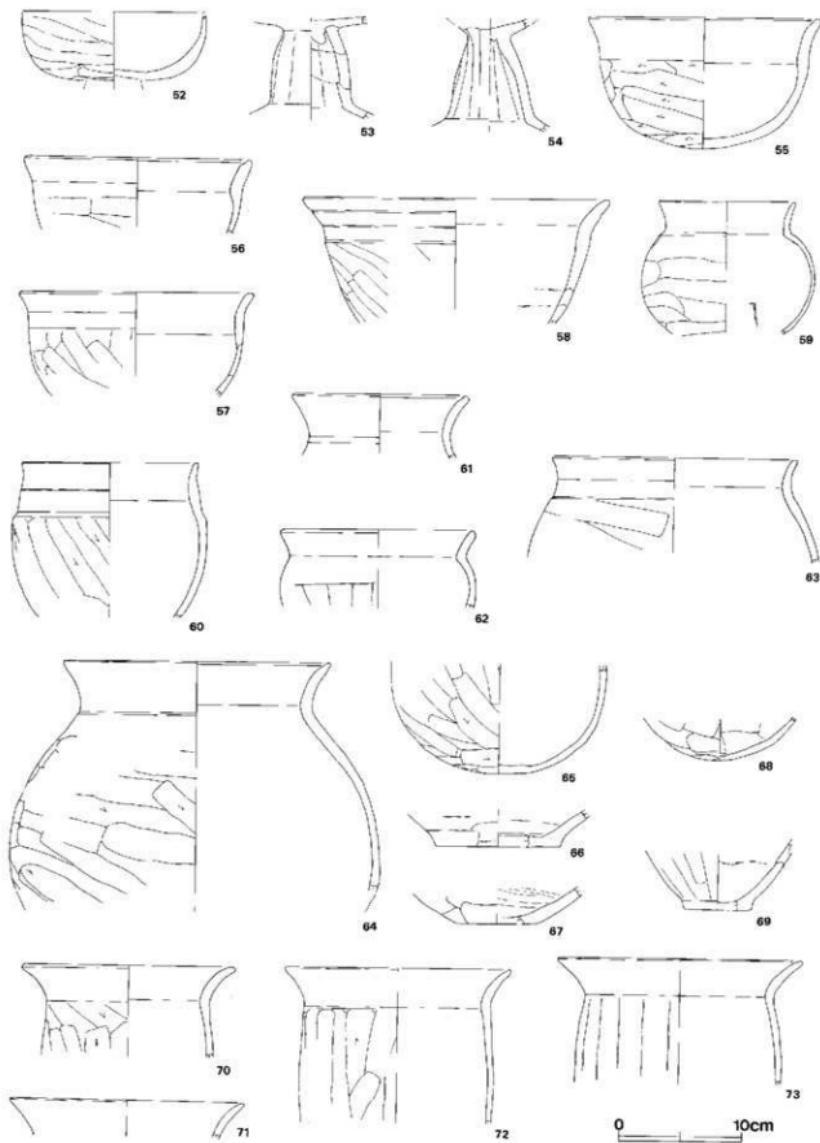
第7図 第1号竪穴建物跡遺物出土状況

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	环	10.8	(3.7)	-	A B C E	普	灰橙	60%	
2	环	(10.8)	(3.6)	-	A B C D E	良	にふい橙	25%	
3	环	(11.0)	(4.6)	-	A C D E	普	黑褐	35%	
4	环	12.2	3.9	-	A B C E	普	暗褐	30%	
5	环	(12.2)	(4.3)	-	A B C D E	普	橙	25%	
6	环	(12.4)	-	-	A B C D E	普	灰橙	25%	
7	环	12.2	4.6	-	A B C D E	普	灰橙	90%	
8	环	12.2	4.8	-	A B C D E	普	橙	100%	
9	环	(12.2)	(4.9)	-	A B E	普	橙	25%	
10	环	(13.0)	(4.2)	-	A B C D E	普	橙	20%	
11	环	(13.0)	3.7	-	A B C D E	普	橙	40%	
12	环	11.8	4.3	-	A B C D E	良	赤橙	75%	
13	环	12.0	4.7	-	A B C D E	普	黄橙	95%	
14	环	12.3	4.4	-	A B D E	普	橙	75%	
15	环	(12.0)	5.2	-	A B C E	良	赤橙	70%	
16	环	(11.4)	3.1	-	A B C E	普	橙	40%	
17	环	(11.4)	(3.6)	-	A B C D E	普	橙	25%	

第2表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表 (1)



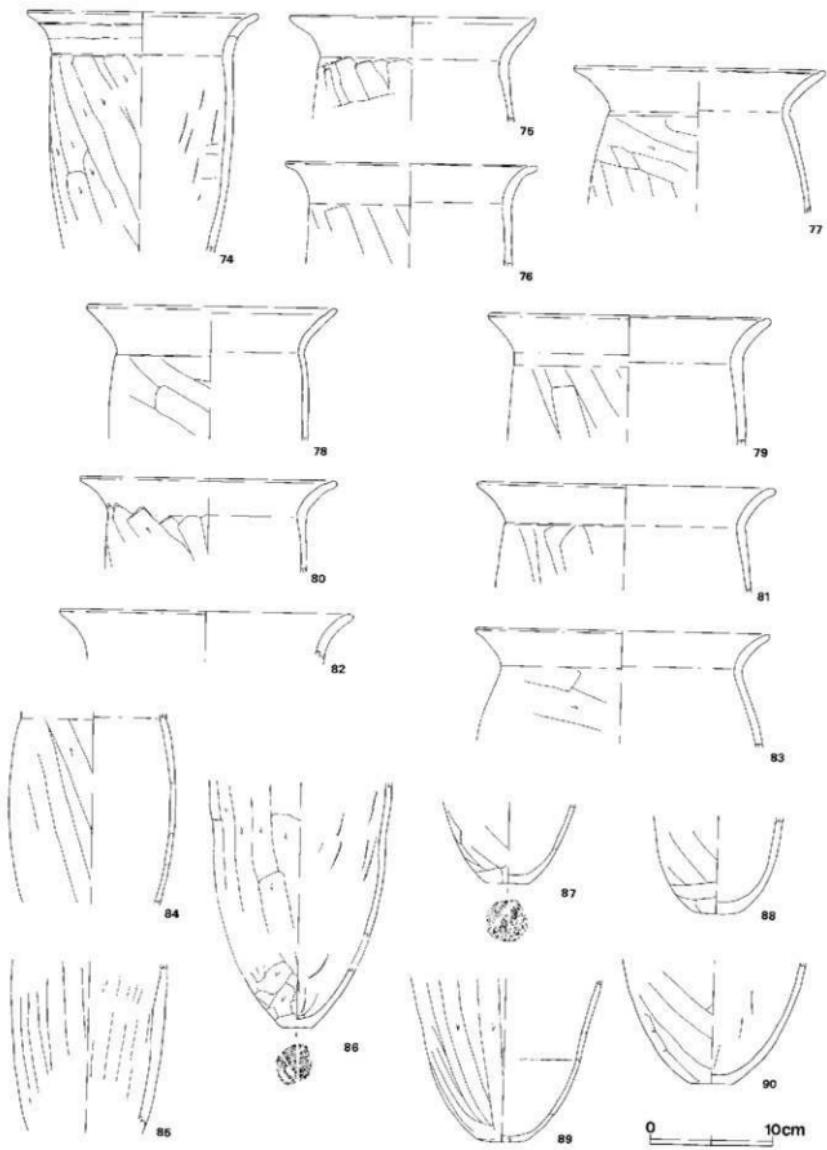
第8図 第1号竪穴建物跡出土遺物（1）



第9図 第1号竪穴建物跡出土遺物（2）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
18	壺	9.8	(3.0)	-	A B C D E	普	橙	60%	
19	壺	(10.2)	3.9	-	A B C D E	普	黄橙	20%	
20	壺	10.5	4.1	-	A B C D E H	普	明橙	80%	
21	壺	(10.2)	4.2	-	A B C D E	普	橙	30%	
22	壺	10.8	4.0	-	A B C E	良	橙	95%	
23	壺	(11.2)	3.4	-	A B C D E	普	赤褐	30%	
24	壺	(10.8)	(4.0)	-	A B C E	普	橙	30%	
25	壺	(11.0)	(4.1)	-	A B C D E	普	にふい橙	25%	
26	壺	11.5	4.1	-	A B C D E	普	橙	80%	
27	壺	11.3	3.9	-	A B C D E	普	暗褐	100%	
28	壺	(11.4)	(4.4)	-	A B C D E	普	橙	40%	
29	壺	(11.8)	4.0	-	A B C E	良	赤橙	30%	
30	壺	(12.0)	(4.2)	-	A B C D E	普	橙	25%	
31	壺	(12.0)	(4.1)	-	A B C D E	普	橙	30%	
32	壺	12.0	4.0	-	A B C D E	普	橙	90%	
33	壺	12.0	(4.2)	-	A B C D E H	普	橙	30%	
34	壺	(12.0)	-	-	A B C E	普	黄橙	25%	
35	壺	(12.6)	-	-	A B C E	普	橙	25%	
36	壺	(12.2)	(4.2)	-	A B C D E	普	暗褐	20%	
37	壺	(13.0)	-	-	A B C D E	普	橙	20%	
38	壺	(14.8)	6.7	-	A B C E H	普	橙	30%	
39	壺	(19.0)	-	-	A B C D E I	普	橙	10%	
40	壺	10.5	4.0	-	A B C E H	良	橙	95%	内面に放射状暗文 磨耗が激しいが、 わずかに暗文を確認
41	壺	13.1	5.2	-	A B C D E H	普	橙	95%	
42	壺	(10.6)	(3.2)	-	A B C D E	良	にふい橙	15%	
43	壺	11.0	3.4	-	A B C E	良	橙	100%	
44	壺	(11.0)	(3.3)	-	A C E	良	にふい橙	40%	
45	壺	(12.0)	(4.2)	-	A D E	普	にふい橙	40%	
46	壺	11.8	3.7	-	A B C D E	普	橙	90%	
47	壺	(11.6)	3.8	-	A B C D E	普	にふい橙	50%	
48	壺	(13.0)	(4.3)	-	A B E	良	橙	40%	
49	壺	(14.8)	4.4	-	A B C D E	普	橙	40%	
50	壺	(14.6)	5.1	-	A B C D E	普	橙	35%	
51	壺	14.5	5.7	-	A B C D E I	普	にふい橙	80%	
52	高壺	(15.0)	-	-	A B C E	良	灰褐	30%	
53	高壺	-	-	-	A B C E F	良	赤橙	30%	
54	高壺	-	-	-	A B C E	良	赤橙	40%	
55	鉢	18.8	10.7	-	A B C D E	良	にふい橙	50%	
56	鉢	18.2	-	-	A B C D E	普	橙	15%	
57	鉢	(19.0)	-	-	A B C E H	良	にふい橙	25%	
58	鉢	(24.8)	-	-	A B C D E H	普	灰橙	30%	
59	壺	11.0	-	-	A B E	良	橙	60%	
60	壺	14.4	-	-	A B C D E H	普	橙	30%	
61	壺	14.0	-	-	A B C E H	良	橙	15%	
62	壺	(15.4)	-	-	A B C D	良	赤橙	5%	
63	壺	(19.8)	-	-	A B C E H	普	橙	5%	
64	壺	(21.6)	-	-	A B C E H	普	にふい橙	40%	
65	壺	-	-	-	A B C D E H	普	にふい橙	30%	
66	壺	-	-	(10.0)	A B C D E	良	赤橙	5%	

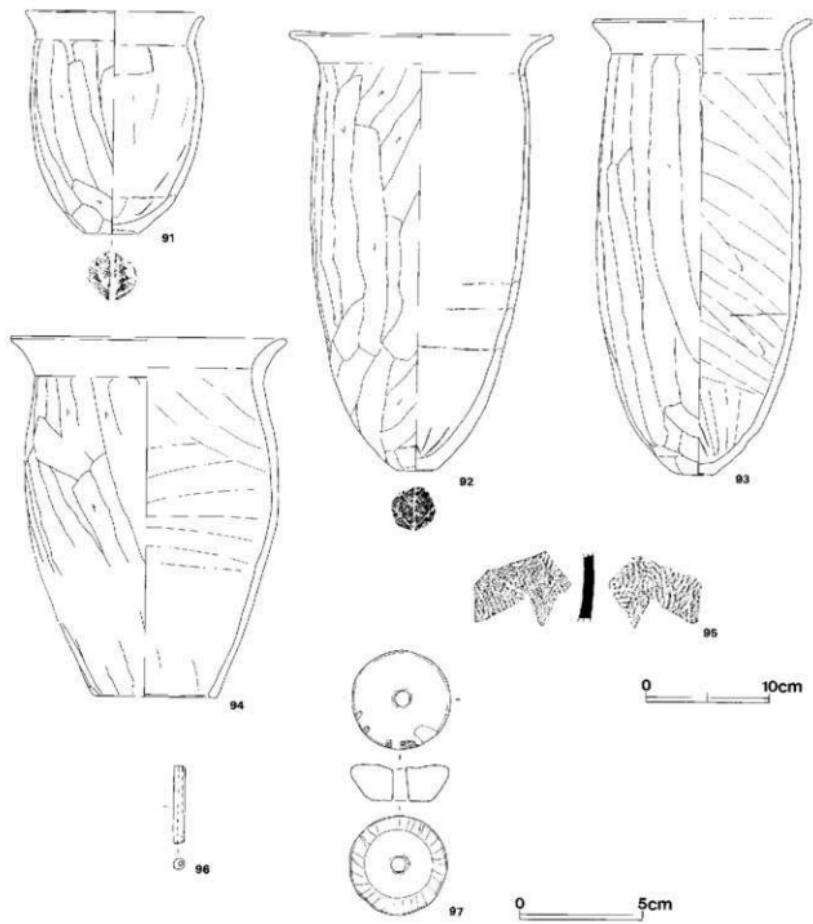
第3表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(2)



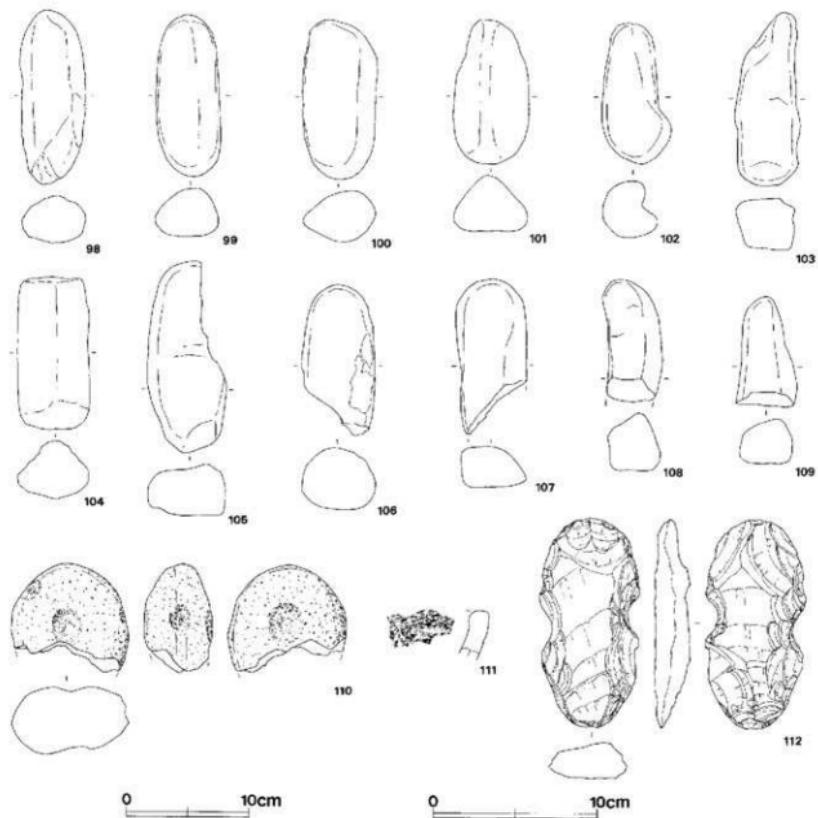
第10図 第1号竪穴建物跡出土遺物（3）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
67	壺	-	-	(6.4)	A B C D H	普	にぶい橙	5%	
68	壺	-	-	-	A B C D E H	普	にぶい橙	5%	
69	壺	-	-	(5.2)	A B C E H	良	橙	5%	
70	甕	(17.0)	-	-	A B C D E H	普	にぶい橙	15%	
71	甕	(19.0)	-	-	A B C E H	普	橙	5%	
72	甕	(18.4)	-	-	A B C E H	普	橙	20%	
73	甕	(20.0)	-	-	A B C D E H	普	橙	10%	
74	甕	(18.6)	-	-	A B C E H	普	橙	25%	
75	甕	20.0	-	-	A B C D E H	普	橙	20%	
76	甕	(20.4)	-	-	A B C D E H	普	橙	5%	
77	甕	20.2	-	-	A B C E H	普	にぶい橙	25%	
78	甕	(20.2)	-	-	A B C E H	良	橙	15%	
79	甕	(22.4)	-	-	A B C E H	良	黒褐	10%	
80	甕	20.7	-	-	A B C E H	普	橙	25%	
81	甕	(24.0)	-	-	A B C D E H	普	にぶい橙	5%	
82	甕	(23.8)	-	-	A B C D E H	普	にぶい橙	5%	
83	甕	(23.8)	-	-	A B C D E H	普	橙	5%	
84	甕	-	-	-	A B C E H	普	橙	5%	
85	甕	-	-	-	A B C D E H	普	にぶい橙	10%	
86	甕	-	-	2.3	A B C E H	普	にぶい橙	25%	底面に木葉痕
87	甕	-	-	3.4	A B C E	普	にぶい橙	5%	底面に木葉痕
88	甕	-	-	4.0	A B C E H	普	にぶい橙	10%	
89	甕	-	-	4.0	A B C D E H	普	にぶい橙	25%	
90	甕	-	-	3.6	A B C D E H	普	暗褐	15%	
91	甕	14.4	18.2	4.0	A B C D E H	普	にぶい橙	95%	底面に木葉痕
92	甕	21.4	35.8	3.0	A B C D E H	良	にぶい橙	95%	底面に木葉痕
93	甕	17.4	37.2	2.6	A B C E H	普	橙	95%	
94	甕	22.2	29.2	10.0	A B C E H	普	橙	40%	
95	須恵甕	-	-	-	A C F	良	灰	-	
96	管玉	長 3.1	幅 0.4	厚 0.4	石材 碧玉				重さ 0.87 g
97	紡錘車	長 4.0	幅 4.0	厚 1.5	石材 滑石				重さ 39.45 g
98	編物石	長 14.2	幅 5.2	厚 3.8	石材 片岩				重さ 430 g
99	編物石	長 13.1	幅 5.3	厚 3.9	石材 砂岩				重さ 470 g
100	編物石	長 13.0	幅 5.9	厚 4.1	石材 砂岩				重さ 450 g
101	編物石	長 11.7	幅 6.1	厚 4.6	石材 砂岩				重さ 470 g
102	編物石	長 11.4	幅 5.6	厚 4.6	石材 安山岩				重さ 320 g
103	編物石	長 14.1	幅 5.4	厚 4.1	石材 チヤート				重さ 510 g
104	編物石	長 12.3	幅 5.8	厚 4.7	石材 片岩				重さ 530 g
105	編物石	長 15.5	幅 6.4	厚 4.2	石材 砂岩				重さ 710 g
106	編物石	長 -	幅 5.9	厚 5.0	石材 砂岩				重さ 490 g
107	編物石	長 -	幅 5.5	厚 3.3	石材 砂岩				重さ 360 g
108	編物石	長 -	幅 4.2	厚 4.4	石材 砂岩				重さ 320 g
109	編物石	長 -	幅 4.8	厚 3.7	石材 砂岩				重さ 250 g
110	凹石	長 -	幅 9.6	厚 5.5	石材 安山岩				重さ 200 g
111	鏽文土器	-	-	-	A B C E H	不良	灰褐	-	L Rの鏽文が施される
112	打製石斧	長 12.7	幅 6.1	厚 2.2	石材 ホルンフェルス				重さ 200 g

第4表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（3）



第11図 第1号竪穴建物跡出土遺物（4）



第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物（5）

**第1号竪穴建物跡出土遺物**（第8～12図、第2～4表）  
図示できた遺物は112点である。1～94は土師器で、1～11は坏蓋模倣坏、12～17は坏身模倣坏、18～39は有段口縁坏、40～41は暗文坏、42～51は北武藏型坏である。52～54は高坏、55～58は鉢、59～69は壺、70～93は甌、94は瓶である。95は須恵器甌である。

96は碧玉製の管玉である。長さ3.1cm、幅0.4cmを測り、径1mmの孔が穿たれる。97は滑石製の筋錐車である。径4.0cm、厚さ1.5cmを測り、径5mm

の孔が穿たれる。周縁に放射状の線刻が施される。98～109は編物石である。

110～112は縄文時代の遺物である。110は凹石である。安山岩製で、両面及び側面に使用部が認められる。111は縄文土器の口縁部資料である。112は分割型の打製石斧である。ホルンフェルス製で、全面に調整がなされる。

## b 土 坑

### 第1号土坑（第13・14図、第5表）

調査区南部に位置する。平面形は不整橢円形で、長径 173cm を測る。底面は平坦で、確認面からの深さは 14cm である。

出土遺物はやや多く、図示できた遺物は、第14図 1～7 である。1～3 は壺、4 は壇、5 は瓶、6～7 は甕である。

古墳時代中期の所産と思われる。

### 第2号土坑（第13図）

調査区北西部に位置し、北半は調査区外にある。平面形は長方形と思われ、短軸 57cm を測る。底面は平坦で、確認面からの深さは 24cm である。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第3号土坑（第13図）

調査区北部に位置し、北部は調査区外にある。平面形は溝状で、短軸 46cm を測る。底面は平坦で、確認面からの深さは 21cm である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面からの深さ 28cm のピットが 1 基確認された。

図示できる遺物は出土しなかった。

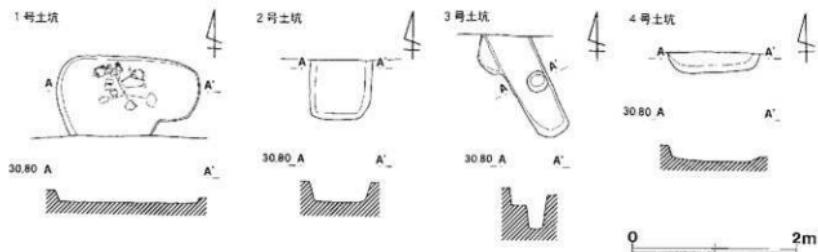
### 第4号土坑（第13図）

調査区北部に位置し、北部は調査区外にある。平面形は不明で、一辺 120cm を測る。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さ 30cm を測る。

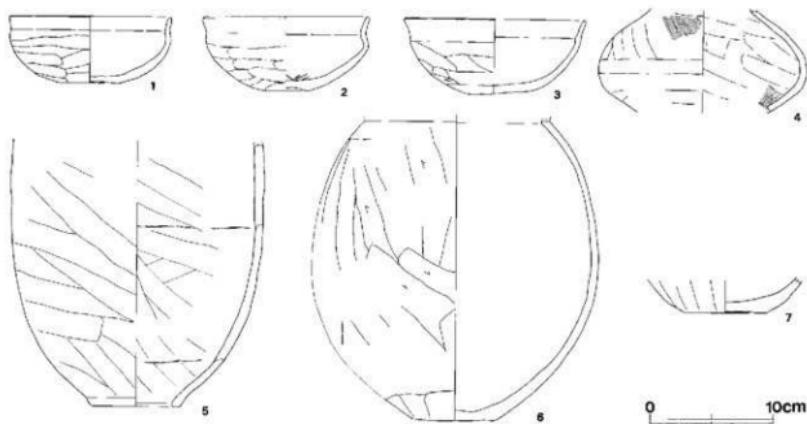
図示できる遺物は出土しなかった。



第1号竖穴建物跡調査風景



第13図 土坑実測図



第14図 第1号土坑出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	壺	(13.0)	5.4	(4.8)	A B C E	良	赤橙	50%	
2	壺	13.4	6.0	3.8	A B C	良	赤橙	90%	
3	壺	(14.6)	6.0	4.8	A B C D E	普	橙	80%	
4	壺	-	-	-	A B C D E	普	赤橙	25%	ハケメがわずかに観察できる。
5	甌	-	-	(7.0)	A B C D E	普	橙	25%	
6	甌	-	-	6.7	A B C E F H	普	橙	30%	
7	甌	-	-	6.7	A B C D E H	普	橙	5%	

第5表 第1号土坑出土遺物観察表

## IV 森吉古墳・下郷遺跡

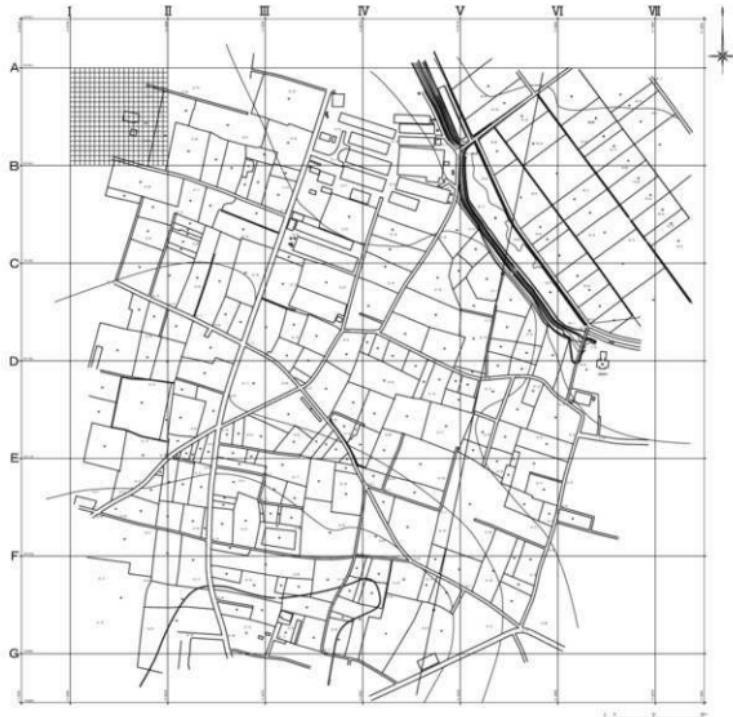
### 1 遺跡の概要

両遺跡は、熊谷市との境に位置する。下郷遺跡は約970,000 m<sup>2</sup>に及ぶ広大な遺跡であり、台地の先端に築かれる古墳群は、深谷市原郷から分布する木の本古墳群の東端である。

古墳群の南には、7世紀後半～末頃に評家が建設され、10世紀前半まで維持される。評・郡家跡の幡羅遺跡と下郷遺跡とは重なり合つたものであり、おおよその郡家域について幡羅遺跡として扱っている。

今回報告する森吉古墳及び下郷遺跡については、幡

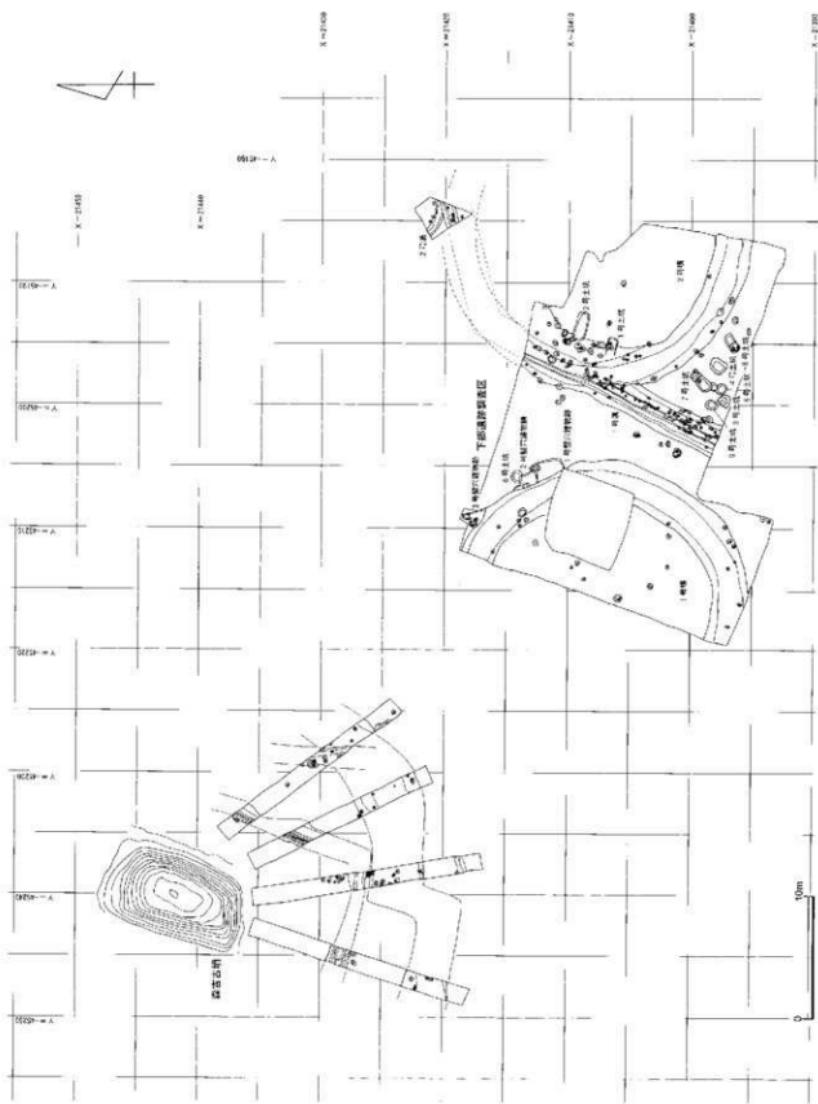
羅遺跡が発見される以前の調査であり、調査時には一部が郡家域に含まれていることなど予想だにしていなかったが、下郷遺跡で検出された第1号溝は正倉院の区画溝であった可能性も考えられる。そのため、報告に際しては、幡羅遺跡の調査との整合性を図るため、共通のグリッドを用いることとする。グリッドは、100 × 100 mの大グリッドを設定し、内部を5×5 mの小グリッドに分割した。小グリッドは、北西隅から平行式に1～400と呼称した。



第15図 幡羅遺跡周辺グリッド分割図



第16図 森吉古墳・下郷遺跡の位置と発掘調査区



第17図 森吉古墳・下郷遺跡全体測量図

## 2 森吉古墳

A-III-211～A-III-335 グリッドに位置する。墳丘は西側を道路により切られる等するが、長軸約 12.2 m、短軸約 6.5 m、高さ約 1.2 m が残存している。墳頂部には現在、稻荷様が祀られ、地元では「トオカキ」と呼ばれている。調査では、残存する墳丘の南～南東に幅約 1.6 m のトレンチを 4 本設定した。確認された遺構は、溝 3 条、土坑 2 基である。

### a 検出遺構

#### 第1号溝（第 18～19 図）

第1号溝は幅約 3.7～5.4 m、確認面からの深さは約 0.4～0.8 m を測る。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。東部で第2号溝に切られる。形態から、森吉古墳の周堀と思われる。森吉古墳は墳丘径約 32 m の造り出し付き円墳、或いは帆立貝形古墳と推定される。古墳に伴う可能性のある遺物は非常に少ないので、古墳の時期は不明である。

#### 第2号溝（第 18～19 図）

第2号溝は A トレンチで確認され、第1号溝を切る。幅約 1.6 m、断面形は楕円形で、確認面からの深さは 80cm を測る。

図示できる遺物は出土しなかつたが、馬と思われる獣骨が多く出土した。遺構の時期は中世と推定される。

#### 第3号溝（第 18～19 図）

第3号溝は幅約 1.8 m、確認面からの深さ約 24cm で、中央付近が更に 8 cm 程深くなる。墳丘部を囲むように方形に巡っている。図示できなかつたが、出土遺物から近世の所産と思われる。墳頂部の稻荷祠を区画する溝として捉えられようか。

#### 第1号土坑（第 18～19 図）

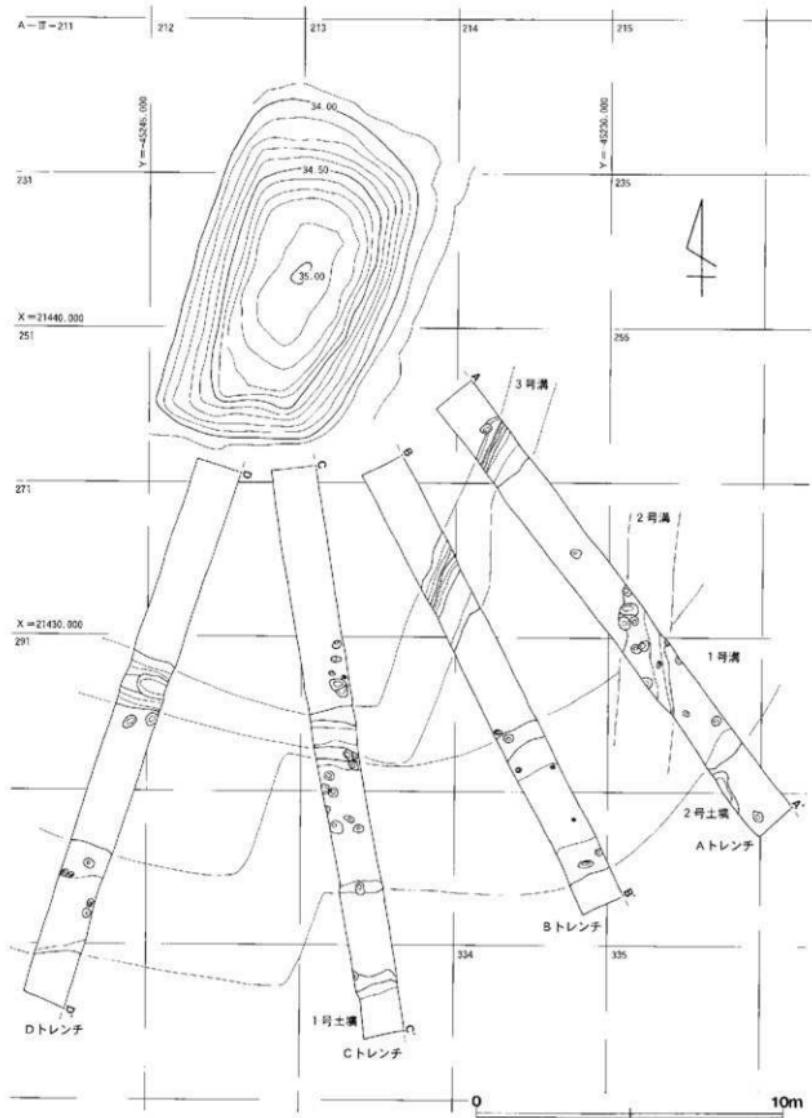
第1号土坑は、C トレンチ南端部で確認された。底

面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。第2号土坑は A トレンチ南部で確認された。確認面からの深さは 88cm を測る。

### b 出土遺物

図示できた遺物は、第 20 図 1～12 である。1～8 は第1号溝出土である。1 は剥片で、長さ 11.6cm、幅 5.0cm、厚さ 2.8cm を測る。石材は砂岩である。2～3 は円筒埴輪である。2 は口縁部資料で、焼成は良好、色調は赤褐色を呈する。外面はナナメタテハケ、内面はナナメハケが施される。ハケメは 7 本／2 cm である。胎土には白・赤色粒、石英、角閃石、砂礫を含む。3 は焼成は良好、色調はにぶい褐色を呈する。外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。ハケメは 6 本／2 cm である。突帯は M 字形で、胎土には白・赤・黒色粒、砂礫を含む。4 は須恵器蓋である。推定口径 20.0cm を測り、焼成は不良、色調は灰色を呈する。胎土に白・赤・黒色粒、片岩、砂礫を含む。残存率は 20% である。5 は須恵器蓋である。焼成は良好、色調は青灰色を呈する。胎土には白・黒色粒、片岩、砂礫を含む。6 はロクロ土師器の小皿である。推定底径 6.2cm を測り、焼成は普通、色調は浅黄色を呈する。胎土には白・黒色粒、角閃石を含む。残存率は 15% である。7 はロクロ土師器の高台楕である。底径 5.0cm を測り、焼成は普通、色調は橙色を呈する。胎土には白・黒色粒、角閃石を含む。残存率は 40% である。8 は硬質陶器の鉢である。焼成は良好、色調はにぶい赤褐色を呈する。胎土に白・黒色粒、砂礫を含む。第1号溝は森吉古墳の周堀である可能性が高いが、明らかに後世の遺物が多く混入する状況である。

9 は第1号土坑出土の土師器甕である。底径は 9.5cm を測り、焼成は普通、色調は黒褐色を呈する。胎土には白・黒色粒、角閃石、砂礫を含む。残存率は 30% である。



第18図 森吉古墳全体測量図

10～12は表探資料である。10は円筒埴輪の口縁部資料で、焼成は良好、色調は赤褐色を呈する。外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。ハケメは21本／2cmである。胎土には白・赤・黒色粒、片岩、砂礫を含む。11・12はロクロ土師器の小皿である。11は

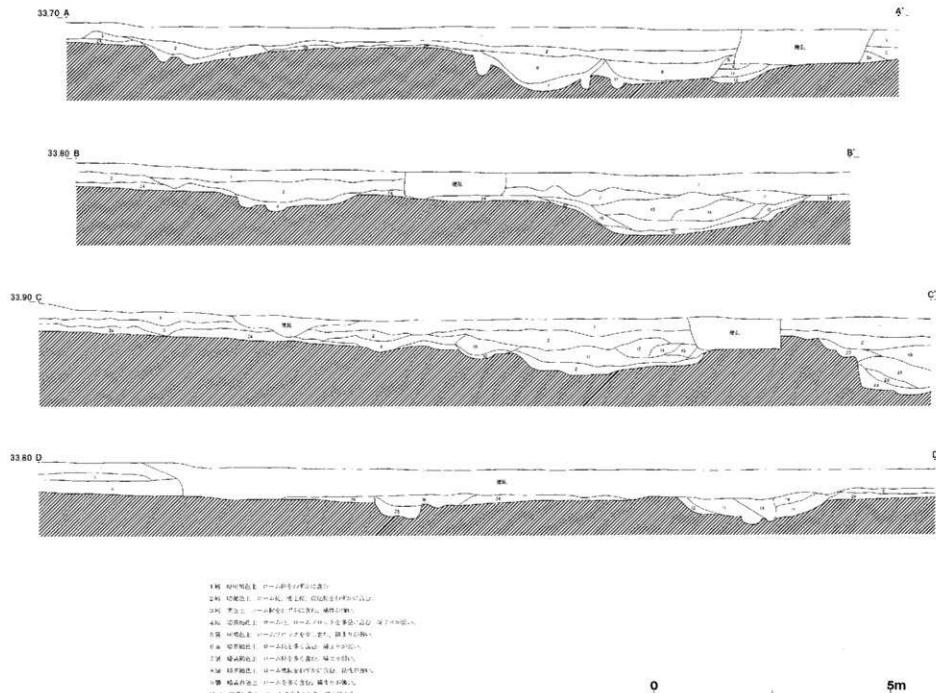
推定底径6.0cmを測り、焼成は普通、色調は浅黄橙色を呈する。胎土には白・赤・黒色粒、角閃石を含む。残存率は20%である。12は推定底径6.0cmを測り、焼成は普通、色調はにぶい黄橙色を呈する。胎土には白・赤・黒色粒、角閃石を含む。残存率は15%である。



森吉古墳現況

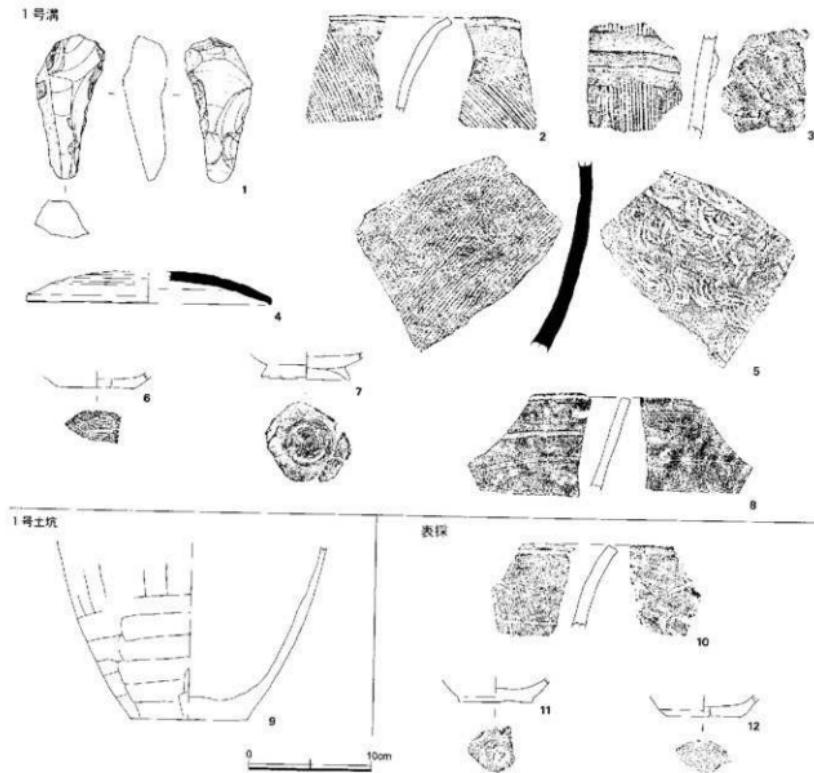


第1号溝獸骨出土状況



第19図 齋吉古墳土層断面図





第20図 森吉古墳出土遺物



第1号溝出土獸骨

### 3 下郷遺跡

A-III-338～B-IV-23 グリッドに位置する。確認された主な遺構は、古墳跡2基、竪穴建物跡3棟、溝2条、土坑9基である。古墳跡はいずれも円墳で、周堀のみ確認された。竪穴建物跡は第1号墳の墳丘に沿うように、周堀上に構築されている。これらの竪穴建物跡が造られる段階には、墳丘は残っていた可能性が高い。第1号溝については、他で述べたように、輔羅郡家正倉の区画溝である可能性が考えられる。第2号墳の墳丘に沿うように周堀を切って走るため、第1号溝が造られる段階には墳丘が残っていた可能性が高い。土坑は、遺物がほとんど出土しなかつたが、大部分は中世の所産と思われる。

#### a 古墳跡

##### 第1号墳（第21～23図）

調査区西半に位置し、西半部は調査区外にある。墳丘は遺存しておらず、周堀のみ確認された。墳丘径南北約18mの円墳である。第1～3号竪穴建物跡は、周堀が埋設後に重複して造られる。墳丘を取り囲むように造られていることから、墳丘は竪穴建物が造られる段階には残っていたものと推測される。

周堀の幅は約3m、断面形は逆台形で、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは50～80cmを測る。

古墳の時期は、6世紀前半と推定される。

##### 第1号墳出土遺物（第24～37図、第6～14表）

円筒埴輪は第24～31図に示した。ほとんどは2条突帯3段構成である<sup>5</sup>。第24図1、第25図14、第26図17は3条突帯4段構成である。口径は21～30.8cmを測る。透孔は、半円形の第24図5を除き、径7～9cmの円形が占める。第24図4の外面には、「×」の線刻が施される。また、第24図5、第25図10、第28図41、第30図64、65には、斜めの線刻が施される。外

面調整は、5～17本／2cmのハケメによるが、第27図35、第31図73は板ナデによる。朝顔形埴輪は第29図46～52である。46は透かし孔が半円形で、やはり半円形の小型透孔を持つ。

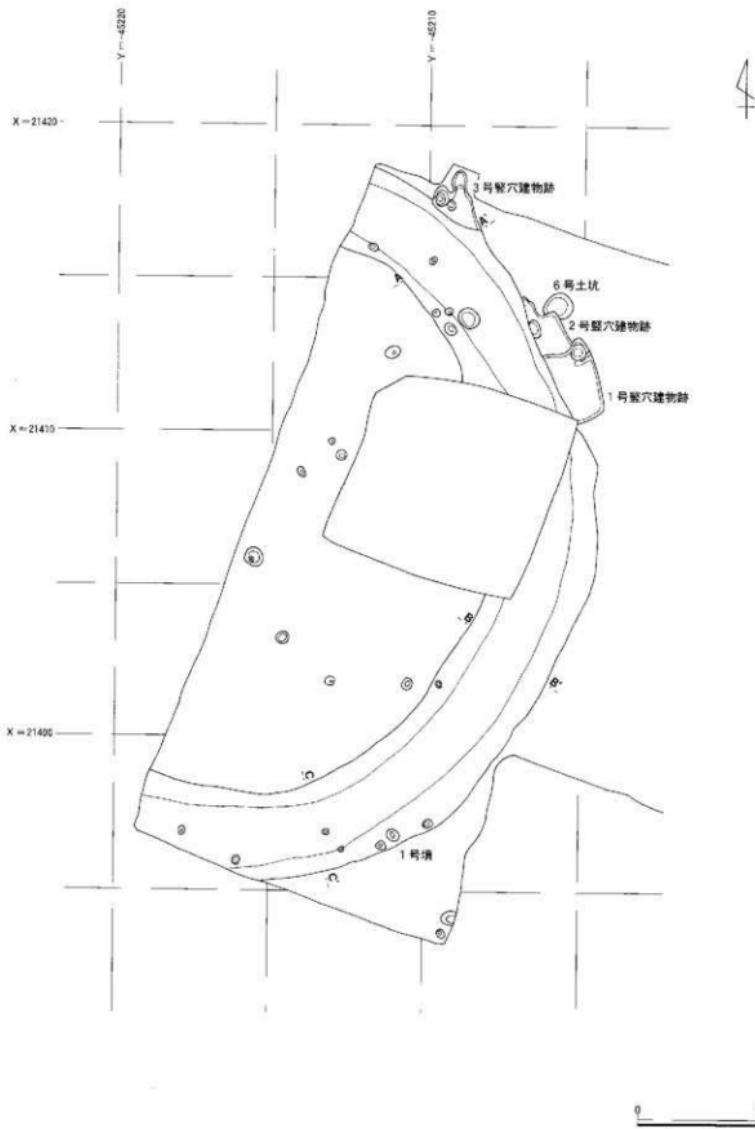
形象埴輪は人物、鶴、馬、大刀が出土した。第32図75～34図80は人物埴輪である。第32図75は被り物を被った男子である。目と口はほぼ水平に切り込まれ、眉はわずかな盛り上がりで表現される。鼻と美豆良、胸上半部は欠損する。第33図76は島田櫛の女子頭部である。櫛は両端が欠損する。目は両端がやや下がり気味に切り込まれ、眉はわずかに盛り上がる。鼻は眉から伸びて大きく隆起する。口は小さく切り込まれる。耳には円孔をあけ、耳飾と思われる表現がされる。顔面は赤彩される。77は被り物を被った男子頭部である。目は両端がやや下がり気味に切り込まれ、眉はわずかに盛り上がる。鼻は眉から伸びて台形に作られる。口は小さく切り込まれる。耳は円孔をあけ、美豆良は欠損する。第33図78・79、第34図80は人物埴輪の台部である。

第34図81は鶴形埴輪である。背負い紐が表現される。第35図82～84は馬形埴輪である。82は胴部で、鞍、タテガミ、手綱、鐙、鈴や杏葉等が確認される。83は鈴、84は鞍の一部と思われる。第36図85は大刀であろうか。透孔は径約3cmと小さい。

第37図86～93は埴輪以外の遺物である。86～88は須恵器で、86は瓶、87・88は甕である。89はロクロ土師器の高台椀、92は鍾である。91～92は繩文土器、93は打製石斧である。91は阿玉台式土器である。

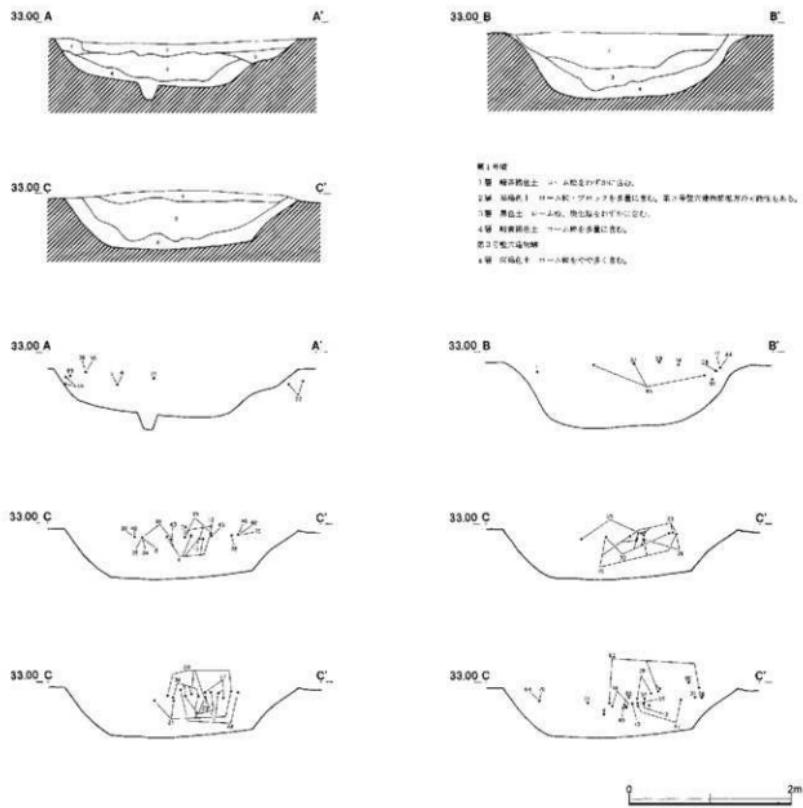
##### 第2号墳（第38～40図）

調査区東半に位置し、東半部及び北部は調査区外にある。調査区外は豚の糞尿による搅乱がやや激しい。墳丘は遺存しておらず、周堀のみ確認された。墳丘径南北約19.2mの円墳である。周堀は第1号溝に、墳丘の裾部は第1・2号土坑に切られる。北西部は、第1



第21図 第1号填





号溝が周堀とほぼ同位置に造られている状況である。

周堀の幅は約3m、断面形は逆台形で、壁は斜めに立ち上がる。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは65~85cmを測る。

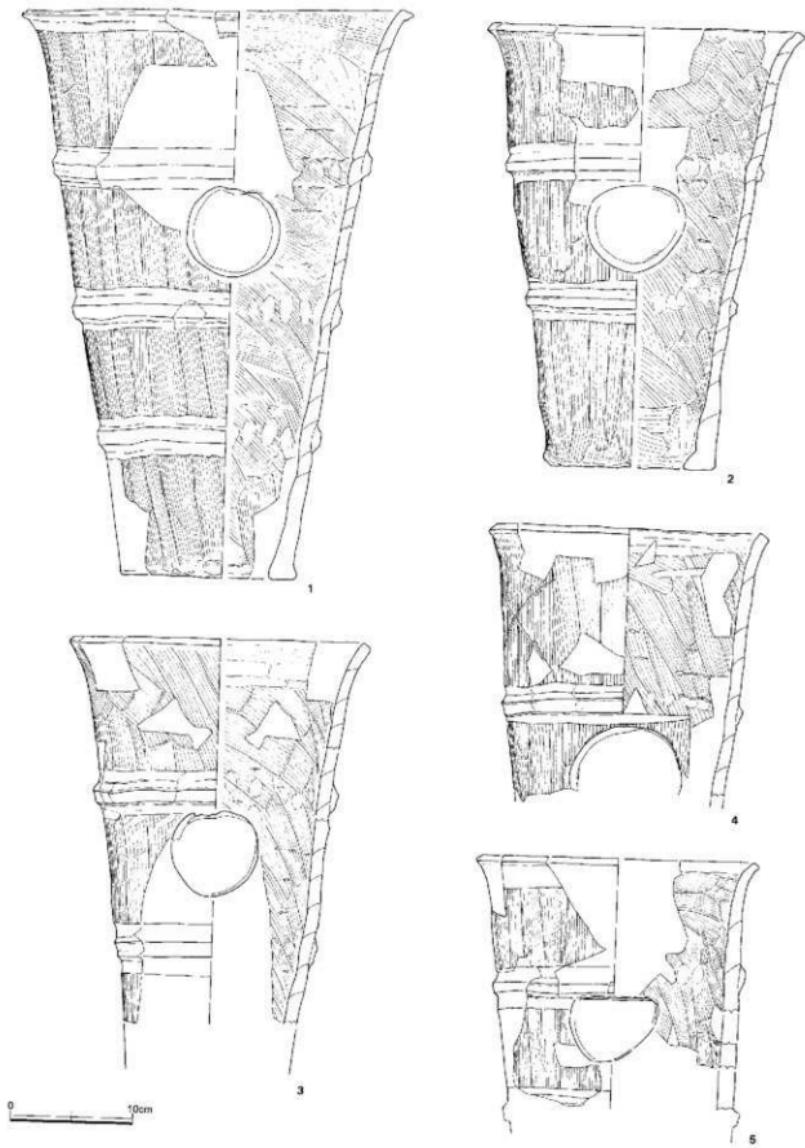
古墳の時期は、6世紀前半と推定される。

#### 第2号墳出土遺物 (第41~48図、第15~20表)

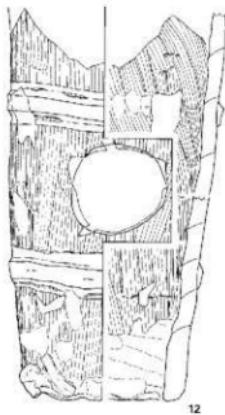
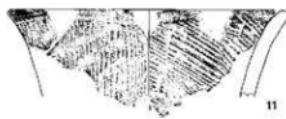
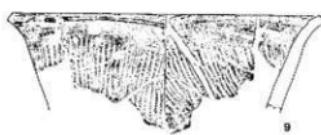
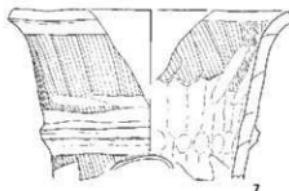
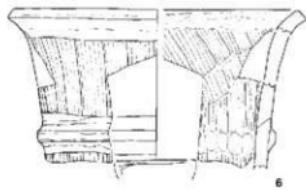
円筒埴輪は第41~44図に示した。ほとんどは2条突

帶3段構成であるが、第41図1は3条突帶4段構成である。口径は21~31.6cmを測る。透孔は、半円形の第41図3を除き、径6~8cmの円形が占める。第41図5は口縁部内面に縦の線刻が2本、第42図7は内面に縦の線刻が4本施される。外側調整は6~18本/2cmのハケメによる。朝顔形埴輪は第43図16~22である。16~17は透孔があり、いずれも半円形である。

形象埴輪は獣、家、人物、大刀、馬等が出土した。第

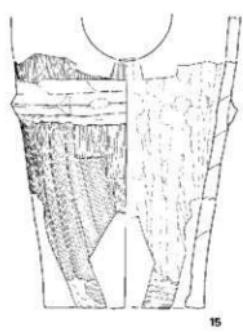


第24図 第1号墳出土円筒埴輪（1）

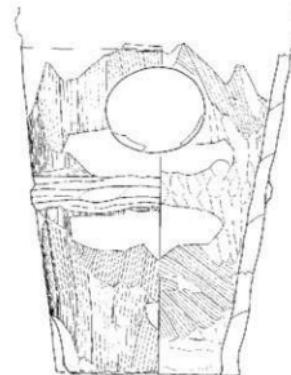


0 10cm

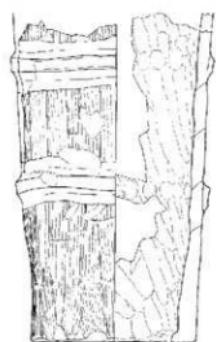
第25図 第1号墳出土円筒埴輪(2)



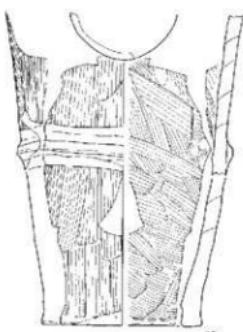
15



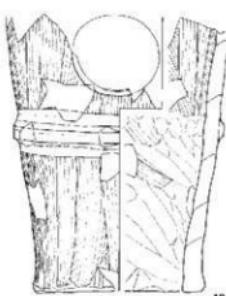
16



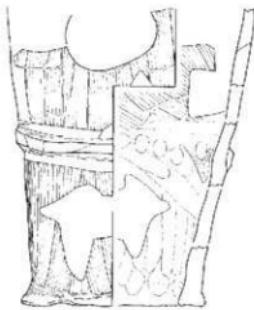
17



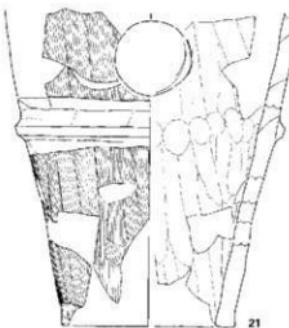
18



19



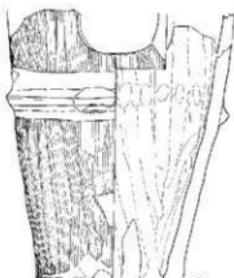
20



21



22



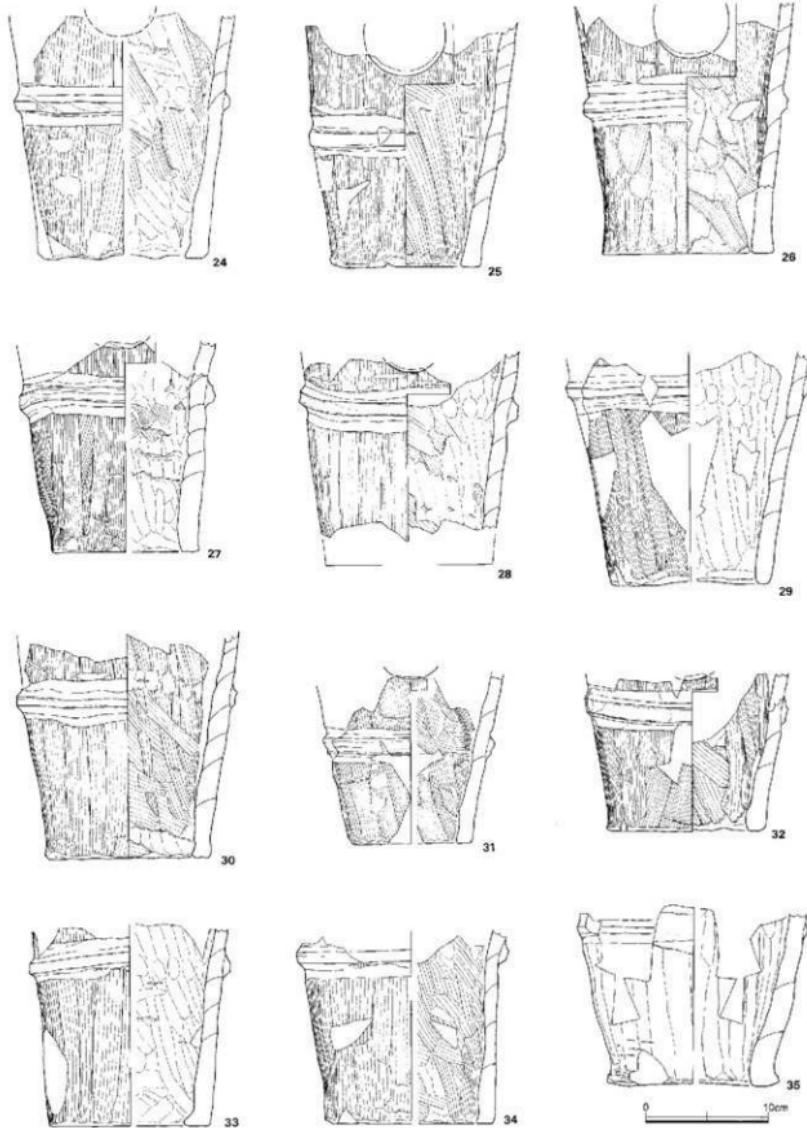
23

0 10cm

第26図 第1号墳出土円筒埴輪（3）

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
1	円筒	口 (30.8) 底 14.0 高 46.0	① A B C H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	70%	
2	円筒	口 (24.8) 底 13.8 高 36.0	① A B C H I ② 橙 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	70%	
3	円筒	口 (23.6)	① A B C E H ② 橙 ③ 良好・普通	M字形	7	外面はナナメタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
4	円筒	口 21.5	① A B C H ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	40%	外面に「×」の線刻が施される。
5	円筒	口 (22.0)	① A B C H I ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメタテヨコハケが施される。	60%	内面に縦・斜め方向の線刻が施される。
6	円筒	口 (23.2)	① A B C E ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	15%	
7	円筒	口 (22.0)	① A B C E ② にぶい橙 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	15%	
8	円筒	口 (28.0)	① A B C D ② にぶい橙 ③ 普通・普通		6	内外面共タテハケが施される。	10%	
9	円筒	口 (25.0)	① A B D H ② 橙 ③ 普通・軟質		7	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	5%	
10	円筒	口 (21.0)	① A B C E ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	20%	外面に斜めの線刻が2本施される。
11	円筒	口 (21.6)	① A B C E H ② にぶい赤褐 ③ 普通・軟質		8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	5%	
12	円筒	底 12.0	① A B C E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケ、ヨコナデが施される。	60%	
13	円筒	底 12.7	① A B C D H ② 橙 ③ 良好・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	60%	
14	円筒	底 13.5	① A C H ② 赤灰 ③ 良好・硬質	M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメタテナデが施される。	60%	
15	円筒	底 (13.0)	① A B C H ② 赤褐 ③ 良好・普通	三角形	13	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	40%	
16	円筒	底 14.8	① A B C H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケ、ナナメナデが施される。	40%	
17	円筒	底 13.2	① A B C H ② 明赤褐 ③ 良好・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテナデが施される。	50%	
18	円筒	底 (13.0)	① A B C D H ② 赤褐 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	60%	
19	円筒	底 (13.4)	① A B C H ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケ、ナナメナデが施される。	25%	

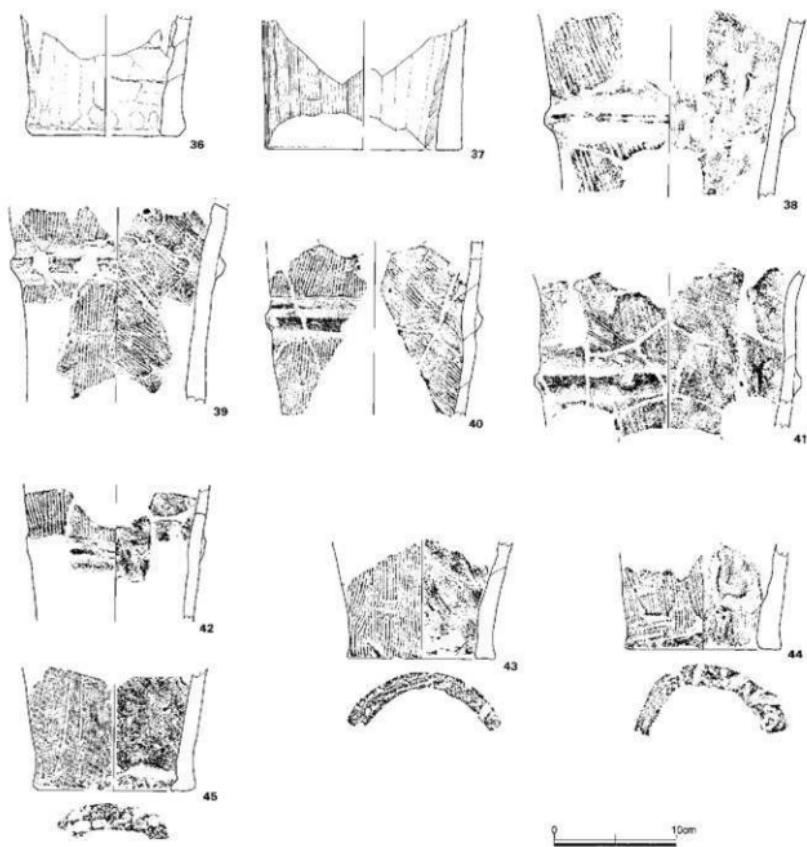
第6表 第1号墳出土円筒埴輪観察表(1)



第27図 第1号墳出土円筒埴輪(4)

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突堤	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
20	円筒	底 14.8	① A B C H ② 赤褐色 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	50%	
21	円筒	底 (14.0)	① A B C D E H ② 赤褐色 ③ 良好・普通	台形	16	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	50%	
22	円筒	底 13.8	① A B C D E H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
23	円筒	底 12.0	① A B C E H ② 橙 ③ 良好・普通	三角形	16	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	50%	
24	円筒	底 (13.0)	① A B C H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	40%	
25	円筒	底 12.0	① A B C E H ② 赤褐色 ③ 良好・普通	台形	9	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	50%	
26	円筒	底 13.8	① A B C H ② 明赤褐色 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
27	円筒	底 12.0	① A B C H ② 明赤褐色 ③ 良好・普通	台形	17	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナデが施される。	30%	
28	円筒		① A B C E H ② 橙 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	25%	
29	円筒	底 12.6	① A B C D E H ② 明赤褐色 ③ 普通・普通	台形	14	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	25%	
30	円筒	底 (13.4)	① A B C E H ② 明赤褐色 ③ 良好・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	30%	
31	円筒	底 9.6	① A C D H ② 赤褐色 ③ 良好・硬質	M字形	14	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	20%	
32	円筒	底 12.8	① A B C E H ② 橙 ③ 良好・硬質	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。	20%	
33	円筒	底 13.0	① A B C D E H ② 明赤褐色 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメナデが施される。	25%	
34	円筒	底 (13.7)	① A B C H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	25%	
35	円筒	底 (14.0)	① A B C F H I ② 明赤褐色 ③ 普通・軟質	台形		内外面共タテナデが施される。	20%	
36	円筒	底 12.0	① A B C D H ② 赤褐色 ③ 良好・普通			外面はタテナデ、内面はヨコナデが施される。	20%	
37	円筒	底 (16.0)	① A B C E H ② 明赤褐色 ③ 普通		7	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	10%	
38	円筒		① A B C D ② にふい赤褐色 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	10%	

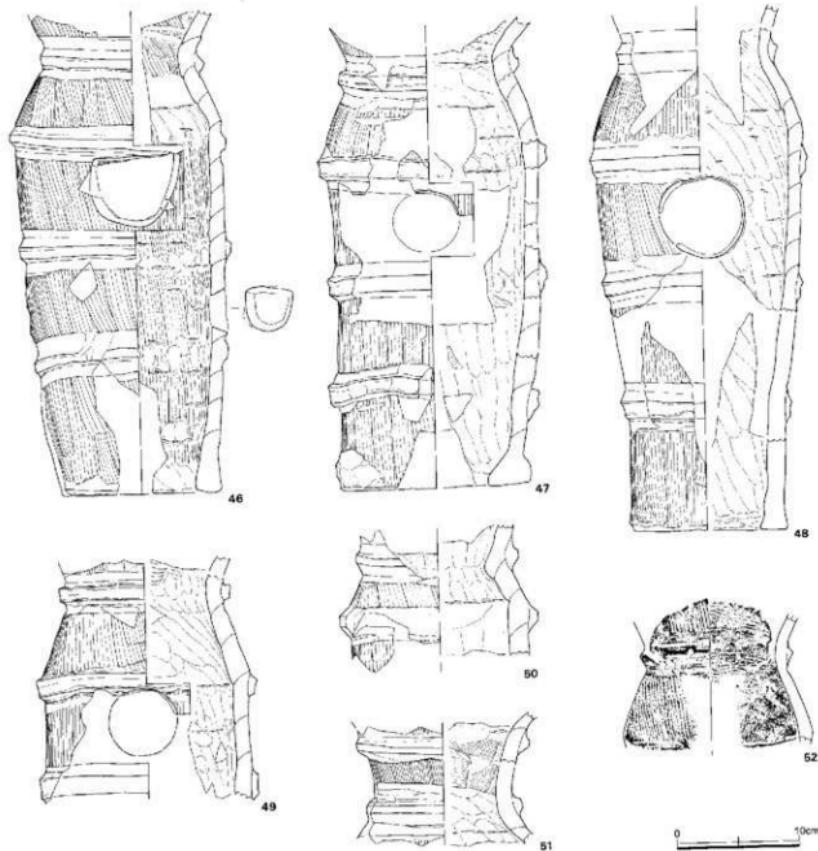
第7表 第1号墳出土円筒埴輪観察表(2)



第28図 第1号墳出土円筒埴輪（5）

番号	器種	法量 (cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
39	円筒		①ABCDEH ②赤褐 ③普通・普通	台形	9	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	10%	
40	円筒		①ABCEH ②橙 ③普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	25%	
41	円筒		①ABC ②橙 ③不良・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。 磨耗が激しい。外面に斜めの線刻が2本施される。	15%	

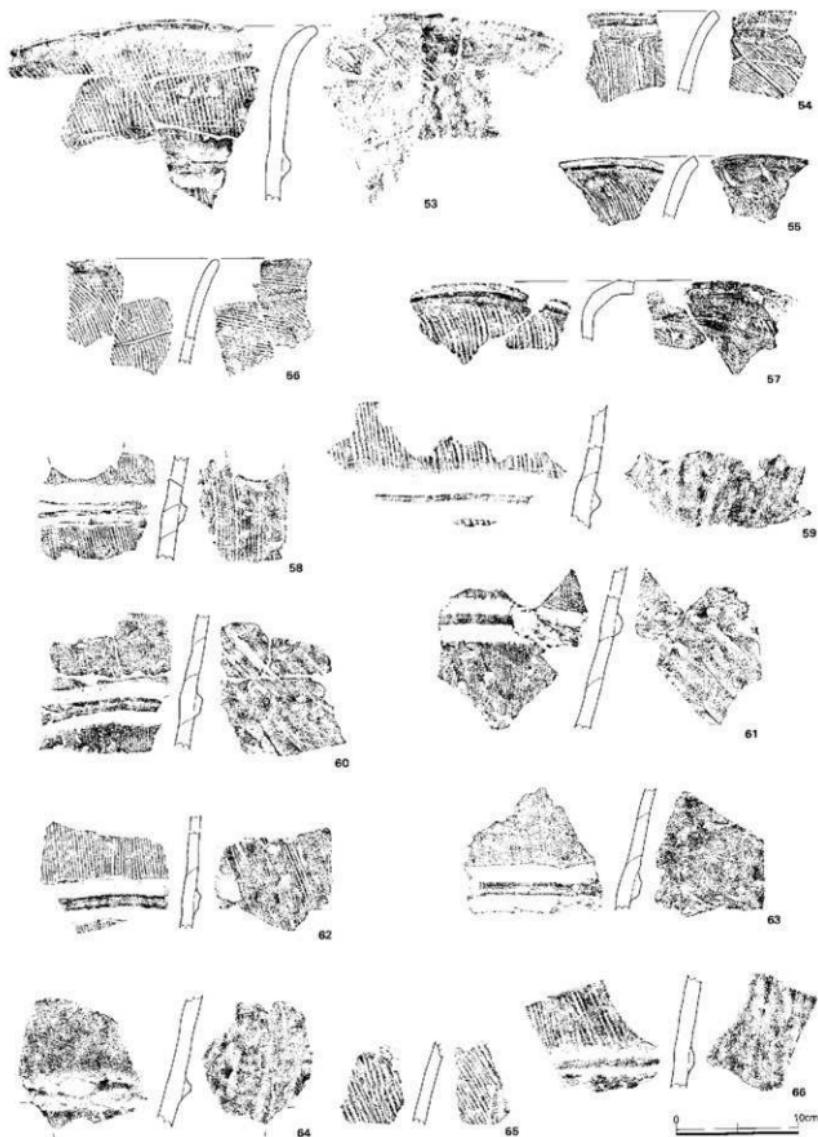
第8表 第1号墳出土円筒埴輪観察表（3）



第29図 第1号墳出土円筒埴輪（6）

番号	器種	法量 (cm)	① 豆土 ② 色調 ③ 燃成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
42	円筒		① ABC EH ② 檻 ③ 普通・軟質	低M字形	8	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	10%	
43	円筒 底 (12.0)		① ABC EH ② 檻 ③ 良好・硬質		9	外面はタテハケ、内面はナナメナデが施される。	5%	
44	円筒 底 (12.6)		① ABCD H ② 檻 ③ 普通・普通			外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	5%	

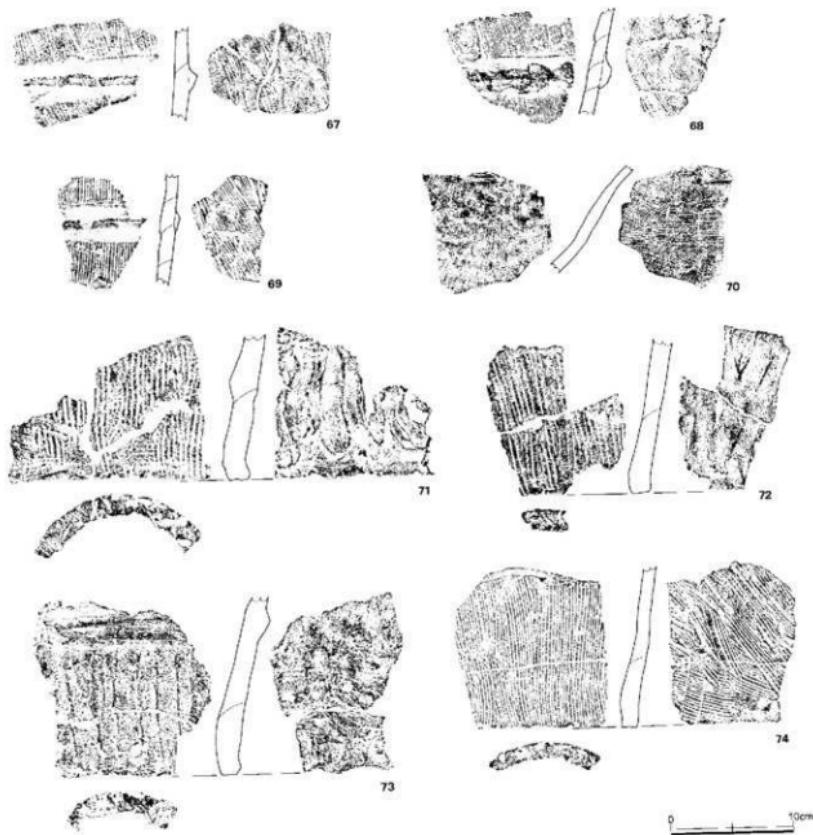
第9表 第1号墳出土円筒埴輪観察表 (4)



第30図 第1号墳出土円筒埴輪(7)

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
45	円筒	底 (13.0)	① A B C E H ② にぶい赤褐 ③ 良好・普通		17	外面はタテハケ、内面はナナメタテナテが施される。	5%	
46	朝顔	底 12.8	① A B C E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	6	内外面共タテハケが施される。	70%	2段目に半円形の小型透孔を持つ。
47	朝顔	底 15.3	① A B C D E H ② 赤褐 ③ 普通・普通	台形	7	外面はタテハケ、内面はヨコハケ、ナナメタテナテが施される。	60%	
48	朝顔	底 12.8	① A B C E H ② 赤褐 ③ 普通・普通	M字形 三角形	7	外面はタテハケ、内面はナナメタテナテが施される。	60%	3段目に横位の線刻が6本施される。
49	朝顔		① A B C D E H ② 赤褐 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はヨコハケ、ナナメタテナテが施される。	25%	
50	朝顔		① A B C D ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はタテナテが施される。	25%	
51	朝顔		① A B C E H ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	14	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナテが施される。	15%	
52	朝顔		① A B C E H ② 橙 ③ 普通・普通	三角形	8	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	10%	
53	円筒		① A B C E ② にぶい赤褐 ③ 普通・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナテが施される。	10%	
54	円筒		① A B C D E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通		10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
55	円筒		① A B C D ② にぶい黄橙 ③ 良好・普通		9	外面はナナメタテハケ、内面はナナメナテが施される。		
56	円筒		① A B C H ② 明赤褐 ③ 良好・硬質		8	外面はナナメタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
57	円筒		① A B C E ② 明赤褐 ③ 普通・軟質		5	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		
58	円筒		① A B C ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	9	内外面共タテハケが施される。		
59	円筒		① A B C E H ② 橙 ③ 普通・軟質	台形	5	外面はタテハケ、内面はタテナテが施される。		
60	円筒		① A B C E H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
61	円筒		① A C D H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。		
62	円筒		① A C H ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	8	内外面共タテハケが施される。		
63	円筒		① A C E H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		

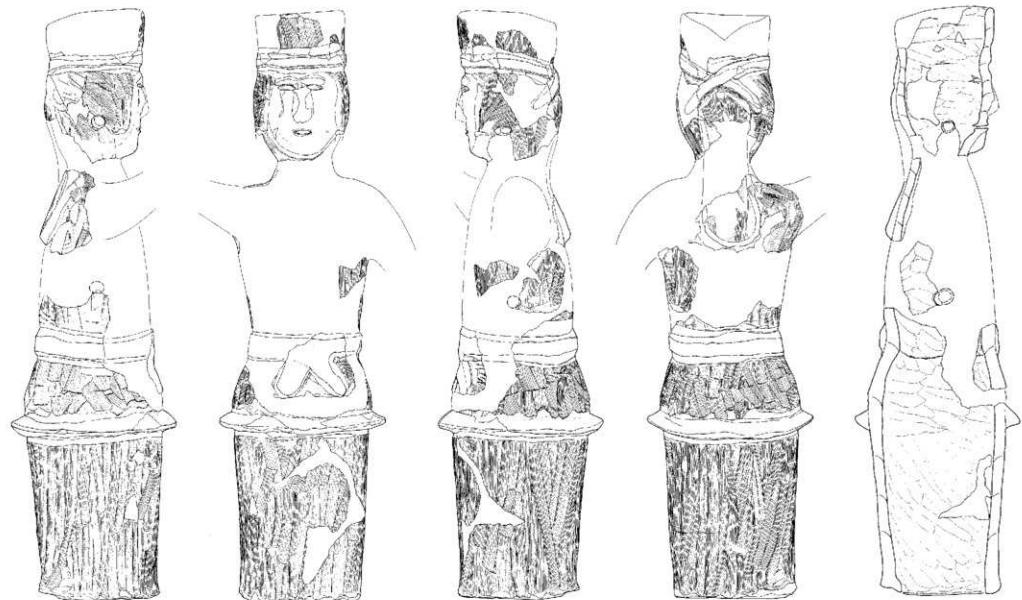
第10表 第1号墳出土円筒埴輪観察表 (5)



第31図 第1号墳出土円筒埴輪（8）

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
64	円筒		① ABC EH ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		磨耗が激しい。外面に斜めの線刻が2本施される。
65	円筒		① ABCD ② 明赤褐 ③ 普通・軟質		5	外面はタテハケ、内面はナメハケが施される。		外面に斜めの線刻が3本施される。
66	円筒		① ABC EH ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	6	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		

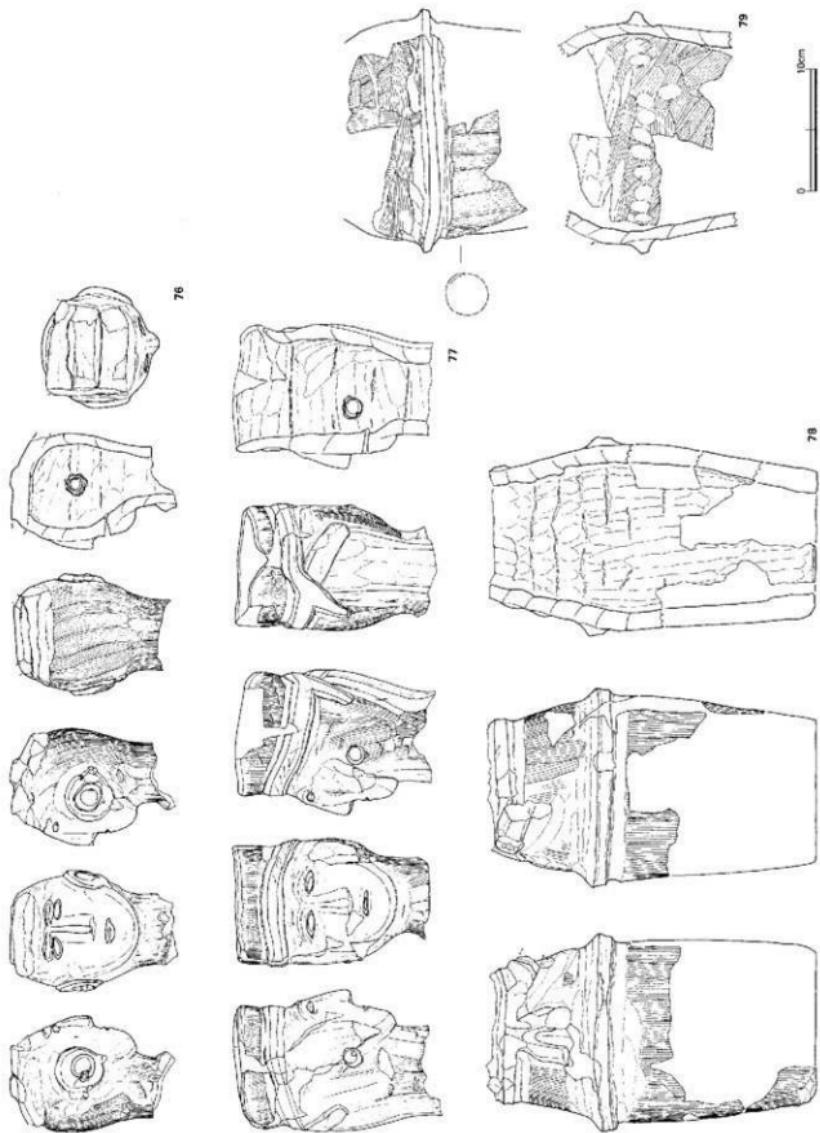
第11表 第1号墳出土円筒埴輪観察表（6）



75

第32図 第1号墳出土形象埴輪（1）





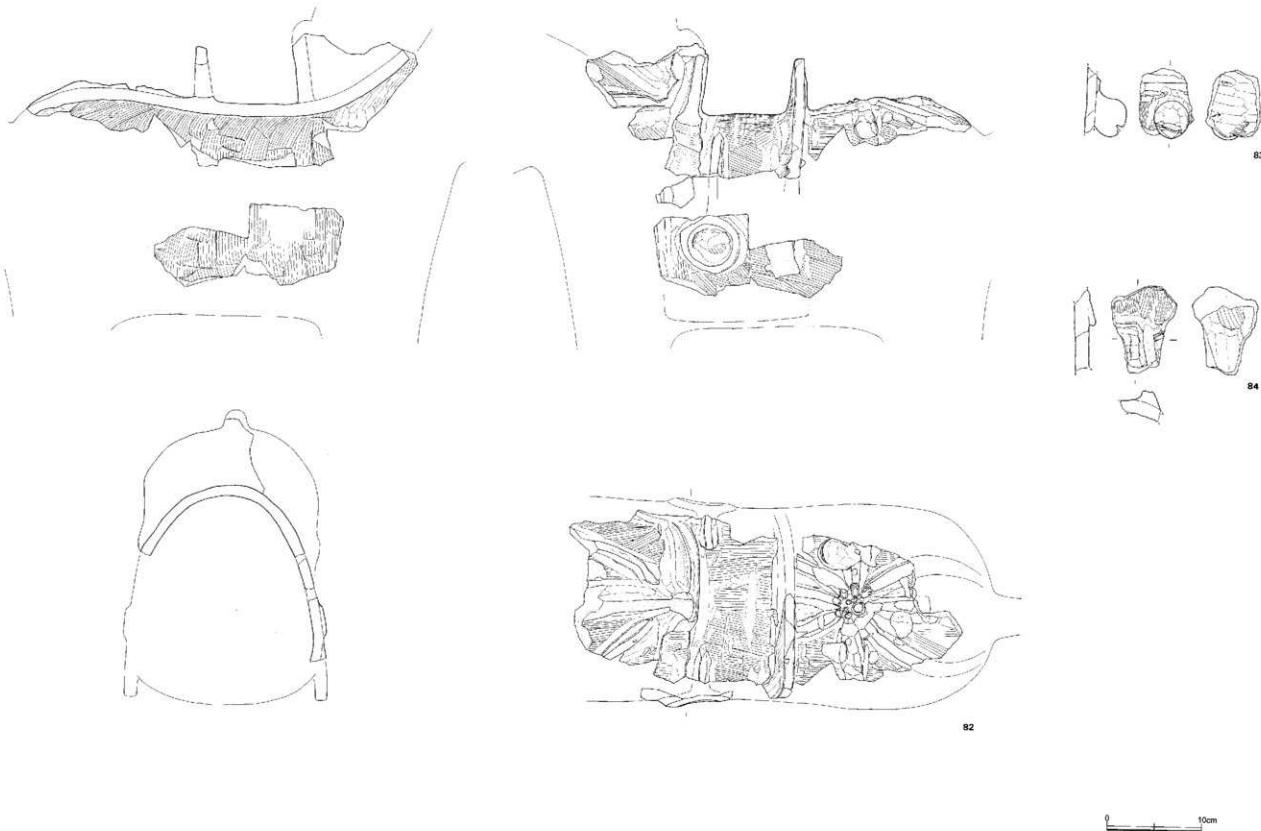
第33図 第1号墳出土形象埴輪(2)



第34図 第1号墳出土形象埴輪（3）

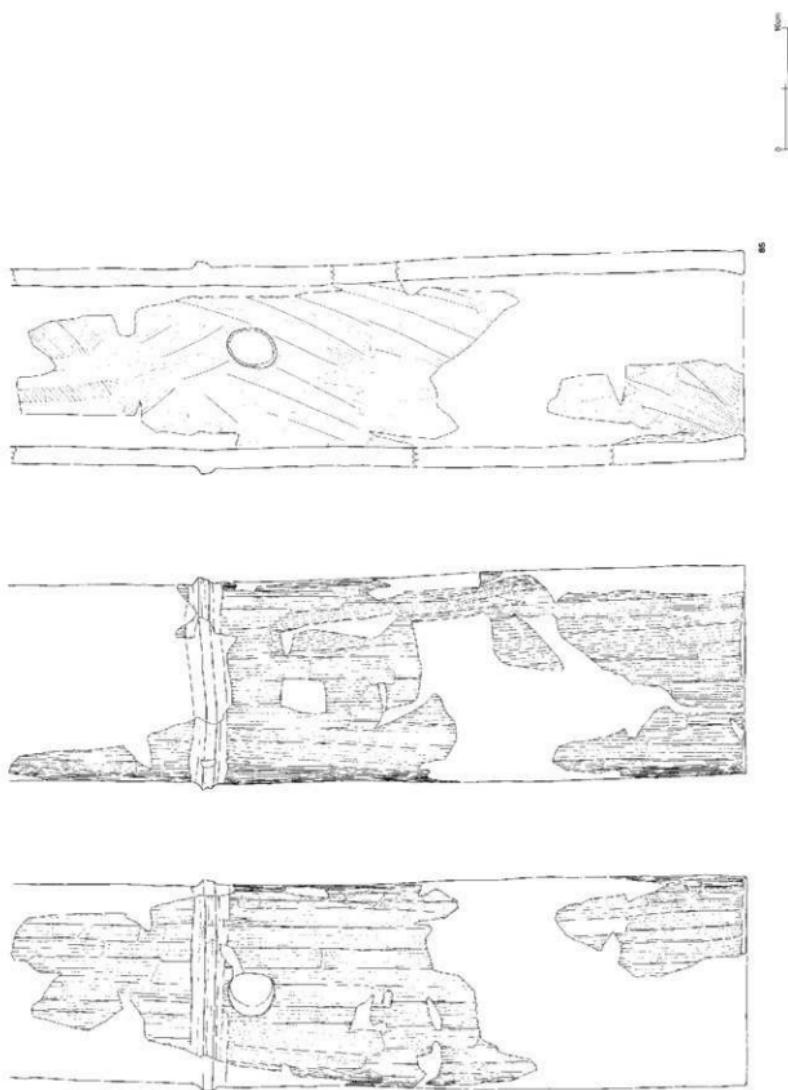
番号	器種	法量 (cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
67	円筒		① ABC EH ② 橙 ③ 不良・軟質	台形	7	内外面共タテハケが施される。		
68	円筒		① ACH ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	14	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
69	円筒		① ABCH ② 橙 ③ 普通・普通	低台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
70	朝顔		① ABC EH ② 橙 ③ 良好・硬質		14	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
71	円筒		① ABC ② にぶい赤褐 ③ 普通・普通		5	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	5%	
72	円筒		① ABCH ② 橙 ③ 普通・普通		5	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。	5%	
73	円筒		① ABCDH ② 赤褐 ③ 良好・硬質	低台形		外面はタテナデ、内面はナナメタテナデが施される。	10%	
74	円筒		① ABCDH ② 橙 ③ 良好・硬質		9	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	5%	

第12表 第1号墳出土円筒埴輪観察表（7）



第35図 第1号墳出土形象埴輪(4)





第36図 第1号墳出土形象埴輪(5)

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
75	人物	底 12.6 高 (61.2)	① A B C H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	三角形	17	外面はタテハケ、内面 はナナメヨコナテが施 される。	75%	
76	人物		① A B C D E H ② 赤褐 ③ 良好・普通		17	外面はタテハケ、内面 はナナメヨコナテが施 される。	15%	
77	人物		① A B C E H ② 明赤褐 ③ 良好・普通		13	外面はタテハケ、内面 はナナメヨコナテが施 される。	20%	
78	人物	底 (12.4)	① A B C D H ② 赤 ③ 普通・普通	M字形	10	外面はタテハケ、内面 はタテナテが施される。	40%	
79			① A B C E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	13	外面はタテヨコハケ、 内面はナナメハケ、ナ ナメナテが施される。		
80	人物	底 11.5	① A B C D E H ② 橙 ③ 普通・普通	三角形 低台形	14	外面はタテハケ、内面 はナナメヨコナテが施 される。	50%	
81	鞆		① A B C E H ② にぶい赤褐 ③ 普通・普通		8	外面はタテハケ、内面 はタテナテが施される。		
82	馬		① A B C H ② 橙 ③ 普通・普通		7	外面はナナメヨコハケ、 内面はタテハケが施さ れる。	25%	
83	馬		① A B C E H ② 赤褐 ③ 良好・硬質		17			
84	馬		① A B C E ② 明赤褐 ③ 良好・普通		8			
85	大刀	底 (16.8)	① A B C E H ② 赤褐 ③ 普通・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面 はナナメハケ、タテハ ケが施される。	50%	

第 13 表 第 1 号墳出土形象埴輪観察表

## b 溝

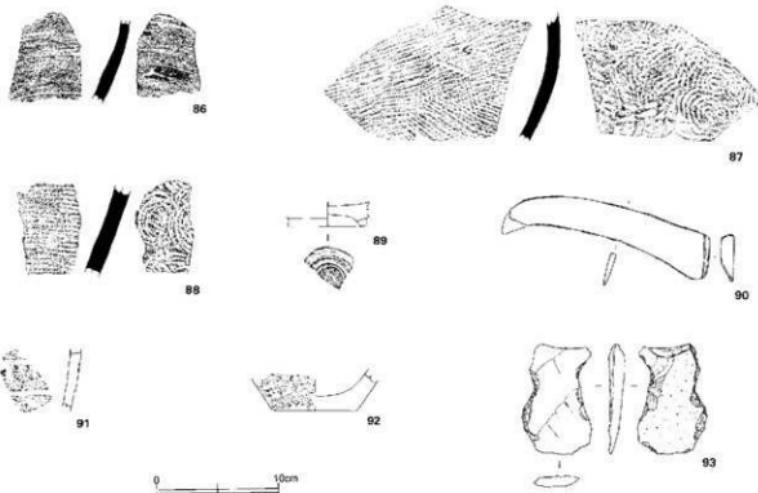
45 図 38、第 47 図 42・43 は鶏形埴輪である。38 は奴鳳形で、翼状の張り出し部が欠損する。矢筒部には、背負い紐が認められる。42・43 は翼状の張り出し部である。42 は放射状に線刻が施される。第 46 図 39 は家形埴輪である。欠損部が多いが、底部が推定長約 52cm、推定幅約 35cm、推定高約 80cm の大型品である。線刻等は施されない。第 47 図 40 は人物埴輪である。背中の形付近のみ残存する。41 は鳥形埴輪であろうか。尾の部分と思われる、長軸に沿って線刻が施される。44 は大刀と思われる。握り部の勾金であろう。45 は馬形埴輪の鉤である。

第 48 図 46～48 は埴輪以外の遺物である。46 は須恵器甌、47 は凹石、48 は棒状鉄製品である。

## 第 1 号溝 (第 38～40 図)

調査区ほぼ中央を南北に走る。第 2 号墳と第 2 号溝を切り、幅は約 2.5 m を測る。壁は斜めに立ち上がり、中央部が特に深い部分が認められる。確認面からの深さは約 80cm である。壁面及び底面には、小ピットが多数確認された。主軸方位は N-25°-E であるが、北東部では第 2 号墳の周縁には北走って、N-75°-E へと角度が変わっていると見られる。

後の調査による輪廻遺跡の遺構分布との関係から、第 1 号溝は正倉院 (北) の西辺及び北辺区画溝、或いはそれが掘り直されたものである可能性が考えられる。出土遺物には、埴輪や常滑焼等、前後の遺物が混入す



第37図 第1号墳出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
86	須恵瓶	-	-	-	A B G	良	灰	-	
87	須恵壺	-	-	-	A C F H	良	青灰	-	
88	須恵壺	-	-	-	A C F H	良	青灰	-	
89	口クロ 高台椀	-	-	(6.4)	A B C I	普	橙	5%	
90	鍾	長 16.6	幅 3.6	厚 0.4					重さ 61.87 g
91	縄文土器	-	-	-	A C D H I	普	橙	-	阿玉台式
92	縄文土器	-	-	(6.6)	A B C H	普	橙	-	
93	打製石斧	長 8.6	幅 5.4	厚 0.8	石材 ホルンフェルス				

第14表 第1号墳出土遺物観察表

るもの、遺構の最終段階は概ね10世紀後半～11世紀頃と思われる。

#### 第1号溝出土遺物（第49・50図、第21・22表）

図示できた遺物は、第49図1～第50図38である。1は土師器壺、2～8はロクロ土師器小皿、9～17はロクロ土師器高台椀、18は須恵器壺、19・20は羽釜の口縁部である。21～23は常滑焼の甕と思われる。24～28は土鍾である。

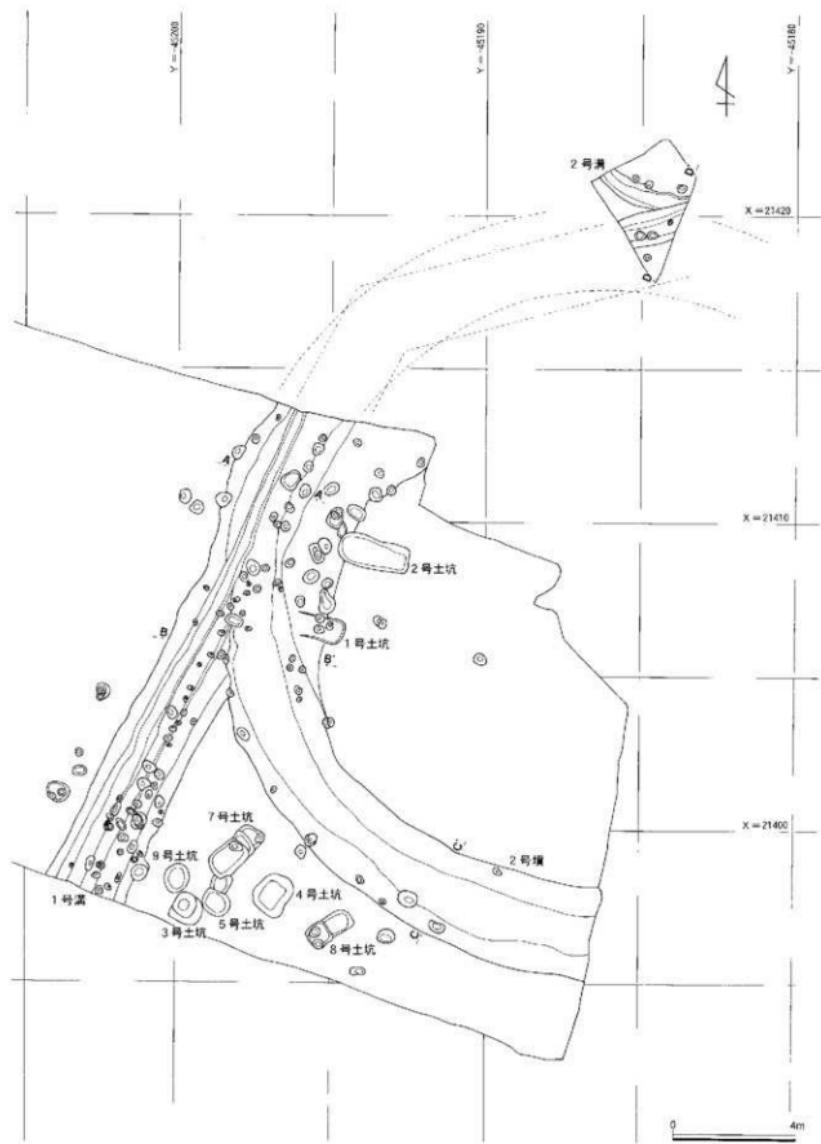
第49図29～33、第50図34～38は埴輪である。多

くは第2号墳周塙からの流れ込みによるものであろう。29～36は円筒埴輪、37は朝顔形埴輪である。38は形象埴輪である。家形埴輪の頂部付近であろうか。

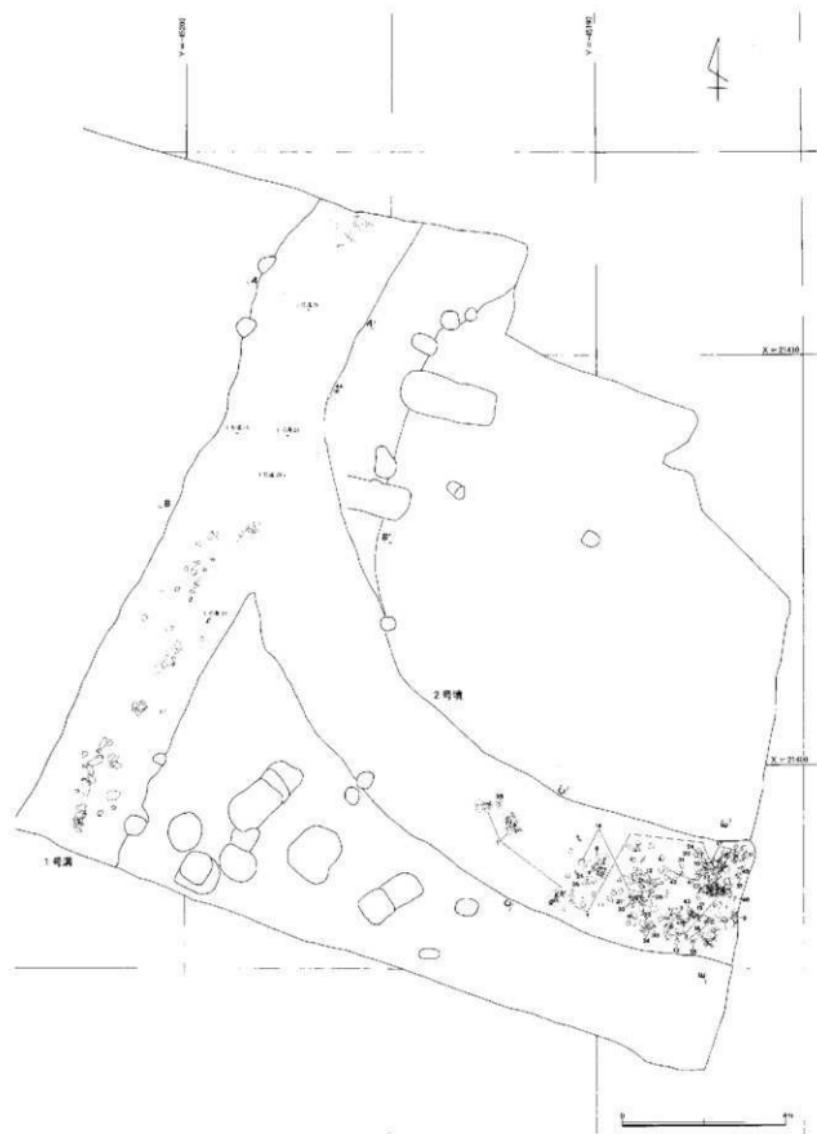
#### 第2号溝（第38・40図）

調査区北東部に位置する。幅64cm、確認面からの深さ20cmを測る。若干弧を描くように看取できる。第2号墳の周塙に近接するが、小型の古墳の周塙である可能性が考えられる。

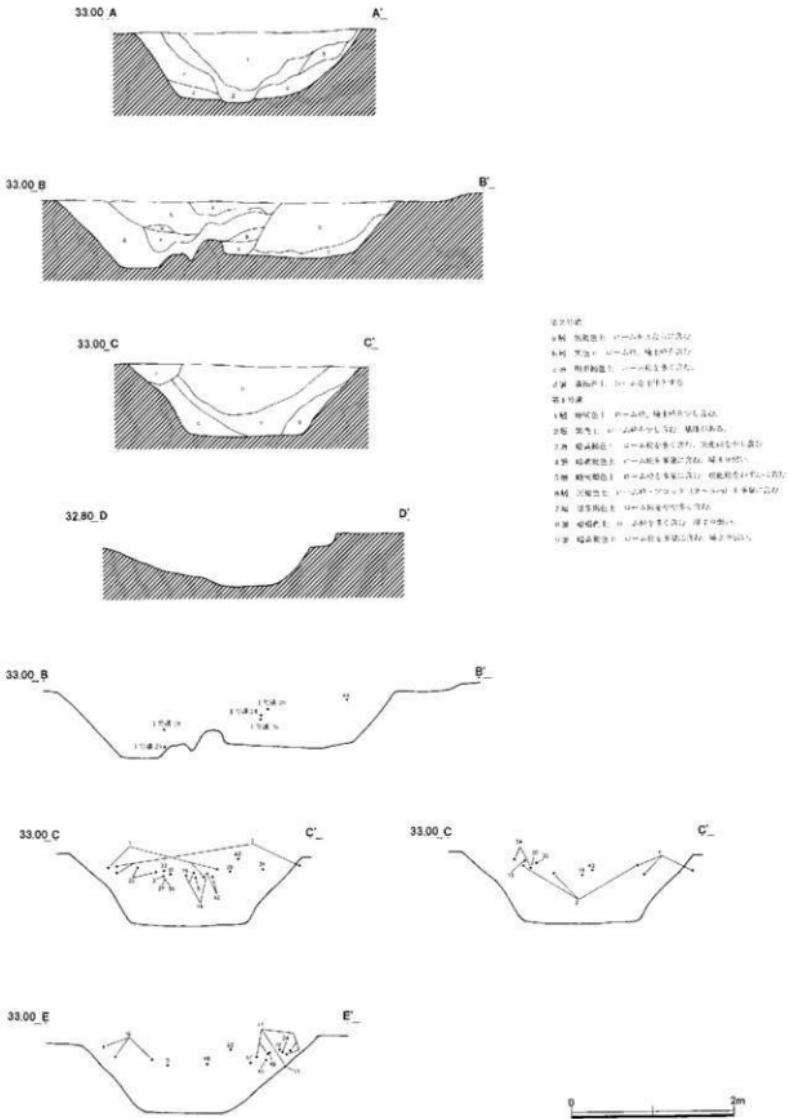
遺物は、図示できるものが出土しなかった。



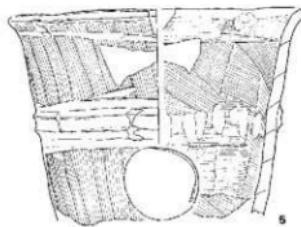
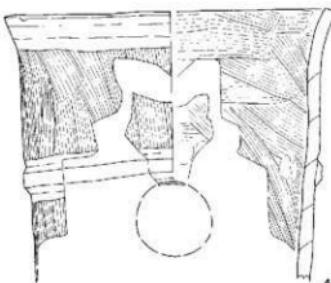
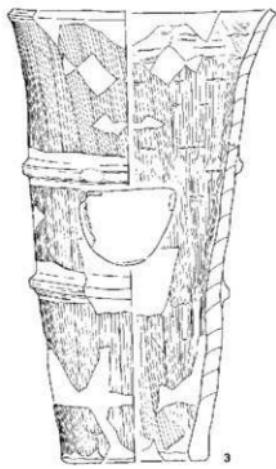
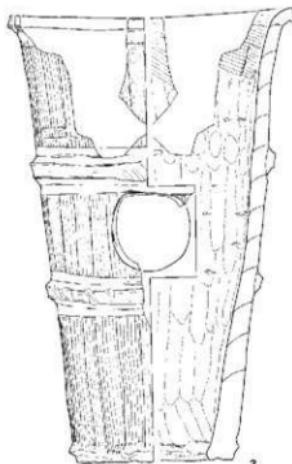
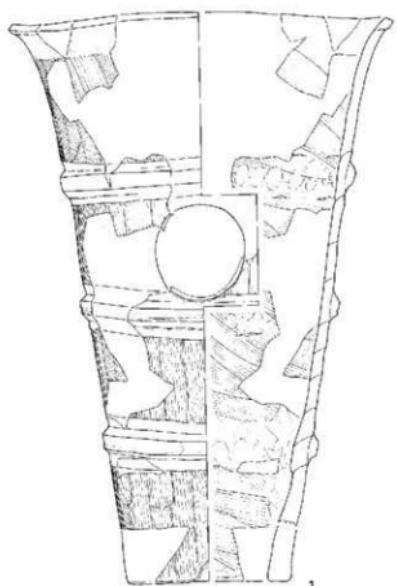
第38図 第2号墳、第1・2号溝



第39図 第2号坑、第1号坑遺物出土状況

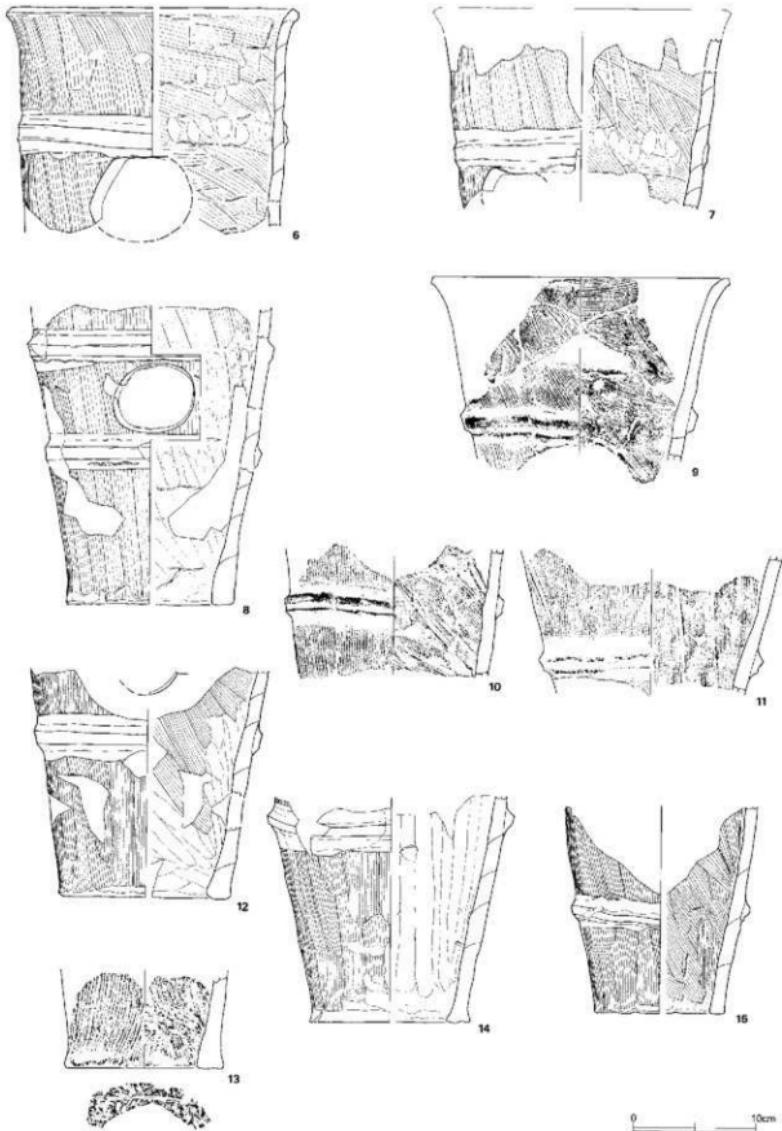


第40図 第2号填、第1号溝断面図

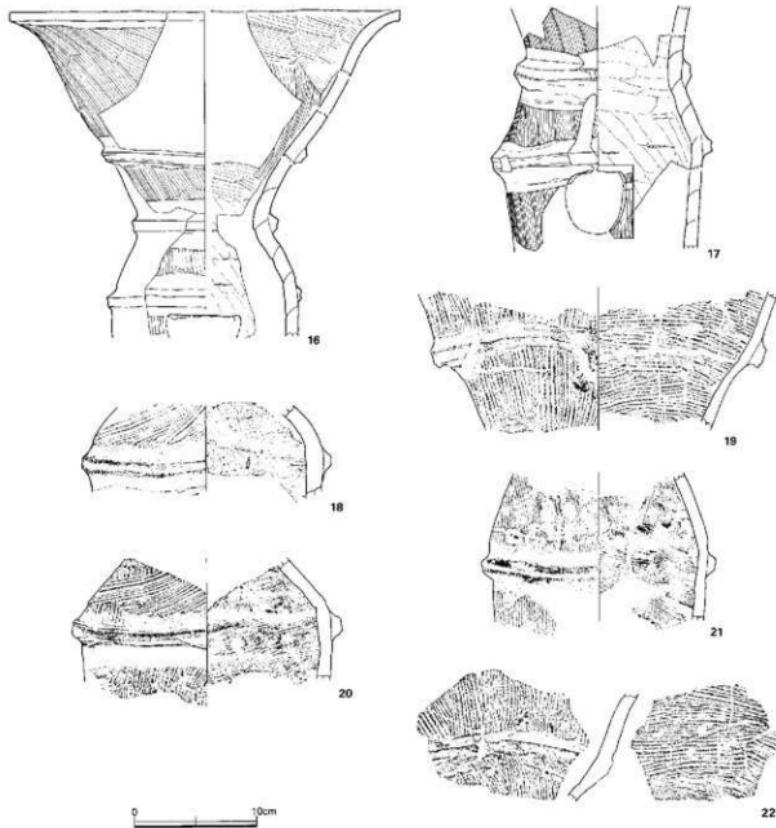


0 10cm

第41図 第2号墳出土円筒埴輪(1)



第42図 第2号墳出土円筒埴輪（2）



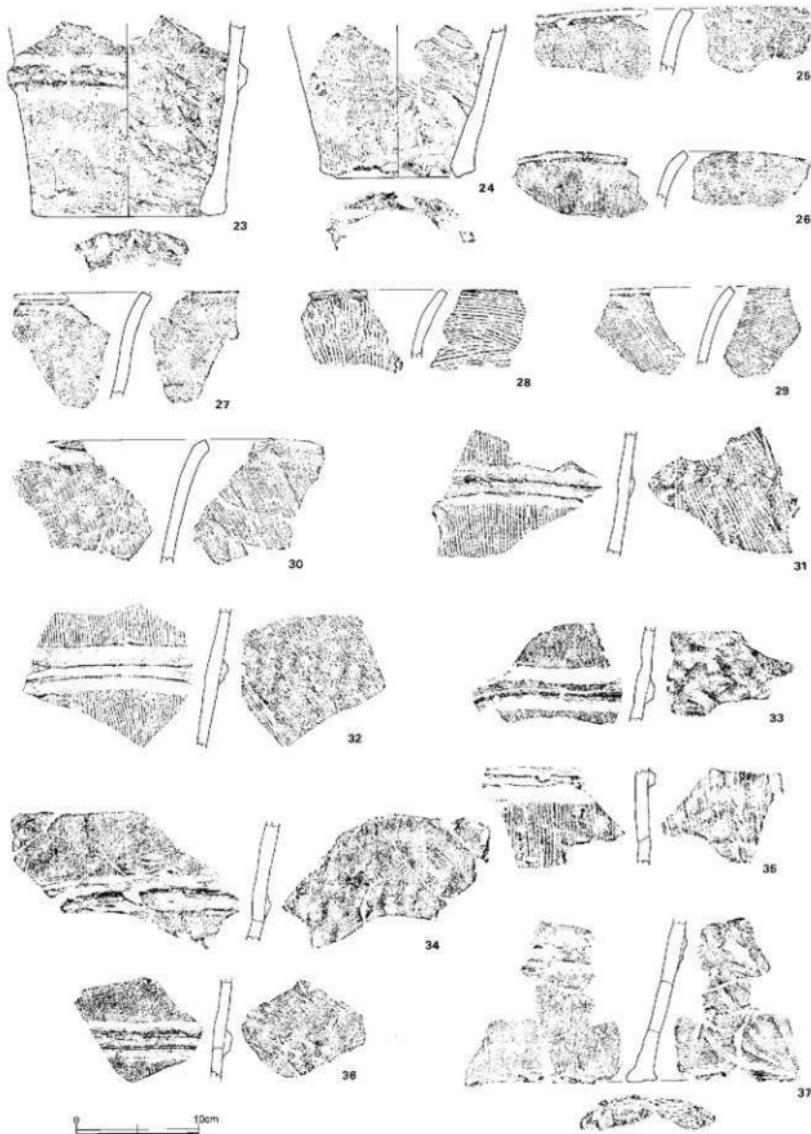
第43図 第2号墳出土円筒埴輪(3)

番号	器種	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
1	円筒	口(31.6) 底13.2 高46.3	①A B C E H ②明赤褐 ③良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	50%	
2	円筒	口(22.8) 底(12.6) 高36.3	①A B C E H ②赤褐 ③普通・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナデが施される。	75%	
3	円筒	口(21.0) 底11.4 高37.0	①A B C ②橙 ③普通・軟質	台形	8	内外面共タテハケが施される。	70%	

第15表 第2号墳出土円筒埴輪観察表(1)

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突堤	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
4	円筒	口 (25.4)	① A C D E H ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	25%	
5	円筒	口 (23.4)	① A C F H ② 褐灰 ③ 良好・硬質	M字形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	30%	口縁部内面に縱の線刻が2本施される。
6	円筒	口 (23.0)	① A B C D E H ② 橙 ③ 良好・硬質	低M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	15%	
7	円筒		① A B C H ② 橙 ③ 良好・硬質	M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	15%	内面に縱の線刻が4本施される。
8	円筒	底 13.5	① A B C H ② 赤褐 ③ 普通・普通	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナテが施される。	50%	
9	円筒	口 (24.0)	① A C H ② 橙 ③ 良好・硬質	M字形	12	外面はナナメハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	20%	
10	円筒		① A B C E H ② 赤褐 ③ 良好・普通	M字形	9	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	10%	
11	円筒		① A B C E H ② 橙 ③ 普通・普通	M字形	10	内外面共タテハケが施される。		
12	円筒	底 14.0	① A B C E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	16	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナテが施される。	25%	
13	円筒	底 (13.0)	① A C E H ② 明赤褐 ③ 良好・硬質		8	外面はタテハケ、内面はナナメタテハケが施される。		
14	円筒	底 13.0	① A B C H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	台形	17	外面はタテハケ、内面はタテナテが施される。	30%	
15	円筒	底 10.4	① A B C H ② 明赤褐 ③ 良好・硬質	台形	15	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	25%	
16	朝顔	口 (32.0)	① A B C H ② 橙 ③ 普通・軟質	M字形	7	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、ナナメナテが施される。	50%	
17	朝顔		① A B C E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	M字形	24	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナテが施される。	30%	
18	朝顔		① A B C E H ② 明赤褐 ③ 普通・普通	M字形	8	外面はナナメタテハケ、内面はナナメヨコナテが施される。		
19	朝顔		① A B C E H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。	5%	22と同一個体の可能性がある。
20	朝顔		① A B C D E H ② 橙 ③ 普通・普通	台形	8	外面はナナメタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
21	朝顔		① A B C D E H ② 赤褐 ③ 普通・普通	M字形	10	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。	10%	
22	朝顔		① A B C E H ② 橙 ③ 良好・硬質		8	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		19と同一個体の可能性がある。

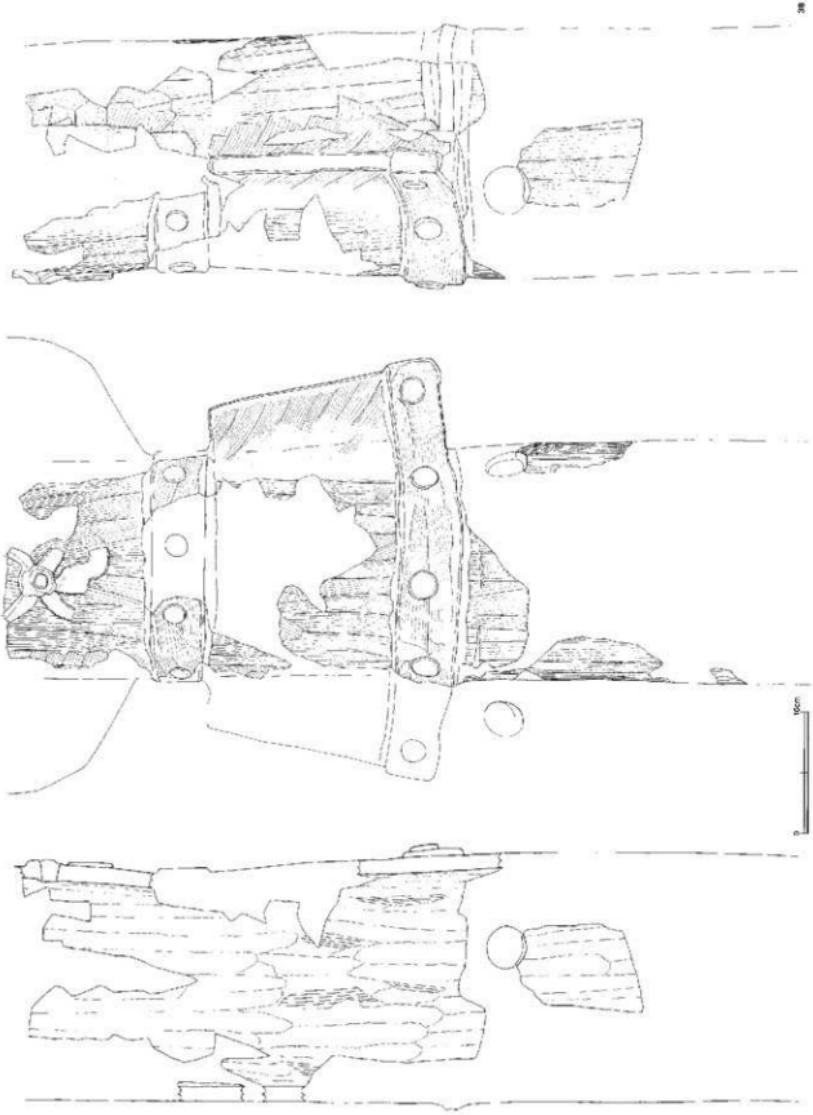
第 16 表 第 2 号埴出土円筒埴輪観察表 (2)



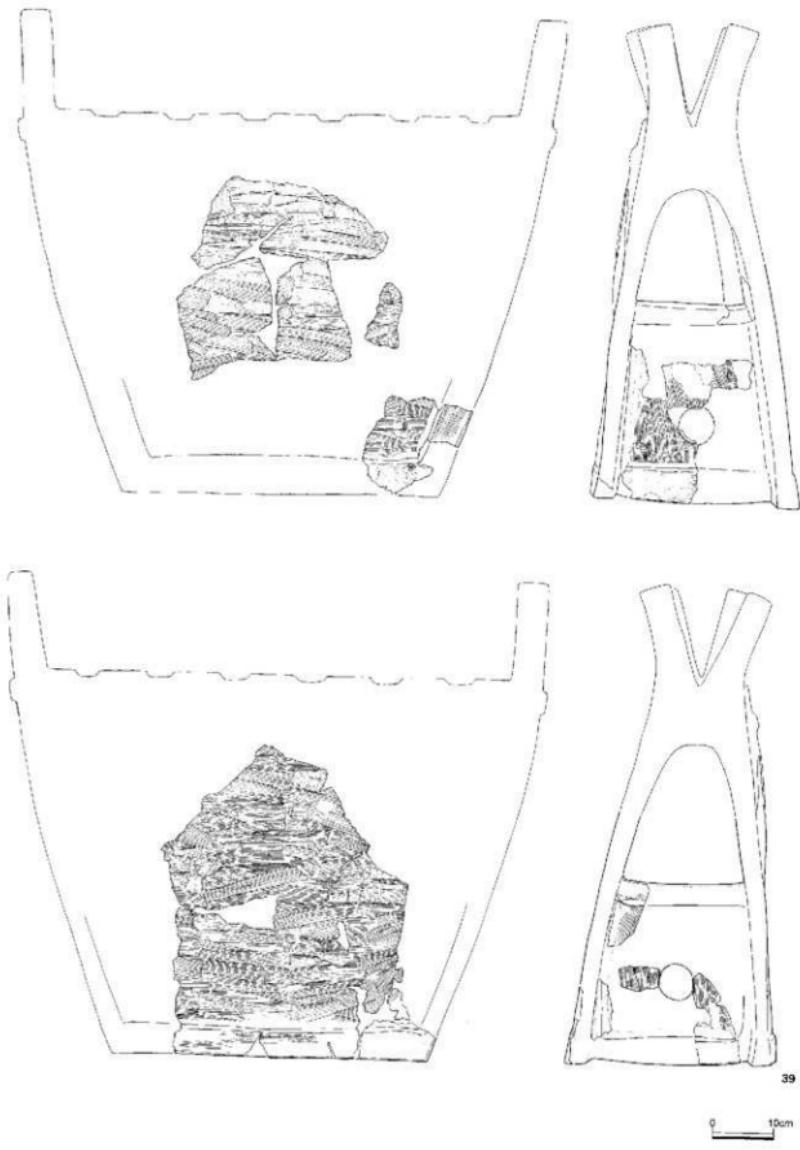
第44図 第2号墳出土円筒埴輪(4)

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
23	円筒	底 (15.8)	① A B C E H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメヨコナテが施される。	10%	
24	円筒	底 (12.5)	① A B C E H ② 赤褐色 ③ 普通・普通		11	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケ、ナナメヨコナテが施される。	10%	
25	円筒		① A B C H ② 明赤褐色 ③ 良好・硬質		13	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
26	円筒		① A B C D E H ② 橙 ③ 良好・普通		18	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
27	円筒		① A B C E H ② 橙 ③ 良好・硬質		10	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
28	円筒		① A B C E H ② 明赤褐色 ③ 良好・硬質		6	外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。		
29	円筒		① A C D H ② にぶい黄橙 ③ 良好・硬質		15	外面はナナメハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		
30	円筒		① A B C E H ② 赤褐色 ③ 良好・普通		19	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
31	円筒		① A B C D E H ② 明赤褐色 ③ 良好・普通	台形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
32	円筒		① A C H ② 赤褐色 ③ 良好・硬質	M字形	8	外面はタテハケ、内面はナナメハケが施される。		
33	円筒		① A B C D H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメナテが施される。		
34	円筒		① A C E H ② 橙 ③ 不良・軟質	三角形	15	外面はタテハケ、内面はナナメハケ、タテナテが施される。	5%	
35	円筒		① A B C ② にぶい黄橙 ③ 普通・軟質	M字形	7	内外面共タテハケが施される。		
36	円筒		① A C H ② 橙 ③ 良好・硬質	台形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。		
37	円筒		① A B C D E H ② 橙 ③ 良好・硬質	低M字形	10	外面はタテハケ、内面はナナメヨコハケが施される。	5%	

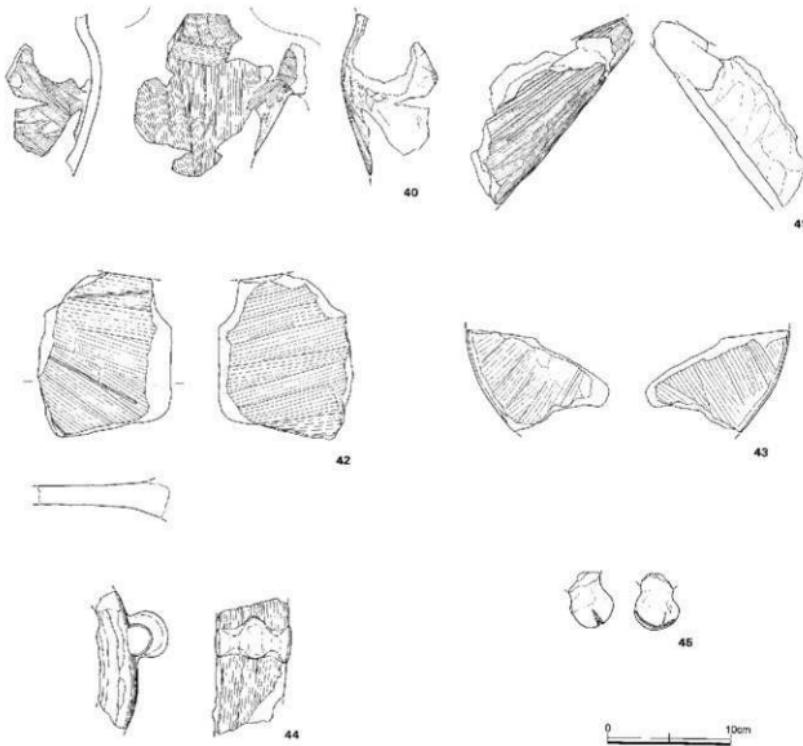
第 17 表 第 2 号墳出土円筒埴輪観察表 (3)



第45図 第2号墳出土形象埴輪（1）



第46図 第2号墳出土形象埴輪(2)



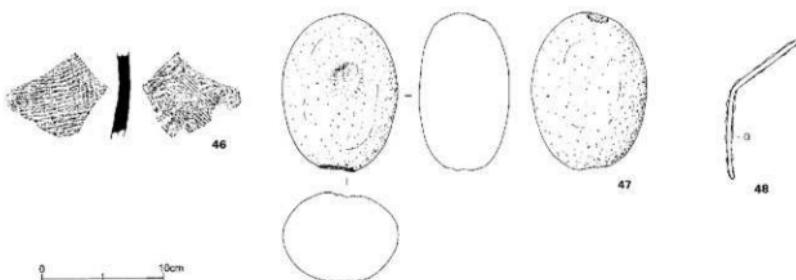
第47図 第2号墳出土形象埴輪(3)

番号	器種	法量(cm)	①胎土 ②色調 ③焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
38	鞠		①ACEH ②赤褐 ③普通・軟質		7	外面はタテハケ、内面はタテハケ、タテナデが施される。	50%	
39	家		①ABC EH ②明赤褐 ③普通・普通		8	内外面共タテヨコハケが施される。	30%	
40	人物		①ABC H ②明赤褐 ③普通・普通		10	内外面共ハケが施される。	10%	
41	鳥		①ABCDEH ②赤褐 ③普通・普通		13	外面はハケ、内面はナデが施される。		
42	鞠		①ABC EH ②にぶい赤褐 ③普通・普通		8	両面共ハケが施される。		

第18表 第2号墳出土形象埴輪観察表(1)

番号	器種	法量 (cm)	① 胎土 ② 色調 ③ 焼成	突帯	ハケメ	成・整形の特徴	残存	備考
43	鞆		① A B C E H ② 赤褐 ③ 普通・普通		7	両面共ハケが施される。		
44	大刀		① A B C E H ② 橙 ③ 普通・普通		8	外面はタテハケ、内面はタテナデが施される。		
45	馬		① A B C E H ② 明赤褐 ③ 良好・普通					

第19表 第2号墳出土形象埴輪観察表(2)



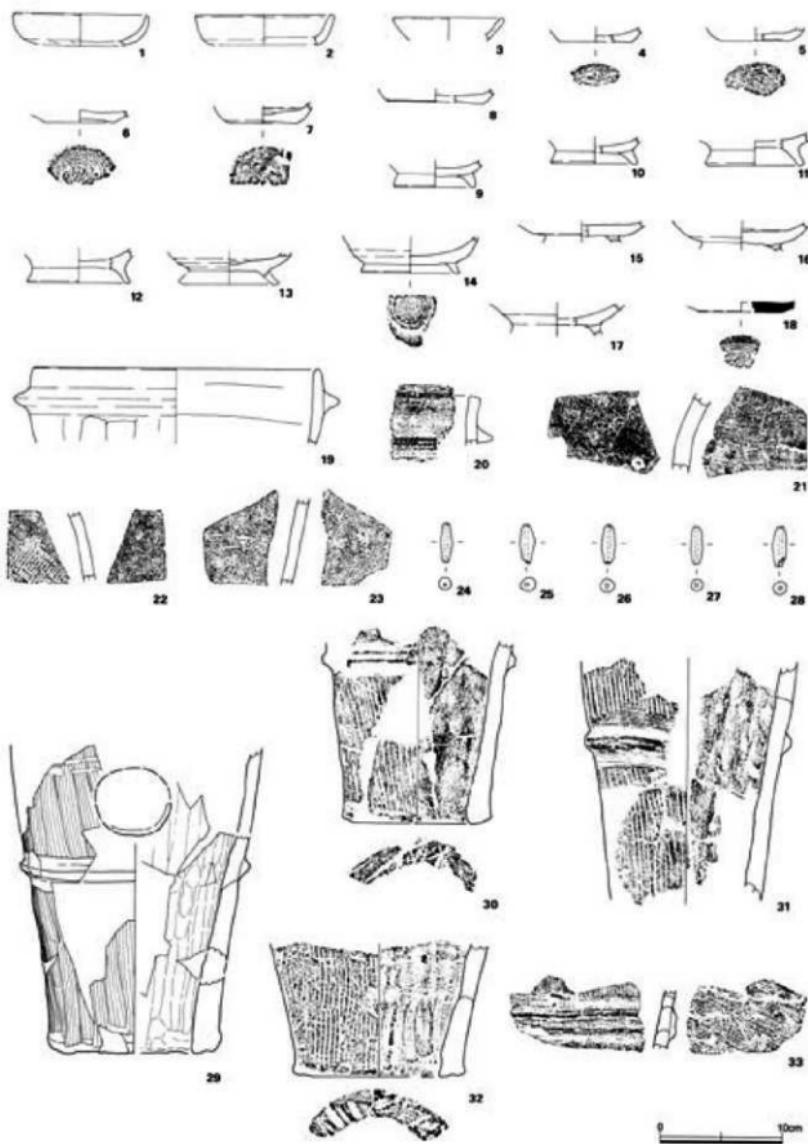
第48図 第2号墳出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
46	須恵器	-	-	-	A C F H	良	灰	-	
47	凹石	長 12.6	幅 9.3	厚 7.3	石材 安山岩				
48	棒状鉄製品	長 11.3	幅 0.4	厚 0.5				重さ 9.93 g	

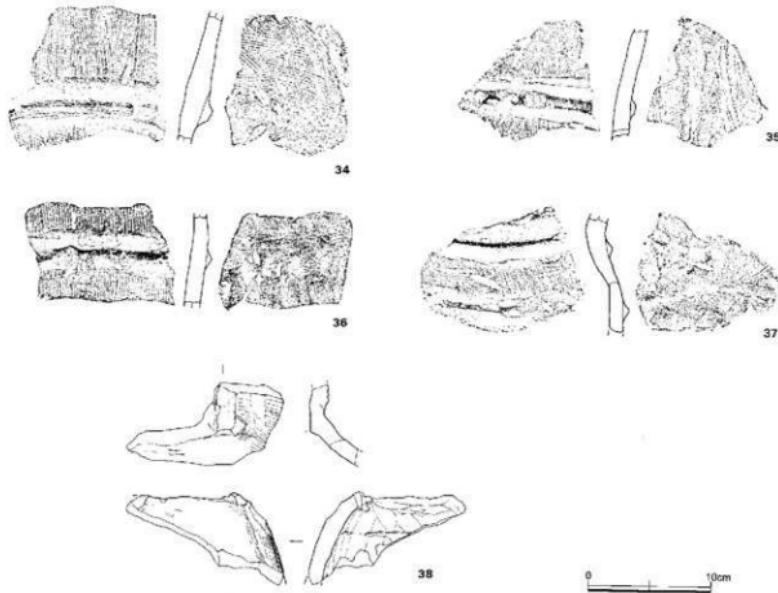
第20表 第2号墳出土遺物観察表



第1号溝調査風景



第49図 第1号溝出土遺物（1）



第50図 第1号溝出土遺物（2）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	土師壺	(10.8)	(2.6)	-	A C E	普	赤褐	15%	
2	口クロ小皿	(11.0)	(2.3)	-	A C E	普	橙	15%	
3	口クロ小皿	(8.8)	-	-	A C D E	普	橙	15%	
4	口クロ小皿	-	-	(5.8)	A B C E	普	橙	15%	
5	口クロ小皿	-	-	(5.4)	A B C D E	普	橙	15%	
6	口クロ小皿	-	-	(5.8)	A C E I	普	橙	10%	
7	口クロ小皿	-	-	(5.6)	A B C D H	普	橙	20%	
8	口クロ小皿	-	-	(7.8)	A B C D	普	明赤褐	15%	
9	口クロ高台椀	-	-	6.4	A B C I	普	明赤褐	20%	
10	口クロ高台椀	-	-	(6.8)	A B C D	普	橙	10%	
11	口クロ高台椀	-	-	(7.6)	A C E	普	橙	10%	
12	口クロ高台椀	-	-	(8.4)	A C F I	普	にぶい 赤褐	5%	
13	口クロ高台椀	-	-	(7.6)	A B C D	普	黄橙	10%	
14	口クロ高台椀	-	-	(8.0)	A C E H	普	橙	10%	
15	口クロ高台椀	-	-	-	A C D	普	橙	15%	内面黒色処理、ミガキ。
16	口クロ高台椀	-	-	-	A B C D	普	橙	15%	
17	口クロ高台椀	-	-	-	A B C D	普	橙	10%	
18	須惠壺	-	-	(7.0)	A B G H	普	灰	5%	
19	羽釜	(23.2)	-	-	A C E H	普	赤褐	-	
20	羽釜	-	-	-	A B C E	良	赤褐	-	

第21表 第1号溝出土遺物観察表（1）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
21	常滑甌	-	-	-	AC	良	にぶい赤褐	-	外面に緑色の釉がかかる。
22	常滑甌	-	-	-	AC	良	暗赤褐	-	
23	常滑甌	-	-	-	AC	良	暗赤褐	-	
24	土鍤	長3.2	幅0.9	厚0.9	A	良	黒褐	100%	
25	土鍤	長3.2	幅1.2	厚1.0	ABE	普	にぶい橙	100%	
26	土鍤	長3.1	幅1.0	厚1.0	ABE	普	にぶい橙	100%	
27	土鍤	長3.1	幅0.9	厚1.0	ACE	良	褐灰	100%	
28	土鍤	長3.3	幅1.0	厚1.0	ABE	普	にぶい橙	95%	
29	円筒埴輪	-	-	14.0	ABCH	普	明赤褐	25%	ハケメ6本 / 2cm
30	円筒埴輪	-	-	(12.0)	ABCH	普	明赤褐	10%	ハケメ5本 / 2cm
31	円筒埴輪	-	-	-	ABCDEH	普	赤褐	15%	ハケメ5本 / 2cm
32	円筒埴輪	-	-	(14.0)	ABCDEH	普	橙	5%	ハケメ5本 / 2cm
33	円筒埴輪	-	-	-	ACH	良	褐灰	-	ハケメ11本 / 2cm
34	円筒埴輪	-	-	-	ACFH I	不良	明赤褐	-	ハケメ9本 / 2cm
35	円筒埴輪	-	-	-	ABCDEH	普	明赤褐	-	ハケメ9本 / 2cm
36	円筒埴輪	-	-	-	ACH I	不良	橙	-	ハケメ9本 / 2cm
37	朝顔型埴輪	-	-	-	ACFH I	不良	橙	-	ハケメ10本 / 2cm
38	象形埴輪	-	-	-	ABCEH	不良	橙	-	ハケメ6本 / 2cm

第22表 第1号墳出土遺物観察表(2)

## c 穴建物跡

### 第1号穴建物跡 (第51・52図)

調査区北西部に位置し、第1号墳周縁上に構築される。第1号墳周縁、第2号穴建物跡を切る。平面形は東西に長い長方形で、長軸4.15m、短軸2.4mを測る。主軸方位はN-10°-Wである。

床面は確認面から33cmの深さである。壁溝は確認されなかった。カマドは北西隅に造られる。袖は地山削り出しで、先端に石が置かれる。右側の袖のみ存在する。燃焼部は床面より7cm深くなる。燃焼部両側面には、片岩が貼り付けられている。カマド左前からは、径30cm、床面からの深さ20cmのピットが1基確認された。覆土には灰が含まれる。

造構の時期は、11世紀頃と推定される。

### 第1号穴建物跡出土遺物 (第53・54図、第23表)

図示できた遺物は、第53図1～第54図25である。第53図1～11はロクロ土師器で、1・7・8は小皿、2～6は杯、9～11は高台椀である。12は須恵器である。10～18は土師器甌、第54図19は羽釜、20は鋤

先である。

21～25は埴輪である。ほとんどは第1号墳周縁からの流れ込みであろう。21～24は円筒埴輪、25は朝顔形埴輪である。

### 第2号穴建物跡 (第51・52図)

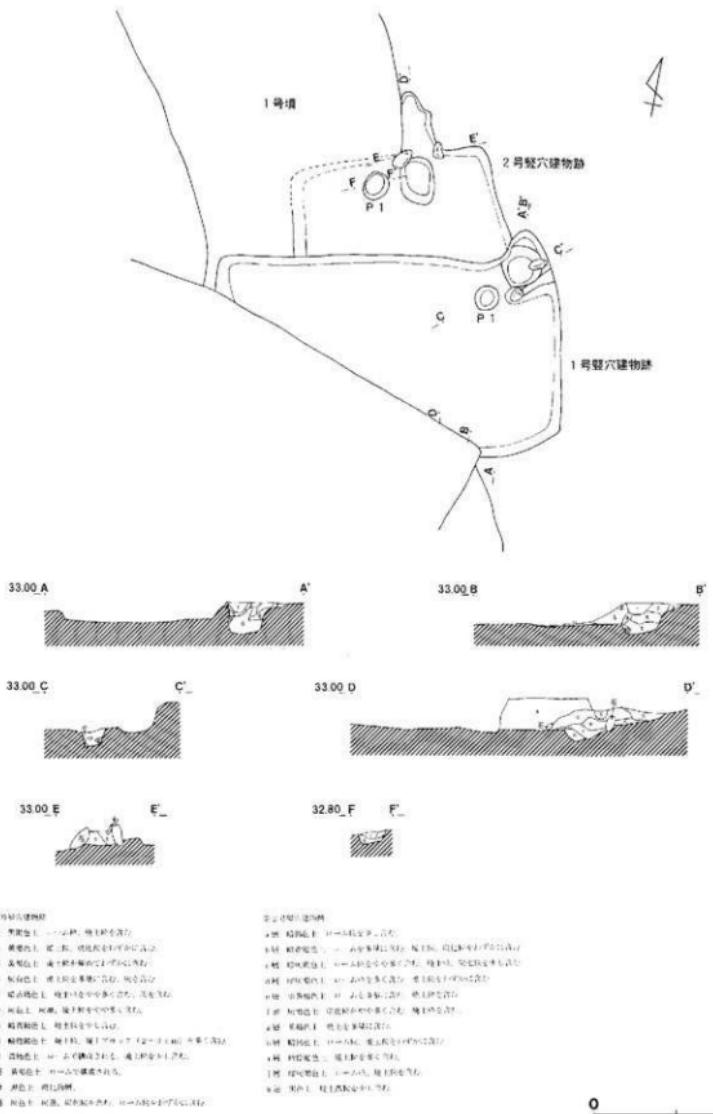
調査区北西部に位置し、第1号墳周縁上に構築される。第1号墳周縁を切り、第1号穴建物跡に切られる。平面形は方形で、一辺2.55mを測る。主軸方位はN-15°-Wである。

床面は確認面から30cmの深さである。壁溝は確認されなかった。カマドは北壁に造られる。袖は河原石による。支脚と思われる石が出土した。カマド左脇には、径33cm、床面からの深さ15cmのピットが1基確認された。覆土には焼土が多く含まれる。

造構の時期は、11世紀頃と推定される。

### 第2号穴建物跡出土遺物 (第55図、第24表)

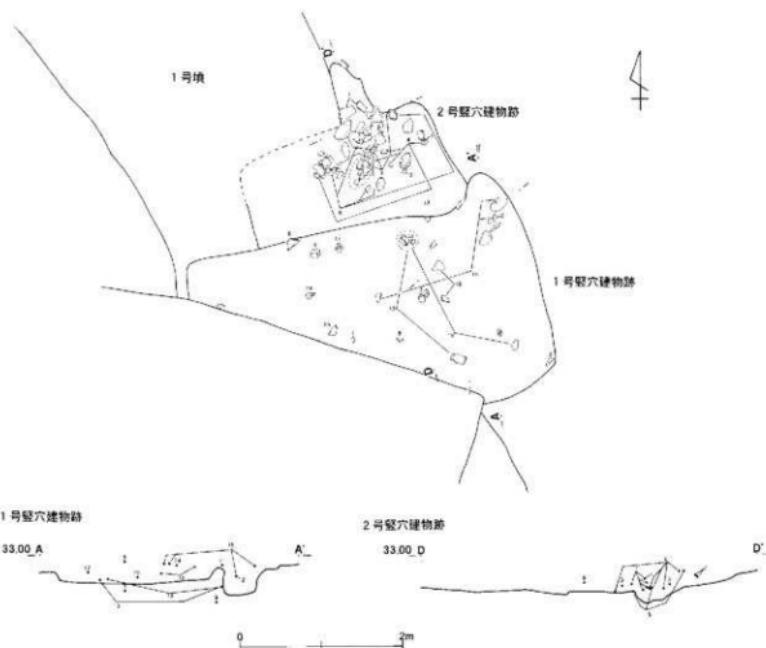
図示できた遺物は、第55図1～8である。1～4は



第51図 第1・2号竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡  
 1層 黒褐色土、一ノ二種、砂利含少量  
 2層 黑褐色土、底二層、成層状分布する古土壤  
 3層 黑褐色土、高砂率水稲土で1ノ2種の混在  
 4層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 5層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 6層 黑褐色土、成層、成層状分布する古土壤  
 7層 黑褐色土、成層状分布する古土壤  
 8層 黑褐色土、成層、成層状分布する古土壤  
 9層 黑褐色土、成層、成層状分布する古土壤  
 10層 黑褐色土、成層状分布する古土壤  
 11層 黑褐色土、成層状分布する古土壤  
 12層 黑褐色土、成層、成層状分布する古土壤

第2号竪穴建物跡  
 1層 黑褐色土、一ノ二種、砂利含少量  
 2層 黑褐色土、一ノ二種、成層状分布する古土壤  
 3層 黑褐色土、一ノ二種、成層状分布する古土壤  
 4層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 5層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 6層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 7層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 8層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 9層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 10層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 11層 黑褐色土、成層状分布する古土壤、地合古土壤  
 12層 黑褐色土、成層状分布する古土壤



第52図 第1・2号竪穴建物跡遺物出土状況

ロクロ土師器で、1～3は小皿、4は高台碗である。5・6は羽釜、7は土師器甕である。8は円筒埴輪である。

#### 第3号竪穴建物跡（第56・57図）

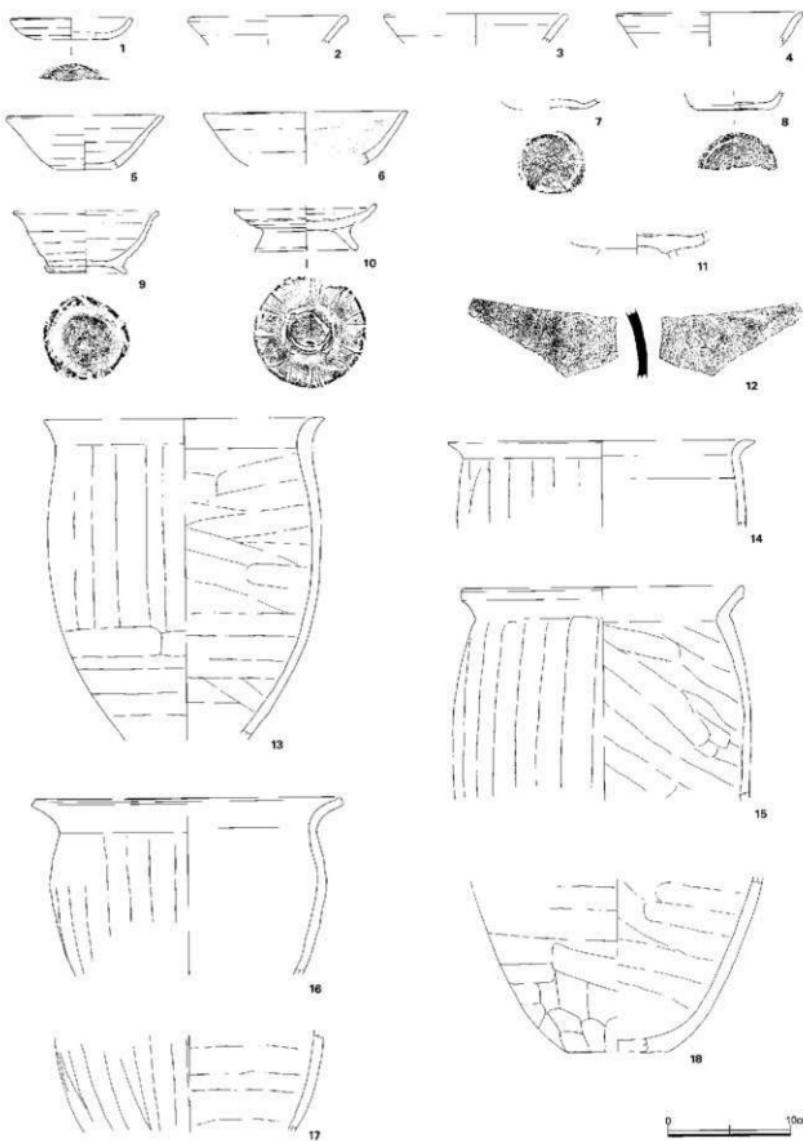
調査区北西部に位置する。第1号墳周塁上に構築され、第1号墳周塁を切る。平面形は方形で、一辺2.5mを測る。主軸方位はN-10°-Wである。

床面は確認面から22cmの深さである。壁溝は確認されなかった。カマドは北東隅に造られる。袖は左袖のみ存在し、石を用いている。カマド前面には、径25cm、床面からの深さ10cmのピットが1基確認された。

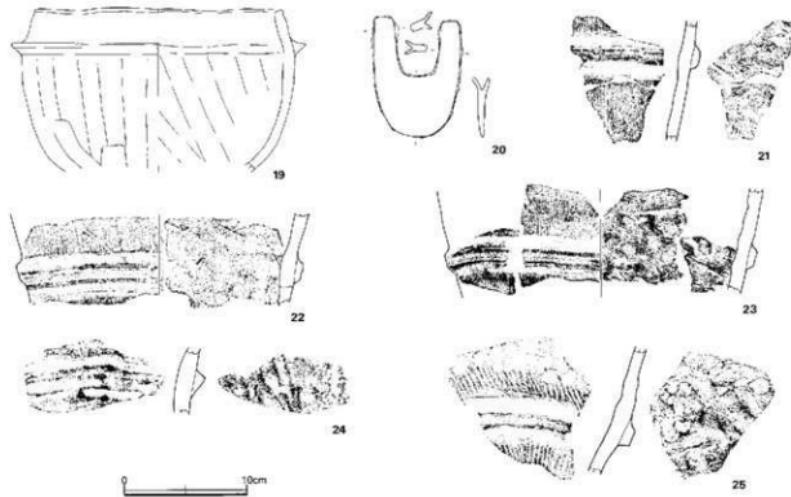
造構の時期は、11世紀頃と推定される。

#### 第3号竪穴建物跡出土遺物（第58図、第25表）

図示できた遺物は、第58図1～6である。1・2はロクロ土師器小皿である。3・4は土師器甕、5は土鍤、6は円筒埴輪である。



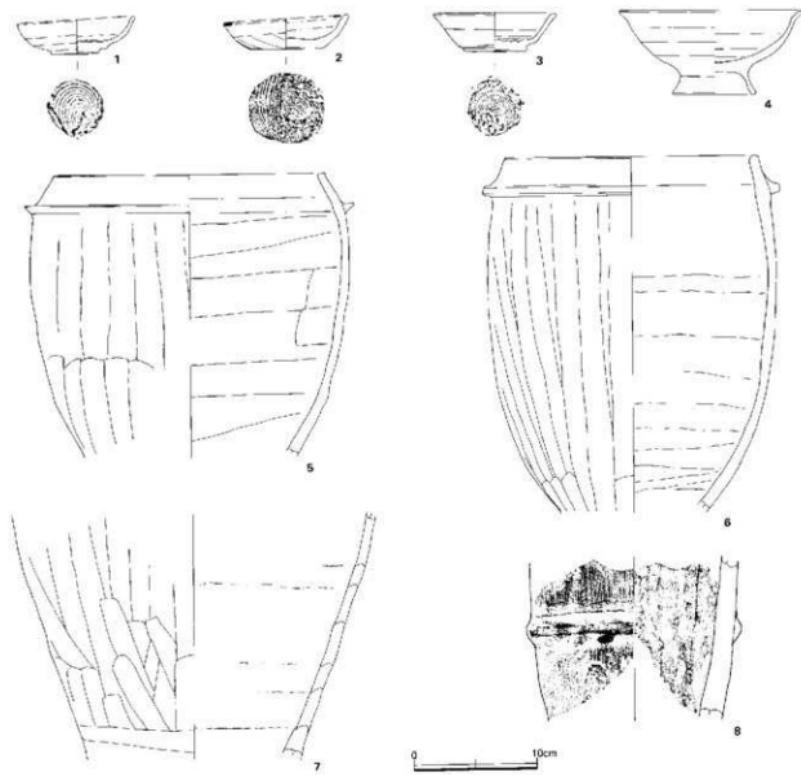
第53図 第1号竪穴建物跡出土遺物（1）



第54図 第1号竪穴建物跡出土遺物（2）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	口クロ小皿	(10.0)	1.8	(5.0)	ABCDE	普	橙	40%	
2	口クロ环	(12.8)	-	-	ABCDE	普	橙	10%	
3	口クロ环	(14.8)	-	-	ABDE	普	黄橙	10%	
4	口クロ环	(15.0)	-	-	ABCDEH	良	橙	10%	
5	口クロ环	(12.6)	(4.4)	(4.8)	ABDE	普	橙	25%	
6	口クロ环	(16.6)	-	-	ABCE	普	橙	-	内面ミガキ。
7	口クロ小皿	-	-	5.6	ABCE	普	橙	30%	
8	口クロ小皿	-	-	(6.0)	ACDE	良	暗褐	20%	
9	口クロ高台椀	11.6	5.0	6.6	ABCDE	普	橙	90%	
10	口クロ高台椀	-	-	(8.2)	ABCDE	普	橙	40%	
11	口クロ高台椀	-	-	-	ABCDE	普	橙	25%	
12	須惠甕	-	-	-	ACF	良	青灰	-	
13	土師甕	(22.8)	-	-	ABCDEH	良	明赤褐	20%	
14	土師甕	(24.8)	-	-	ABCEH	良	明赤褐	5%	
15	土師甕	(22.8)	-	-	ACDE	良	赤褐	20%	
16	土師甕	(24.8)	-	-	ABCDEH	良	明赤褐	15%	
17	土師甕	-	-	-	ACDEH	普	にぶい橙	5%	内面に煤か付着。
18	土師甕	-	-	(8.4)	ABCDEH	普	にぶい橙	10%	
19	羽釜	(20.2)	-	-	ABCDEH	普	橙	25%	張出部下に煤が付着。
20	鋤先	長 9.5 幅 6.9 厚 0.6							重さ 97.42 g
21	円筒埴輪	-	-	-	ABCEH	良	橙	-	ハケメ 10 本 / 2 cm
22	円筒埴輪	-	-	-	ABCEH	良	明赤褐	-	ハケメ 10 本 / 2 cm
23	円筒埴輪	-	-	-	ABC H I	良	橙	-	ハケメ 9 本 / 2 cm
24	円筒埴輪	-	-	-	ABCDE	不良	明赤褐	-	
25	朝顔型埴輪	-	-	-	ABC H	不良	明赤褐	-	ハケメ 6 本 / 2 cm

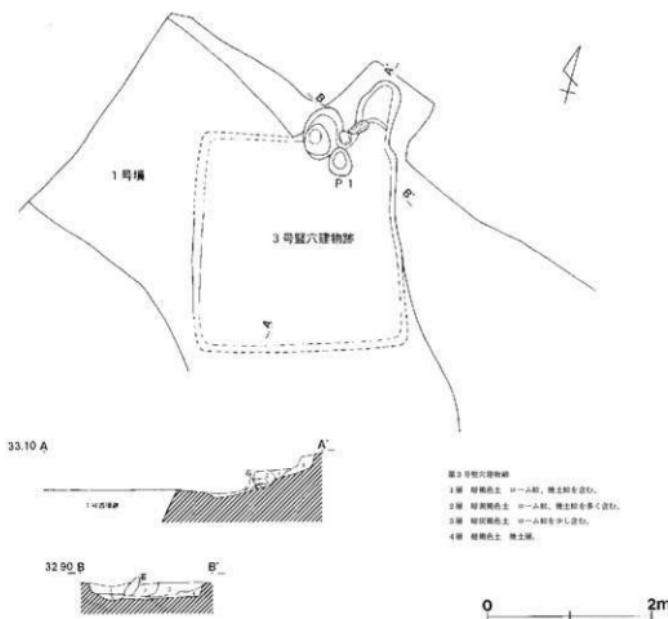
第23表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表



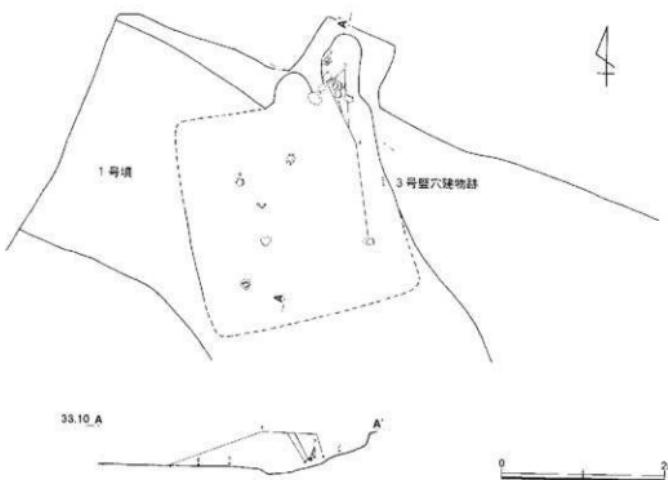
第55図 第2号竪穴建物跡出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	口クロ小皿	9.5	2.8	3.8	ABCDE	良	橙	90%	
2	口クロ小皿	10.0	2.4	5.9	ABCDE	普	橙	100%	口縁部に煤が付着。
3	口クロ小皿	9.8	3.1	5.0	ABCDE	良	橙	60%	
4	口クロ高台碗	14.8	6.9	6.5	ABCDE	普	赤褐	90%	
5	羽釜	(22.0)	-	-	ABCDEH	普	赤褐	30%	
6	羽釜	(20.6)	-	-	ABCDEH	普	赤褐	30%	
7	土師甕	-	-	-	ACDEH	普	橙	20%	
8	円筒埴輪	-	-	-	ABCH I	普	赤褐	10%	ハケ×10本 / 2cm

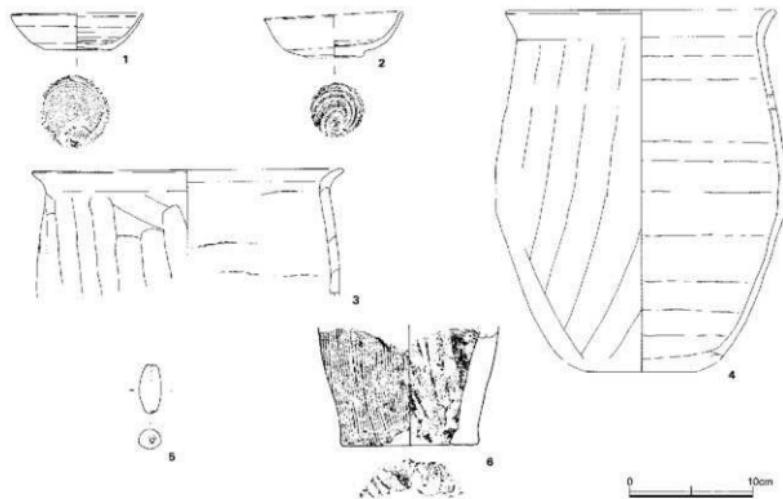
第24表 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表



第 56 図 第 3 号竪穴建物跡



第 57 図 第 3 号竪穴建物跡遺物出土状況



第58図 第3号竪穴建物跡出土遺物

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	口クロ小皿	9.7	2.9	5.3	ABCE	普	黄橙	95%	
2	口クロ小皿	11.3	3.4	4.5	ACE	良	赤褐	90%	
3	土師甕	(25.4)	-	-	ABCEH	普	暗褐	10%	
4	土師甕	(21.6)	(29.4)	-	ABCEH I	良	橙	25%	
5	土錘	長4.0	幅1.7	厚1.6	ACE	普	暗褐	100%	
6	円筒埴輪	-	-	(11.0)	ABCH	良	赤褐	5%	ハケメ9本 / 2cm

第25表 第3号竪穴建物跡出土遺物観察表

## d 土 坑

### 第1号土坑 (第59図)

調査区中央部に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸は不明瞭だが、短軸は77cmを測る。壁は急角度で立ち上がるが、西側は緩やかに立ち上がる。確認面からの深さは40cmで、主軸方位はN-75°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第2号土坑 (第59図)

調査区北部に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸232cm、短軸102cmを測る。底面は西に向かってや

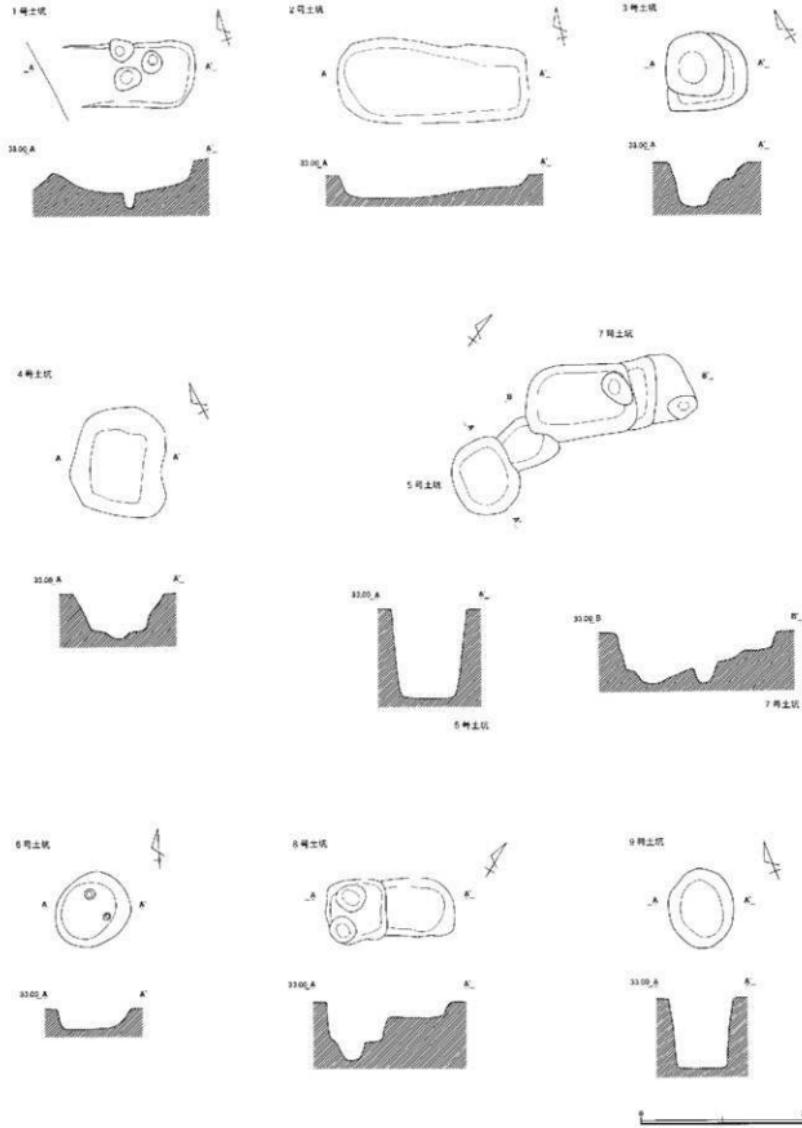
や深くなり、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは28cmで、主軸方位はN-75°-Wである。

図示できる遺物は出土しなかった。

### 第3号土坑 (第59図)

調査区南部に位置する。平面形は方形を呈し、一辺約1mを測る。2基の土坑が重複している可能性がある。確認面からの深さは、最深部で55cmを測る。主軸方位はN-30°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。



第59図 土坑実測図

#### 第4号土坑（第59図）

調査区南部に位置する。平面形は長方形で、長軸133cm、短軸108cmを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面は中央部がわずかに深くなる。確認面からの深さは54cmで、主軸方位はN-30°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第5号土坑（第59図）

調査区南部に位置する。平面形は梢円形で、長径95cm、短径76cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは108cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第6号土坑（第59図）

調査区北西部に位置する。平面形は円形で、一辺約90cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁は斜めに立ち上がる。確認面からの深さは25cmである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第7号土坑（第59図）

調査区南部に位置する。平面形は長方形で、長軸205cm、短軸88cmを測る。底面は西に向かって階段状に深くなる。確認面からの深さは、最深部で63cmを

測る。主軸方位はN-40°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

#### 第8号土坑（第59図）

調査区南部に位置する。平面形は長方形であるが、2基の土坑が重複しているものと思われる。長軸158cm、短軸70cmを測る。西側は一段深く確認面からの深さは70cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。東側は確認面からの深さ20cmを測る。主軸方位はN-60°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

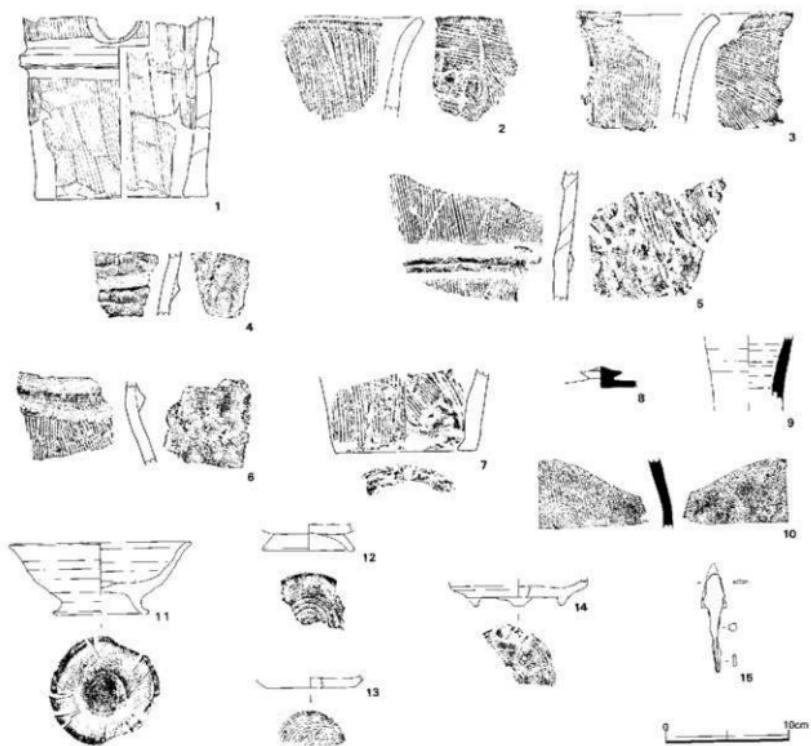
#### 第9号土坑（第59図）

調査区南部に位置する。平面形は梢円形で、長径98cm、短径80cmを測る。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。確認面からの深さは86cmを測る。主軸方位はN-10°-Eである。

図示できる遺物は出土しなかった。

第26表 調査区出土遺物観察表

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	円筒埴輪	-	-	(14.0)	ABCH	普	にふい櫻	15%	ハケメ7本/2cm
2	円筒埴輪	-	-	-	AH	良	灰赤	-	ハケメ8本/2cm
3	円筒埴輪	-	-	-	ABCH	普	赤褐色	-	ハケメ8本/2cm
4	円筒埴輪	-	-	-	ABCH	良	赤褐色	-	ハケメ17本/2cm
5	円筒埴輪	-	-	-	ABCH	普	明赤褐色	-	ハケメ9本/2cm
6	朝顔型埴輪	-	-	-	ABCH	良	明赤褐色	-	ハケメ8本/2cm
7	円筒埴輪	-	-	(11.4)	ABCH	普	橙	-	ハケメ8本/2cm
8	須恵蓋	-	-	-	ACFH	良	灰	5%	
9	須恵長頸瓶	-	-	-	AC	良	灰	-	
10	須恵甕	-	-	-	ACFH	良	灰	-	
11	口クロ高台椀	15.0	5.9	7.6	ACE I	普	にふい櫻	80%	
12	口クロ高台椀	-	-	(7.4)	ABCE	普	橙	10%	
13	口クロ小皿	-	-	7.0	ACE	普	にふい櫻	10%	
14	陶器鉢	-	-	(8.2)	A	良	黄橙	10%	
15	鉄鎌	長(9.0)	幅1.8	厚0.6					重さ 7.35 g



第 60 図 調査区出土遺物



調査前の風景

## V 調査のまとめ

### 1 居立遺跡

今回の調査では、旧城北川の跡とその間近に造られた堅穴建物跡1棟、土坑4基が確認された。遺構は、古墳時代の洪水に起因すると思われる土壌から掘り込まれており、平面プランの確認は非常に困難であった。しかし、遺物は非常に多く、遺構の遺存状態は非常に良好であった。特にカマドの残りは良く、ほぼ使用時の状態であった。袖の構築方法は特殊で、外面からの被熱により硬化していた。本堅穴建物跡は床面上の敷物が炭化していたものの、焼失建物とは異なる。カマド構築時に、意図的に熱を加えて構造を強化したと考えられる。これは、周辺の土壌に砂を多く含むことが関係している。埼玉県埋蔵文化財調査事業団による上武バイパス建設に伴う調査で、居立遺跡の北に隣接する城北遺跡が調査されているが、地山削り出しによる袖に比較すれば強度の低い造り付け袖を補強するための構築方法が幾つか確認されている（山川1995）。袖の中軸に芯材として径1cm程の竹を立てる方法、糞や糞を用いて袖を形成する方法、袖の先端に糞を倒立させる方法がある。その他に天井構造に関して、第141号住居跡のものは天井粘土上面を加熱硬化させている。また、第71号住居跡の崩落した燃焼部天井は、袖と同質の粘土を挟んで上下両面が硬く焼土化している。今回報告した居立遺跡の例は、これと同様の手法が袖構築の際に用いられたものと考えられる。

### 2 森吉古墳

今回の調査では、溝3条と土坑2基が確認された。森吉古墳の残存する墳丘からは墳形は不明だが、第1号墳は古墳周囲と思われ、そこから推定すると径約32mの造り出し付き円墳、或いは帆立貝形古墳と考えられる。出土遺物は極めて少なく、他時期のものの混入が大部分を占めることから、時期の決定は困難である。

第2号溝からは、馬とみられる骸骨が多く出土した。遺構の時期は中世と推定される。第3号溝は近世のもので、残存する墳丘上にある稻荷祀を区画する溝と思われる。

今回の調査は確認調査であり、調査区設定をトレンドのみにしたため、遺構の状況を明確にすることはできなかった。今後、本古墳の調査を行なう機会があれば、確認調査であった場合でも面的な調査が求められる。

### 3 下郷遺跡

確認された2基の円墳は、いずれも径約20m弱、時期は6世紀前半のものである。埴輪は多量に出土した。それより後の遺構は、第1号溝、第1～3号堅穴建物跡等があるが、中世のものと思われる土坑を除く古代の遺構は、いずれも墳丘部には構築されない。堅穴建物跡3棟は、全て第1号墳の墳丘裾の埋没した周囲上に造られる。また、第1号溝は、第2号墳周囲と合流すると、それに沿って、つまり墳丘裾に沿って折れ曲がっていくと考えられる。つまり、これら古代の遺構が造られる時点では、墳丘は残っていたということができる。

第1号溝は位置関係から、幡羅遺跡正倉院（北）の西辺区画溝の可能性が考えられる。他に確認されている正倉院区画溝とは掘方があり、埋没時期も下るという違いはあるものの、規模や方向は類似しており、正倉院区画溝とすることは可能である。掘り直しが行なわれていることも考えられる。

幡羅遺跡正倉院（北）周辺では古墳跡が多く確認され、正倉院宮に際して破壊されたと思われるものもある。第2次調査では、正倉院（北）の北東隅が調査され、北東隅には古墳が墳丘を残したまま存在していた可能性が考えられる。下郷遺跡の第2号墳が正倉院（北）



第61図 帰羅郡家正倉跡

の北西隅に当たるとすれば、こちらも古墳が墳丘を残したまま存在したことになる。一部では破壊される古墳がありながら、一部は正倉院内に取り込まれる形で古墳が存続する。こうした点は、幡羅郡家正倉跡の景観を復元する上で重要と考えられる。



下郷遺跡調査風景

# 写 真 図 版

## 居立遺跡（第2次）



第1号竪穴建物跡（1）



第1号竪穴建物跡（2）



第1号竪穴建物跡出土状況



第1号竪穴建物跡カマド（1）



第1号竪穴建物跡カマド（2）



第1号竪穴建物跡カマド（3）

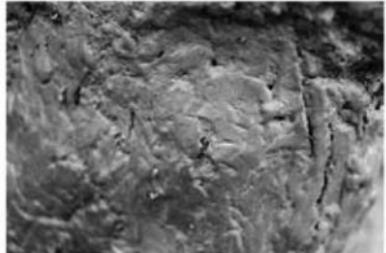


第1号竪穴建物跡カマド（4）

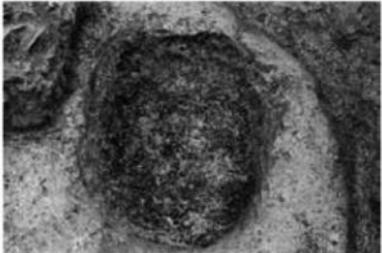


第1号竪穴建物跡カマド袖（1）

## 居立遺跡（第2次）



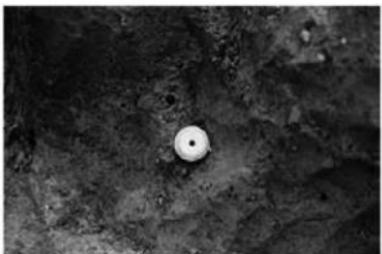
第1号竪穴建物跡力マド袖（2）



第1号竪穴建物跡貯藏穴



第1号竪穴建物跡管玉出土状況



第1号竪穴建物跡紡錘車出土状況



第1号土坑



1号竪力マド袖材



縄文土器、石器



1号竪縦編物石

## 居立遺跡（第2次）



1号竪 1



1号竪 7



1号竪 8



1号竪 12



1号竪 13



1号竪 14



1号竪 15



1号竪 18



1号竪 20



1号竪 22



1号竪 26



1号竪 27



1号竪 32



1号竪 38



1号竪 40



1号竪 41



1号竪 43



1号竪 46

## 居立遺跡（第2次）



1号竪 47



1号竪 48



1号竪 49



1号竪 51



1号竪 52



1号竪 53



1号竪 54



1号竪 55



1号竪 58



1号竪 59



1号竪 60



1号竪 64



1号竪 70



1号竪 72



1号竪 73

## 居立遺跡（第2次）



1号竪 74



1号竪 75



1号竪 77



1号竪 80



1号竪 91



1号竪 92



1号竪 93



1号竪 94



1号土坑 6



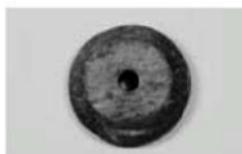
1号竪 96



1号土坑 1



1号土坑 3



1号竪 97



1号土坑 2

森吉古墳



A トレンチ



B トレンチ



C トレンチ



D トレンチ



出土遺物



1号土坑出土遺物

## 下鄉遺跡



調査区全景



第1号墳



第1号墳遺物出土状況（1）



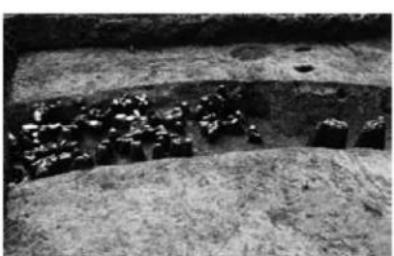
第1号墳遺物出土状況（2）



第1号墳遺物出土状況（3）



第2号墳



第2号墳遺物出土状況（1）



第2号墳遺物出土状況（2）

下郷遺跡



第1号溝



第1号溝遺物出土状況



第1 · 2号溝



第1号竪穴建物跡遺物出土状況



第1号竪穴建物跡



第1号竪穴建物跡カマド



第2号竪穴建物跡遺物出土状況



第2号竪穴建物跡カマド遺物出土状況

## 下郷遺跡



第2号竪穴建物跡カマド



第1・2号竪穴建物跡



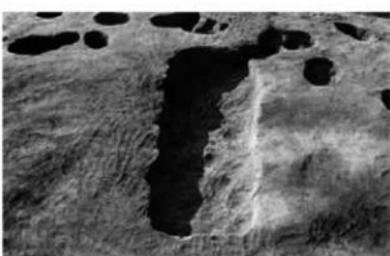
第3号竪穴建物跡



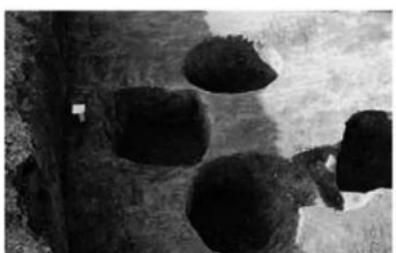
第3号竪穴建物跡カマド



第1号土坑



第2号土坑



第3・5・9号土坑



第6号土坑

下鄉遺跡



第7号土坑



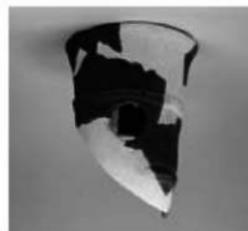
第8号土坑



1号填1



1号填2



1号填3



1号填4



1号填5



1号填12



1号填13



1号填14



1号填15

## 下鄉遺跡



1号填 16



1号填 17



1号填 18



1号填 19



1号填 20



1号填 21



1号填 22



1号填 23



1号填 24



1号填 25



1号填 26



1号填 27

下郷遺跡



1号墳 28



1号墳 29



1号墳 30



1号墳 31



1号墳 32



1号墳 33



1号墳 34



1号墳 35



1号墳 36



1号墳 46 (1)



1号墳 46 (2)



1号墳 47



1号墳 48

## 下鄉遺跡



1号埴 49



1号埴 50



1号埴 51



1号埴 75 (1)



1号埴 75 (2)



1号埴 75 (3)



1号埴 76 (1)



1号埴 76 (2)



1号埴 77 (1)



1号埴 77 (2)

下郷遺跡



1号埴 78



1号埴 80



1号埴 85



1号埴 82 (1)



1号埴出土形象埴輪



1号埴 82 (2)



2号埴 1



2号埴 2



2号埴 3



2号埴 4

## 下郷遺跡



2号埴5



2号埴7



2号埴8



2号埴9



2号埴12



2号埴14



2号埴15



2号埴16



2号埴17



2号埴21



2号埴38

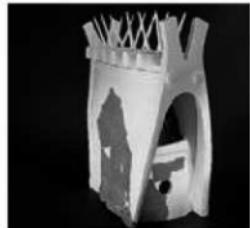
下鄉遺跡



2号墳 39 (1)



2号墳 39 (2)



2号墳 39 (3)



2号墳出土土形象埴輪



1号溝出土土錐



1号溝 29



1号竖 9



1号竖 10



1号竖 13



1号竖 15



1号竖 16

## 下郷遺跡



1号竪19



2号竪1



2号竪3



2号竪2



2号竪4



2号竪5



2号竪6



3号竪1



3号竪2



調査区1



調査区11



鉄製品



縹文土器・石器

# 報告書抄録

ふりがな	いだて(だい2じ)／もりよしこふん／しもごう							
書名	居立(第2次)／森吉古墳／下郷							
副書名								
卷次								
シリーズ名	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第92集							
編著者名	知久裕昭							
編集機関	深谷市教育委員会							
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-3 TEL 048-572-9581							
発行年月日	2007(平成19)年8月31日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所 在 地	コード		北緯 (°'")	東經 (°'")	調査 期間	調査 面積	調査 原因
市町村		遺跡						
いだていさき 居立遺跡 (第2次)	ふかやしむみますだ 深谷市上増田 あさいたて 字居立44-3	11218	176	36 21 28	139 32 85	19980727 ～ 19980814	150 m <sup>2</sup>	個人 住宅
もりよしこふん 森吉古墳	ふかやしむみますだ 深谷市東方 あさひがた 字森吉2980-1	11218	117	36 19 51	139 32 69	19981002 ～ 19981111	110 m <sup>2</sup>	事務所 建設確認
しもこういせき 下郷遺跡	ふかやしむみますだ 深谷市東方 あさひがた 字森吉2980-1、-2	11218	029	36 19 51	139 32 73	19981002 ～ 19981111	650 m <sup>2</sup>	豚舎建設
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項	
いだていさき 居立遺跡 (第2次)	集落	古墳後期	堅穴建物跡 土坑	1棟 4基	土師器 石製品 縄文土器 石器			
もりよしこふん 森吉古墳	古墳	古墳後期	溝 土坑	3条 1基	埴輪 土師器 須恵器 ロクロ土師器			
しもこういせき 下郷遺跡	古墳群 集落	古墳後期 平安	古墳跡 溝 堅穴建物跡 土坑	2基 2条 3棟 9基	埴輪 土師器 須恵器 ロクロ土師器			

---

---

埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書 第92集

居立(第2次)／森吉古墳／下郷

印 刷 平成19年8月27日  
発 行 平成19年8月31日

発 行 埼玉県深谷市教育委員会

---

---